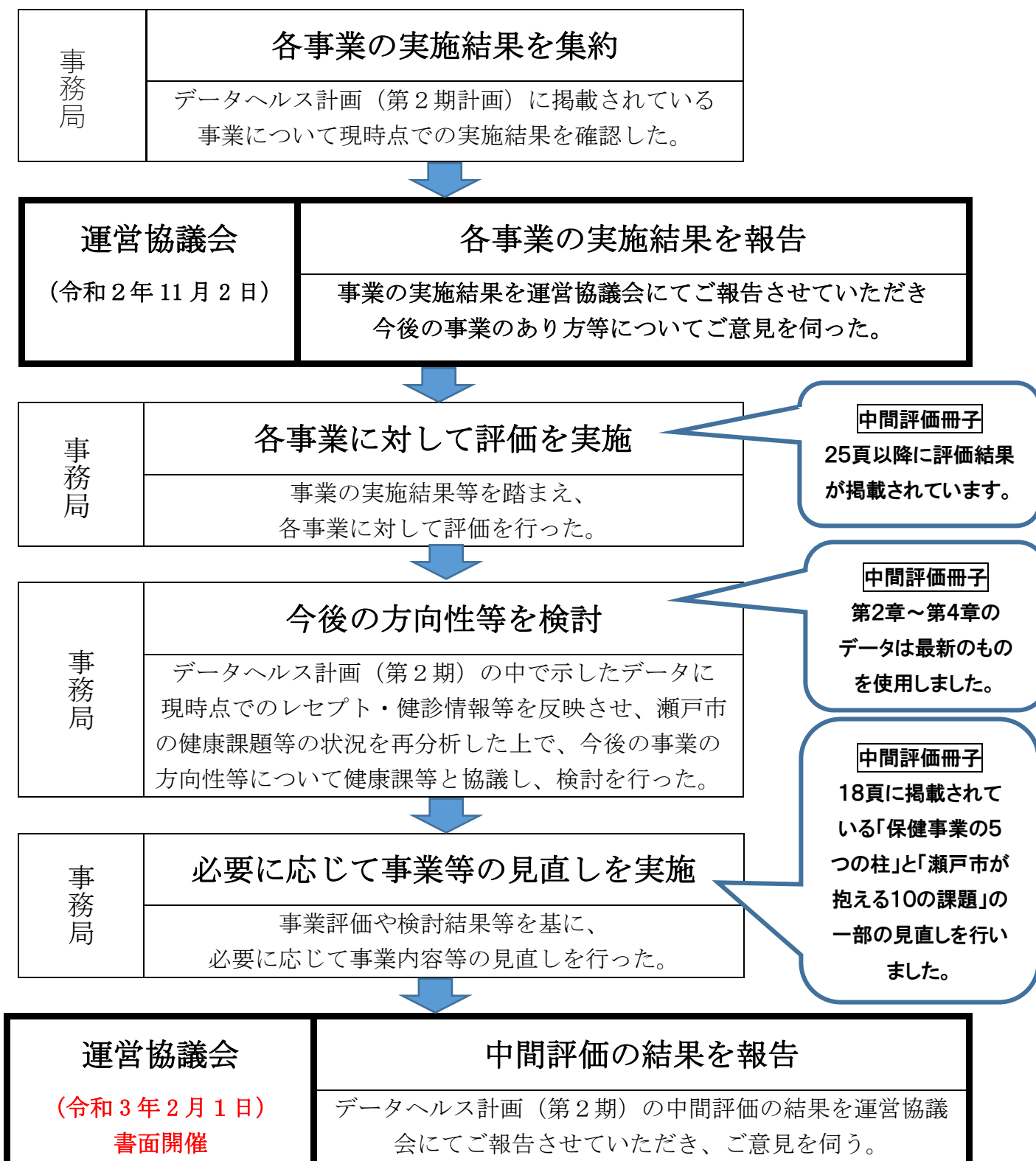


データヘルス計画(第2期)中間評価の進め方と国保運営協議会について



中間評価冊子
25頁以降に評価結果が掲載されています。

中間評価冊子
第2章～第4章のデータは最新のものを使用しました。

中間評価冊子
18頁に掲載されている「保健事業の5つの柱」と「瀬戸市が抱える10の課題」の一部の見直しを行いました。

各事業の評価結果及び見直しを行いました「保健事業の5つの柱」と「瀬戸市が抱える10の課題」についてご確認いただき、ご意見等ございましたらお聞かせいただくと幸いです。

なお、「保健事業の5つの柱」及び「瀬戸市が抱える10の課題」の見直しにつきましては、別紙をご参照ください。

見直し前

目的
市民が健康でいつまでもいきいきと暮らすことができる。

市民・被保険者のあるべき姿(目標): 3つの目標

- 1 自分の健康状態を知ることができる。
- 2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる。
- 3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる。

① 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化

重点事業
・減塩対策事業
・広報活動事業強化

② 健(検)診の強化

重点事業
・特定健診・がん検診の推進
★受診勧奨(生活習慣病予防健診を追加)やアンケートの実施

保健事業の
5つの柱

③ 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施

重点事業
・児童生活習慣病予防対策
・若年層の健康診査(女性の健診、生活習慣病予防健診)

④ 重症化予防対策の実施

重点事業
★特定保健指導
・早期介入保健指導
・早期医療受診勧奨
★糖尿病性腎症重症化予防事業
★重症化リスクの原因調査

⑤ 医療費適正化対策

重点事業
・健康保険制度や適正受診の周知

瀬戸市が抱える10の課題

医療費・介護・死因に関すること

- 1 糖尿病・高血圧症などの生活習慣病が医療費の上位を占める。
- 2 1人あたりの医療費が、愛知県内で高く、年々増加している。
- 3 現代では、脳血管疾患、糖尿病合併症が要介護の原因の多くを占める。
- 4 高額療養費のかかる心疾患等の基礎疾患として、糖尿病・高血圧症が多い。
- 5 がんの医療費は入院外では高額上位で、がん種により差異はあるが死亡率も高い。

疾病の受療数に関すること

- 6 生活習慣病の受療件数は、県平均と比べ多く、若年層からの発症が増加している。
- 7 乳房の悪性新生物(がん)の入院外受療件数が多い。

保健事業に関すること

- 8 特定保健指導を受ける人が少ない。また指導対象者以外にも、血糖・血圧・脂質に関する複数のリスクを持つ人が一定数存在する。
- 9 健(検)診受診状況では、受診率の低い年代・性別がある。
- 10 既存の保健事業は、健康に対し意欲や関心の高い人の参加に偏っている。

3

前回の運営協議会にて委員の皆様からいただいたご意見とデータ分析の結果から、「地域の特性に応じた事業の実施」に変更しました。

2

瀬戸市が抱える課題3や7のように性・年代で疾病状況の傾向が異なるため、「健診結果や医療受診状況を踏まえた健康教育の実施」に変更します。

1

これまでの運営協議会でお伝えしました医療費・レセプトの内容や保健事業の結果から右記の赤字のように変更しました。

見直し後 中間評価冊子 18 ページ参照

目的
市民が健康でいつまでもいきいきと暮らすことができる。

市民・被保険者のあるべき姿(目標): 3つの目標

- 1 自分の健康状態を知ることができる。
- 2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる。
- 3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる。

① 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化

・広報活動事業強化
・地域の特性に応じた事業の実施

② 健(検)診の強化

・特定健診・がん検診の推進
・受診勧奨(生活習慣病予防健診を追加)やアンケートの実施

保健事業の
5つの柱

③ 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施

・若年層の健康診査(女性の健診、生活習慣病予防健診)
・健診結果や医療受診状況を踏まえた健康教育の実施

④ 重症化予防対策の実施

・特定保健指導
・早期介入保健指導
・糖尿病性腎症重症化予防事業
・重症化リスクの原因調査

⑤ 医療費適正化対策

・健康保険制度や適正受診の周知

瀬戸市が抱える10の課題

医療費・レセプトによる疾病状況に関すること

- 1 糖尿病・高血圧症・脂質異常症などの生活習慣病が医療費・レセプト数の上位を占める。
- 2 入院の医療費は、脳血管疾患や虚血性心疾患、慢性腎不全(透析あり)が多くを占める。
- 3 筋・骨格疾患は特に女性に多く、要介護の要因ともなる。
- 4 がんの医療費は入院・入院外とも高く、瀬戸市に限らず日本人の死因第1位である。
- 5 1人あたりの医療費が、愛知県内で高く、年々増加している。

保健事業に関すること

- 6 特定健診の受診率が年々減少している。
- 7 生活習慣病の受療件数は、県平均と比べ多く、若年層からの発症が増加している。
- 8 乳房の悪性新生物(がん)の入院外受療件数が多い。
- 9 特定保健指導を受ける人が少ない。また指導対象者以外にも、血糖・血圧・脂質に関する複数のリスクを持つ人が一定数存在する。
- 10 既存の保健事業は、健康に対し意欲や関心の高い人の参加に偏っている。

瀬戸市国民健康保険データヘルス計画
(第2期計画)
中間評価

素案

令和3年3月
愛知県瀬戸市

第1章 瀬戸市国民健康保険データヘルス計画（第2期計画）中間評価にあたって

1	はじめに	1
2	計画の策定・推進体制	1
3	計画の位置づけ	1
4	計画の期間	1
5	計画の公表	2
6	地域包括ケアに係る取組及びその留意事項	2
7	個人情報の取り扱い	2

第2章 瀬戸市の概要

1	瀬戸市の人口動態	3
2	介護保険の状況	5

第3章 瀬戸市国民健康保険の現状と課題

1	被保険者の構成	7
2	被保険者の医療状況	8
3	医療費の概況	8

第4章 後期高齢者医療制度との連続性

第5章 健康課題と対策の方向性

第6章 保健事業の実施状況

1	特定健康診査	19
2	特定保健指導（動機づけ支援・積極的支援）	22
3	生活習慣病予防健康診査	23
4	糖尿病性腎症重症化予防事業	24
5	保健事業の実施状況	25

第1章 瀬戸市国民健康保険データヘルス計画（第2期計画）中間評価にあたって

1 はじめに

瀬戸市国民健康保険データヘルス計画（第2期計画）は、平成30年3月に第1期計画を評価し、その結果を踏まえて策定したものです。

我が国の総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は年々増加し、今後ますます高齢化の進展が見込まれる中、できる限り長く健康で自立した生活が送れるよう、健康の保持増進に取り組むことの重要性が高まっています。また、こうした取り組みは生活の質の維持向上に大きく影響し、結果として医療費の適正化、ひいては医療保険制度の健全かつ安定した財政運営に資すると考えられています。

こうした背景を踏まえ、瀬戸市においても、健康・医療情報に基づき課題を明確にしたうえでPDCAサイクルに沿った効果的な保健事業を実施することが必要です。そのため、計画前半期の実績と課題を検討し、後半期の保健事業の継続・充実を図ることで、引き続き瀬戸市国民健康保険被保険者（以下「被保険者」という。）の健康維持・増進を図ります。また、これにより前期高齢者世代から連続した保健事業を展開し、本市の後期高齢者世代の健康管理に波及効果があると考えます。

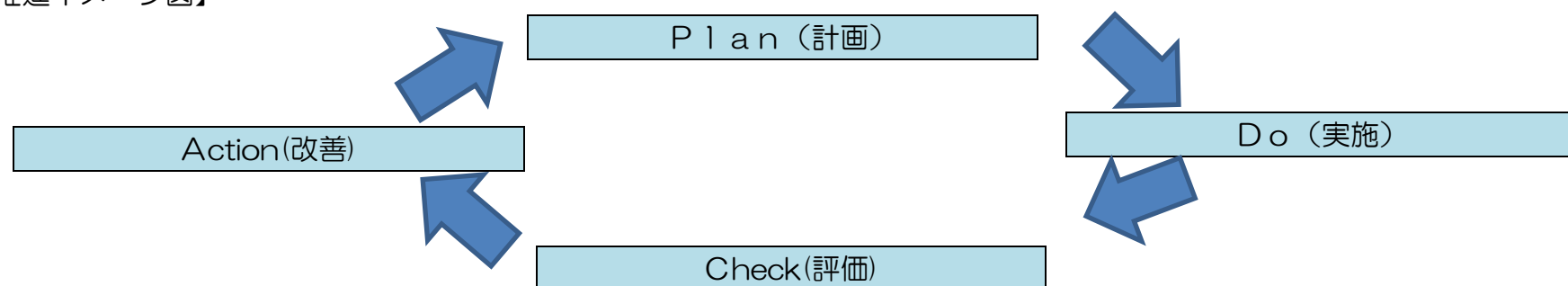
2 計画の策定・推進体制

健康の維持・増進を図るためには、健康への意識づくりや疾病予防など、幅広い取り組みが必要となるため、計画の策定・実施にあたっては、庁内関係部署はじめ医療機関、関係団体との連携を図りつつ進めていきます。

また、計画の策定は、被保険者代表、保険医・保険薬剤師代表、公益代表を構成員とする瀬戸市国民健康保険運営協議会にその内容を諮り、事業の実施にあたっては、毎年度、その評価を瀬戸市国民健康保険運営協議会に報告し点検することにより、次年度以降の取り組みを確実に進めるとともに、必要に応じてこの計画の内容を実態に即した効果的なものに見直していきます。

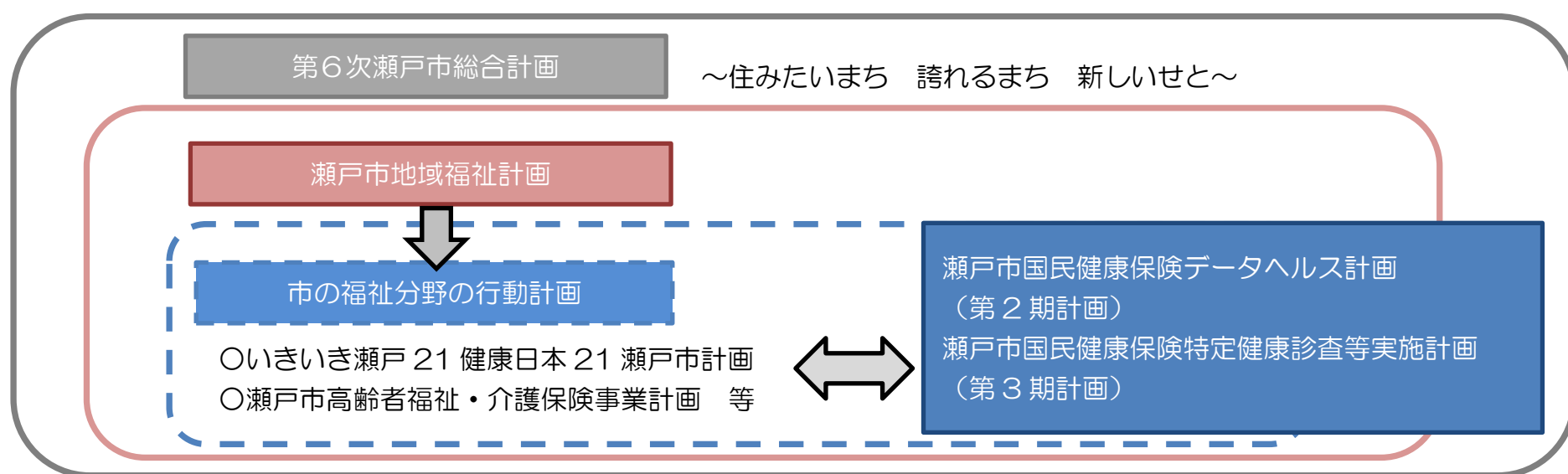
第1期計画に引き続き、効果的・効率的な保健事業を継続するため、次のようなPlan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の繰り返しにより進めていきます。

【計画推進イメージ図】



3 計画の位置づけ

この計画は、「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21【第2次】）」に示された基本方針及び「第6次瀬戸市総合計画」等を踏まえるとともに、「いきいき瀬戸21 健康日本21 瀬戸市計画」等との整合を保ち、連携を図ります。



4 計画の期間

第2期計画の期間は、平成30年度から令和5年度までの6年間とし、瀬戸市国民健康保険特定健康診査等実施計画（第3期計画）と一体的に連動して運用を行います。

	H20年度	H24年度	H25年度	H28年度	H29年度	H30年度	R5年度
データヘルス計画				第1期計画 (H28~29年度)		第2期計画 (H30~R5年度)	
特定健診等実施計画	第1期計画 (H20~24年度)		第2期計画 (H25年度~29年度)			第3期計画 (H30~R5年度)	

5 計画の公表

この計画は瀬戸市ホームページに掲載し公表するとともに、計画内容について広報せと等への掲載や関係団体等に対する周知を図ります。

6 地域包括ケアに係る取組及びその留意事項

健康・医療情報と介護情報を活用するなどして分析を行い、今後も進行する被保険者の高齢化に向け、高齢層の被保険者の暮らしを支えるための課題の抽出に努めるとともに、介護予防の取組みと連携した生活習慣病の発生予防や重症化予防対策の実施、地域で被保険者の健康づくりを支える連携促進のため瀬戸市保健・医療・福祉総合調整推進会議へ参画し情報共有等を図ります。

なお、今後、分析結果に関する知見や、国の動向により、必要な場合には計画の見直しを行うこととします。

7 個人情報の取り扱い

この計画に基づく事業実施に伴う個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に関する法律及び同法に基づくガイドライン、瀬戸市個人情報保護条例、瀬戸市個人情報保護条例施行規則等を遵守し、適正に管理します。

また、国民健康保険法第120条の2に基づき、瀬戸市の職員及び瀬戸市の職員であった者は、事業実施の際に知り得た個人情報に関する守秘義務規程を遵守します。

事業を外部委託により実施する場合は、瀬戸市個人情報保護条例等に基づき、個人情報の厳重な管理や目的外使用の禁止等を契約書に定めるとともに、委託先の契約遵守状況を監理していきます。

第2章 瀬戸市の概要

1 瀬戸市の人口動態

(1) 人口の推移と将来推計

表1-1のとおり令和2年4月1日現在の総人口は129,410人で、前年を140人(0.1%)下回り、10年連続の減少となるものの、減少の傾向は以前と比較して緩やかになりました。一方、75歳以上の後期高齢者人口は年々増加しています。

また、瀬戸市人口ビジョンによる将来推計は表1-2のとおり、今後も総人口は減少する一方、65歳以上の人口は増加することが見込まれ、総人口に占める65歳以上の割合は令和7年の30.9%から令和25年には40.1%に上昇し、超高齢社会が続く見通となっています。

表1-1 瀬戸市の人口推移

(単位：人)

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
0歳～14歳	16,923	16,669	16,511	16,297	16,088
15歳～64歳	77,088	76,315	75,685	75,155	75,027
65歳～74歳	20,046	19,782	19,344	18,843	18,302
75歳～	16,619	17,532	18,360	19,255	19,993
総人口	130,676	130,298	129,900	129,550	129,410

出典：住民基本台帳（各年4月1日現在）

表1-2 瀬戸市の人口将来推計

(単位：人)

	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和25年 (2045年)
0歳～14歳	13,324	11,906	11,168	10,725	10,159
15歳～64歳	72,375	68,470	62,892	55,810	50,704
65歳～74歳	14,699	14,620	16,333	18,343	17,600
75歳～	23,571	23,879	22,773	22,354	23,217
総人口	123,969	118,875	113,166	107,232	101,680

出典：瀬戸市人口ビジョン（平成28年2月）

(2) 平均寿命と健康寿命

瀬戸市の令和元年の平均寿命は、図1-1のとおり男性81.4歳、女性86.7歳です。また健康寿命は男性79.9歳、女性83.7歳です。「健康日本21（第二次）」においても、「平均寿命の延伸を上回る健康寿命の延伸」が目標とされるように、単に健康寿命を延伸するだけでなく、個々人の生活の質の向上や社会・経済的な影響を考えるうえで、平均寿命との差（「不健康期間」）を短縮することが重要です。瀬戸市は平成28年と令和元年を比較した平均寿命と健康寿命の差は、男女ともに0.1歳広がっています。疾病予防、健康増進によってこの差を短縮することができれば、個人の生活の質の低下を防ぎ、社会保障負担の軽減も期待できます。

なお、本データは国保データベースシステム（以下、KDBとする。）による「平均自立期間」において、市町村単位の平均自立期間（要介護2以上）を「健康寿命」に、平均余命を「平均寿命」に置き換えて表記しています。瀬戸市・愛知県（図1-2）・国（図1-3）を同様の統計情報で比較できるものとして、本計画の最終評価でも把握していきます。

図1-1 平均寿命と健康寿命（瀬戸市）

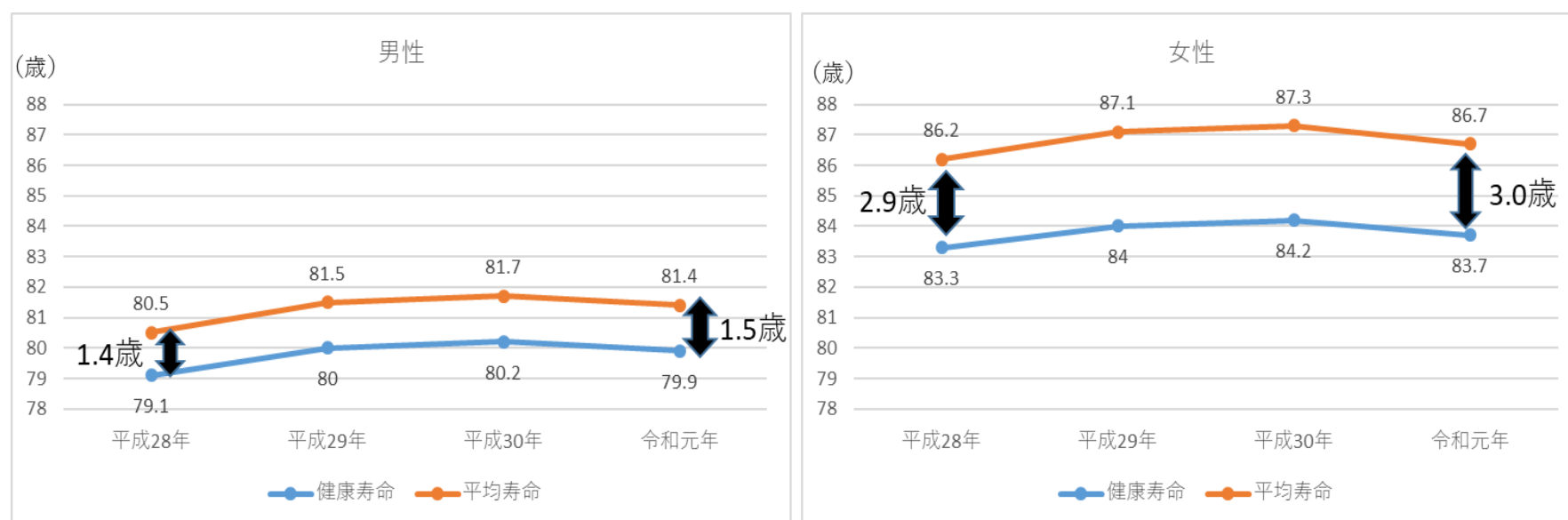


図1-2 平均寿命と健康寿命（愛知県）

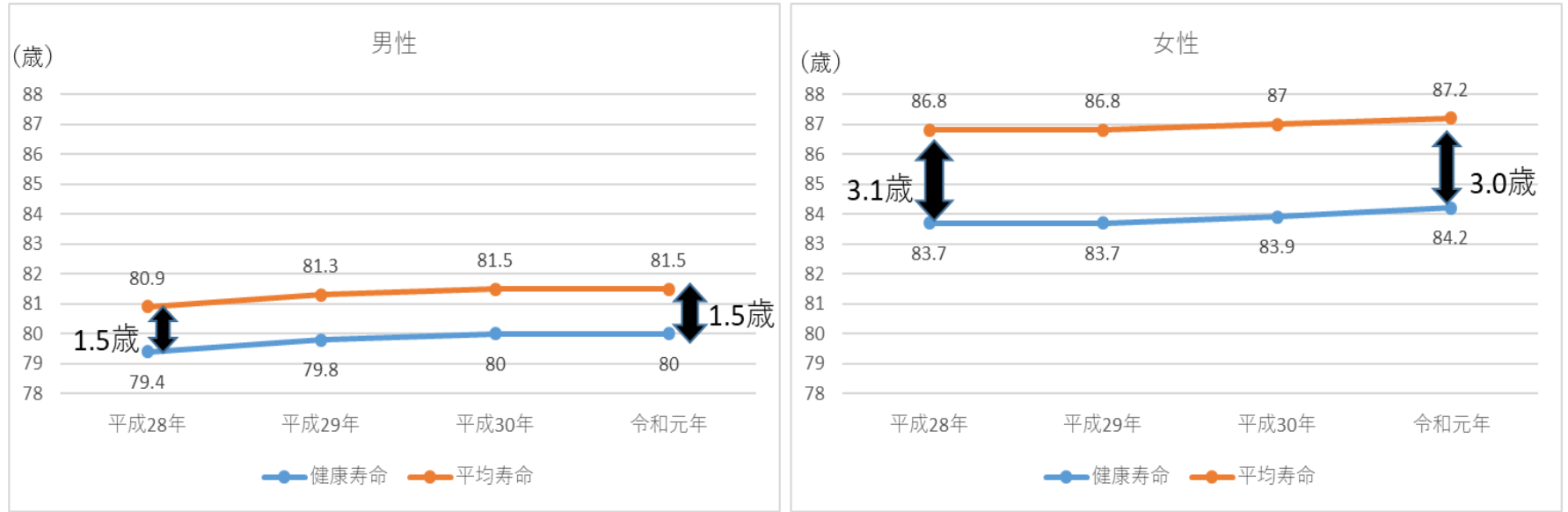


図1-3 平均寿命と健康寿命（国）

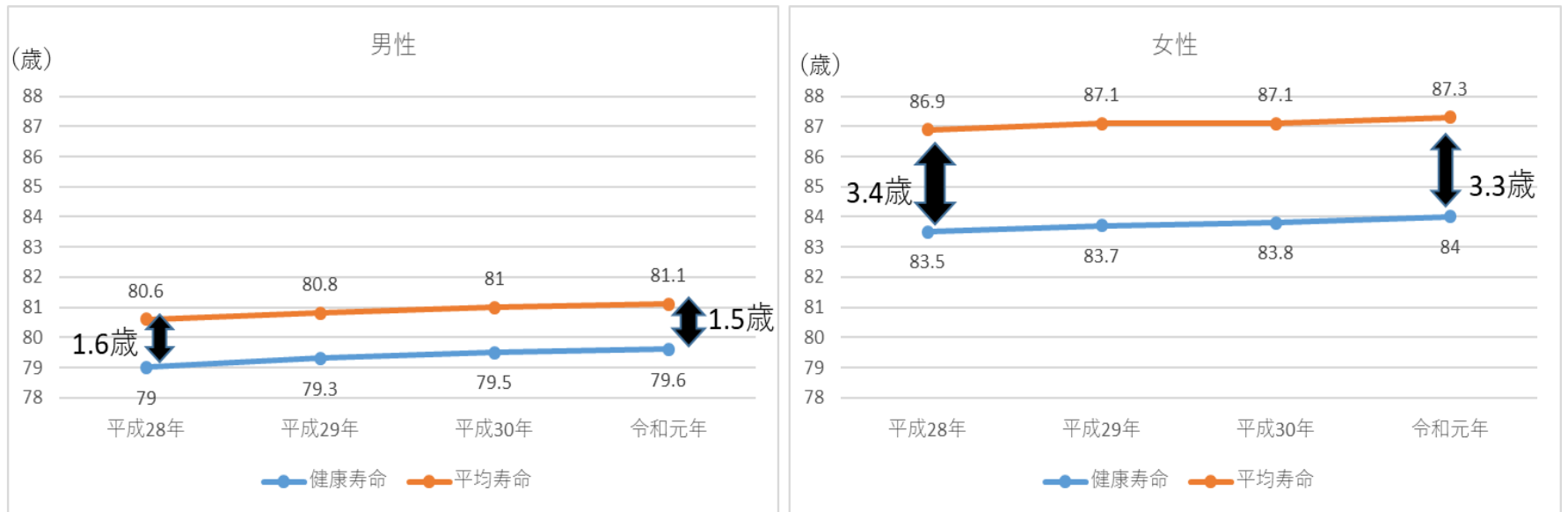


図1-1から1-3 出典：KDB 地域の全体像の把握

(3) 高齢化率

本市の高齢化率（65歳以上の高齢者人口が占める割合）は図2のとおりです。愛知県・国と比較して高い状況です。

図2 高齢化率

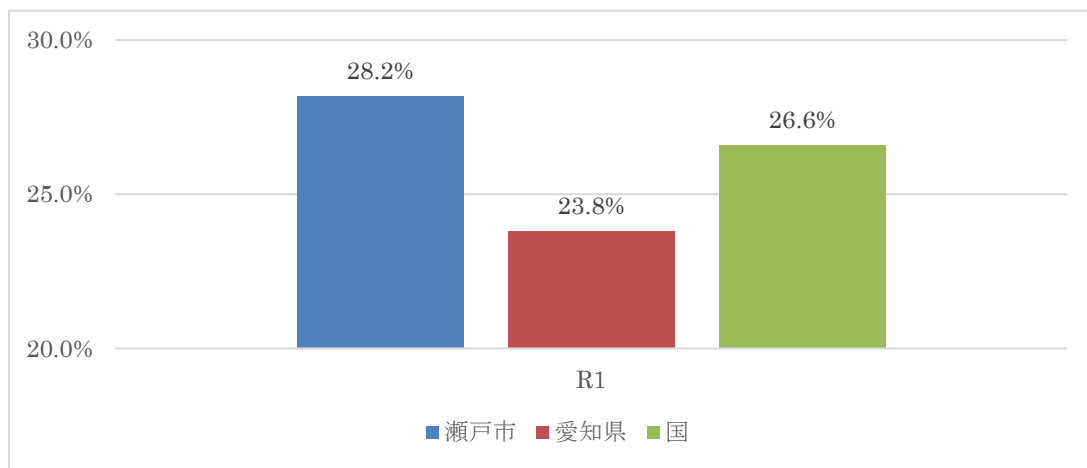


図2 出典：KDB 健診・医療・介護データからみる地域の健康課題

(4) 死因別死亡率（標準化死亡比）

全国の死亡率を基準（100）としたとき、愛知県と瀬戸市の死亡率を疾患別に比較します。

標準化というのは、地域別に死亡数を単純に人口で除した死亡率で比較すると、高齢者の多い地域では死亡率が高くなる等の偏りが出るためそれを年齢調整し比較するものです。表2-1・2-2のとおり100より大きい場合は、全国より死亡率が高く、100より小さい場合は全国より死亡率が低いということになります。なお、死亡率は、平成26年から30年の5年間のデータを用いた標準化死亡比（ベイズ推計値）＜EBSMR＞になります。

表2-1 瀬戸市と愛知県の男性の標準化死亡比

	全死	悪性新生物	心不全	胃がん	大腸がん	気管支肺がん	急性心筋梗塞	脳内出血	脳梗塞	解大動脈瘤及び離	腎不全	くも膜下出血	老衰
愛知県	98.9	98.5	80.7	105.2	98.9	102.3	84.4	92.6	89.2	109.8	92.5	92.8	128.4
瀬戸市	99.1	98.0	67.5	101.9	93.1	107.4	70.1	92.5	87.9	106.4	80.7	96.7	154.8

表2-2 瀬戸市と愛知県の女性の標準化死亡比

	全 死 亡	悪 性 新 生 物	心 不 全	胃 が ん	大 腸 が ん	気 管 支 肺 が ん	乳 房 が ん	子 宮 が ん	急 性 心 筋 梗 塞	腎 不 全	老 衰
愛知県	102.8	100.9	93.4	106.8	106.6	101.7	99.9	103.8	90.7	95.3	123.0
瀬戸市	103.0	98.0	78.9	104.3	100.1	99.7	96.9	100.0	65.7	94.5	161.1

	脳 内 出 血	脳 梗 塞	解 大 動 脈 瘤 及 び 離	く も 膜 下 出 血
愛知県	99.2	93.0	109.1	99.6
瀬戸市	92.5	95.4	110.5	105.6

表2-1・2-2 出典：愛知県 平成26-30年性別・疾病別・市町村別標準化死亡比及び主要部位ベース推定値

2 介護保険の状況

(1) 認定状況

図3-1は1号認定率、図3-2は2号認定率を表しています。1号認定率は、瀬戸市・愛知県・国ともに増加傾向です。

図3-1 瀬戸市要介護者認定 1号認定率の推移

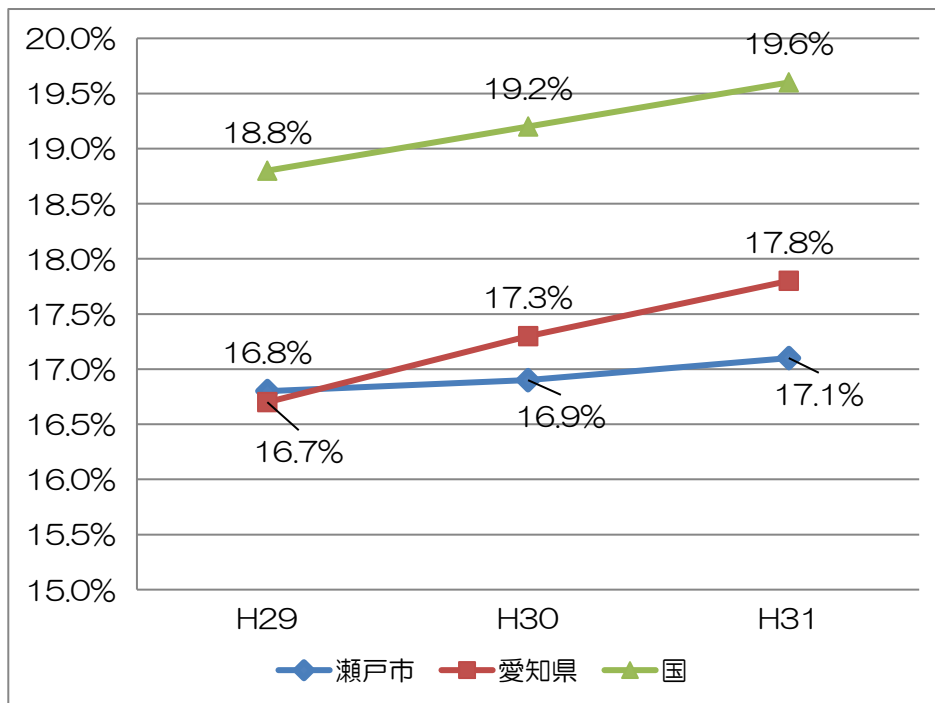


図3-2 瀬戸市要介護者認定 2号認定率の推移

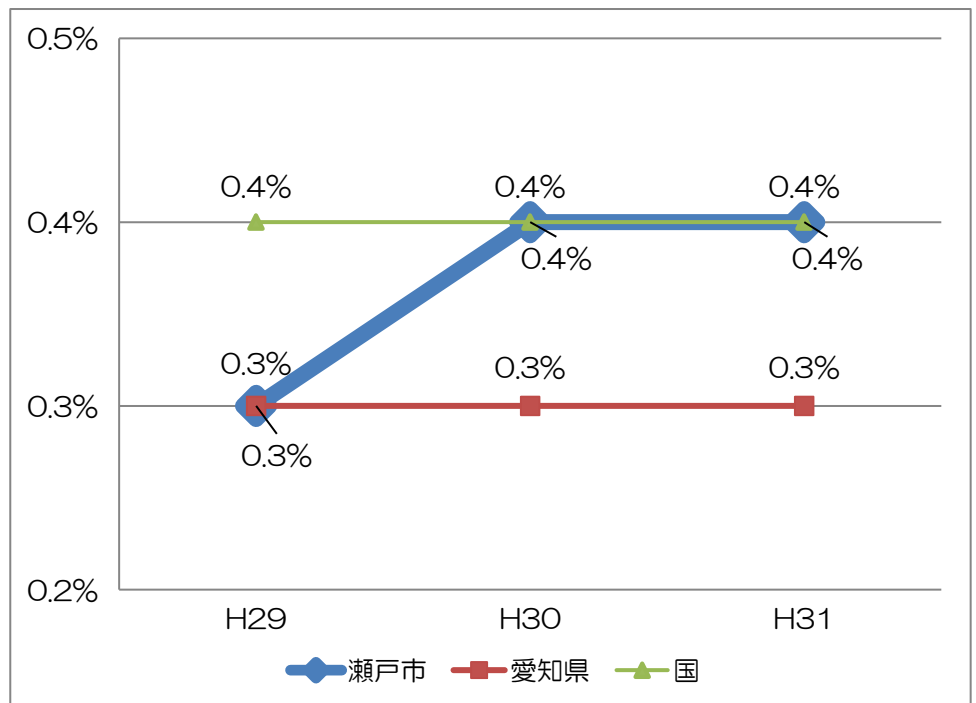


図3-1・3-2 出典：KDB 地域の全体像の把握

(2) 国民生活基礎調査における要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（2019年調査）

厚生労働省が実施している国民生活基礎調査において、表3のとおり介護が必要となった原因を現在の要介護度別にみると、要支援者では「関節疾患」が18.9%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が16.1%となっています。要介護者では「認知症」が24.3%と最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が19.2%となっています。

表3 現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

(単位:%)		2019(令和元)年				
現在の要介護度	第1位	第2位	第3位			
総数	認知症	17.6	脳血管疾患(脳卒中)	16.1	高齢による衰弱	12.8
要支援者	関節疾患	18.9	高齢による衰弱	16.1	骨折・転倒	14.2
要支援1	関節疾患	20.3	高齢による衰弱	17.9	骨折・転倒	13.5
要支援2	関節疾患	17.5	骨折・転倒	14.9	高齢による衰弱	14.4
要介護者	認知症	24.3	脳血管疾患(脳卒中)	19.2	骨折・転倒	12.0
要介護1	認知症	29.8	脳血管疾患(脳卒中)	14.5	高齢による衰弱	13.7
要介護2	認知症	18.7	脳血管疾患(脳卒中)	17.8	骨折・転倒	13.5
要介護3	認知症	27.0	脳血管疾患(脳卒中)	24.1	骨折・転倒	12.1
要介護4	脳血管疾患(脳卒中)	23.6	認知症	20.2	骨折・転倒	15.1
要介護5	脳血管疾患(脳卒中)	24.7	認知症	24.0	高齢による衰弱	8.9

注：「現在の要介護度」とは、2019(令和元)年6月の要介護度をいう。

表3 出典：厚生労働省 国民生活基礎調査の概況(令和元(2019)年)

(3) 2号被保険者の要介護の原因疾患

瀬戸市において、65歳未満の2号被保険者で要介護となった最も多い原因疾患は、図4のとおり脳血管疾患で60%以上を占め、糖尿病合併症による疾患も10%近いことがわかります。

図4 2号被保険者の要介護の原因疾患

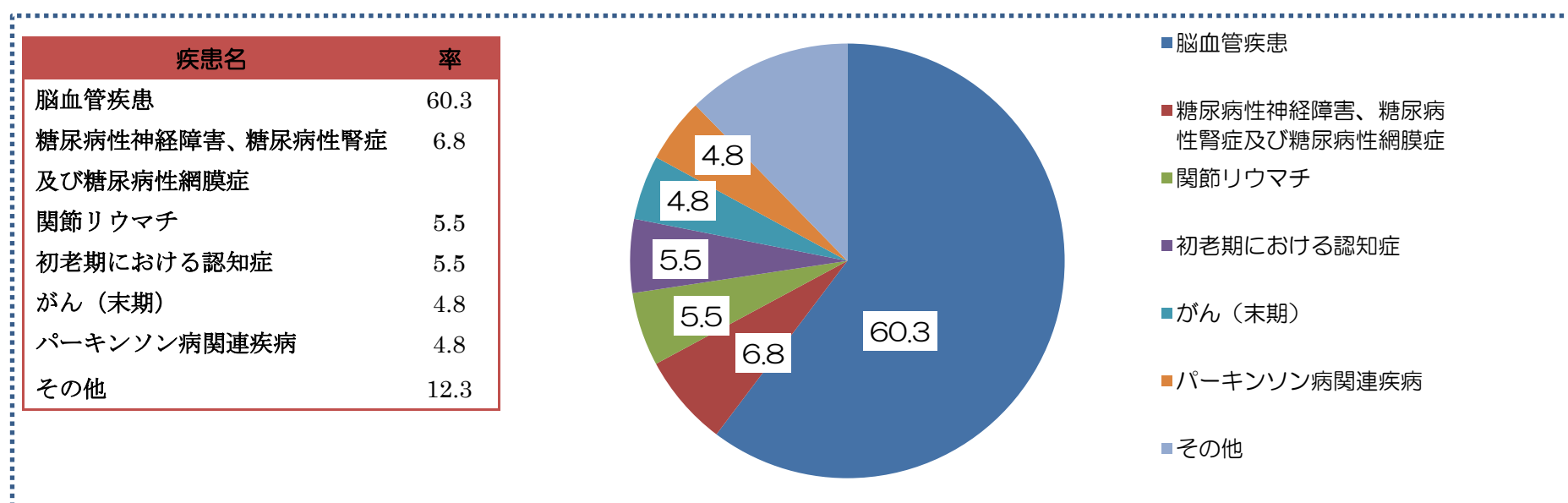


図4 出典：高齢者福祉課資料（令和2年11月現在）

第3章 瀬戸市国民健康保険の現状と課題

1 被保険者の構成

被保険者の人数は、図5-1のとおり男女ともに減少しています。この傾向は変わらず、今後も減少していくことが見込まれます。

令和元年度末現在で、男女ともに市民の約20%が瀬戸市国民健康保険の被保険者ですが、被保険者の年齢構成をみると、図5-2のように65歳以上の割合が増加し39歳以下は減少しています。64歳以下の被保険者の割合が愛知県、国と比較して少ない一方で、65歳以上の占める割合が高いことは、瀬戸市の特徴といえます。(図5-3)

なお、人口及び国保被保険者数はKDBデータから抽出しており、瀬戸市が公表している人数と相違がある場合があります。

図5-1 瀬戸市国民健康保険被保険者数の推移

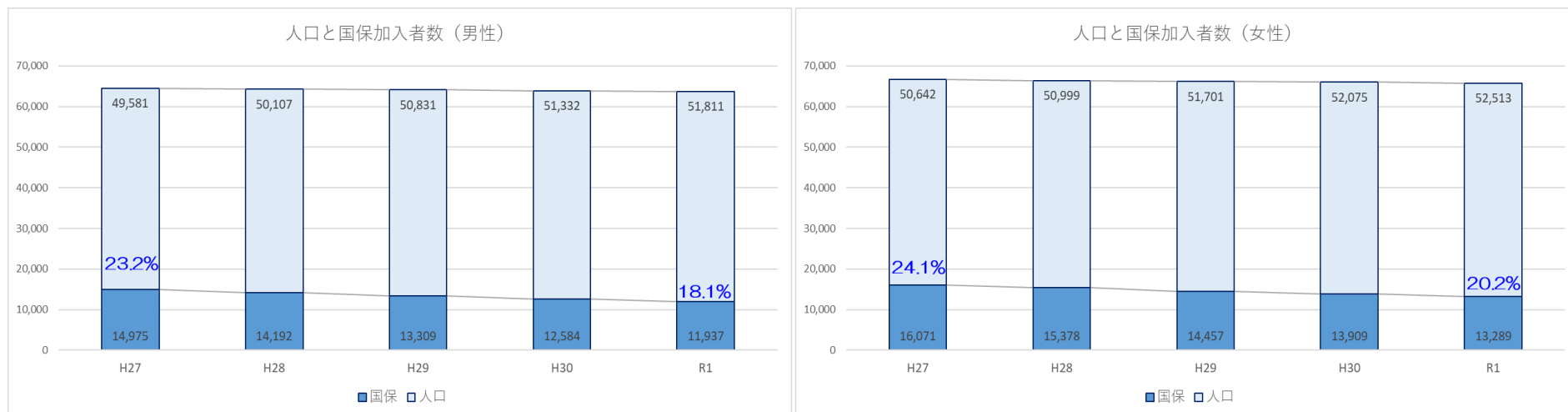


図5-1 出典：KDB 厚生労働省報告様式

図5-2 被保険者年齢構成の5年間の推移

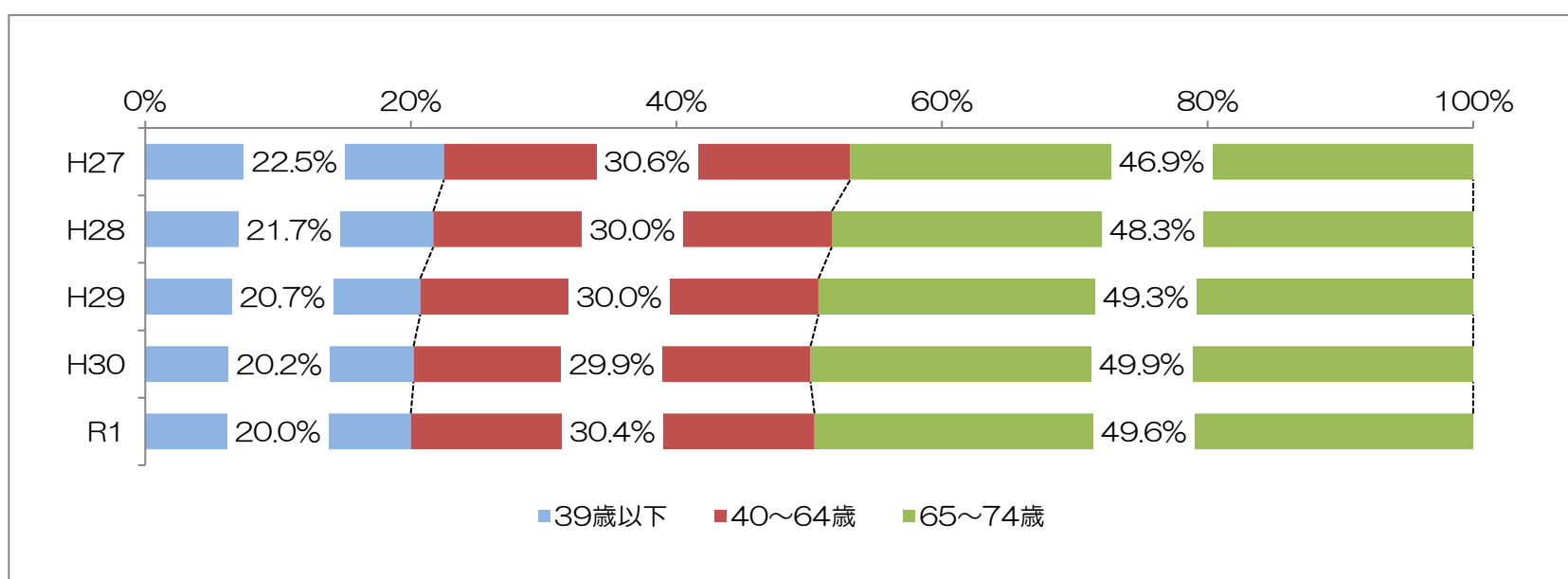


図5-2 出典：KDB 平成27～令和元年度地域の全体像の把握

図5-3 令和元年度 被保険者の年齢別割合

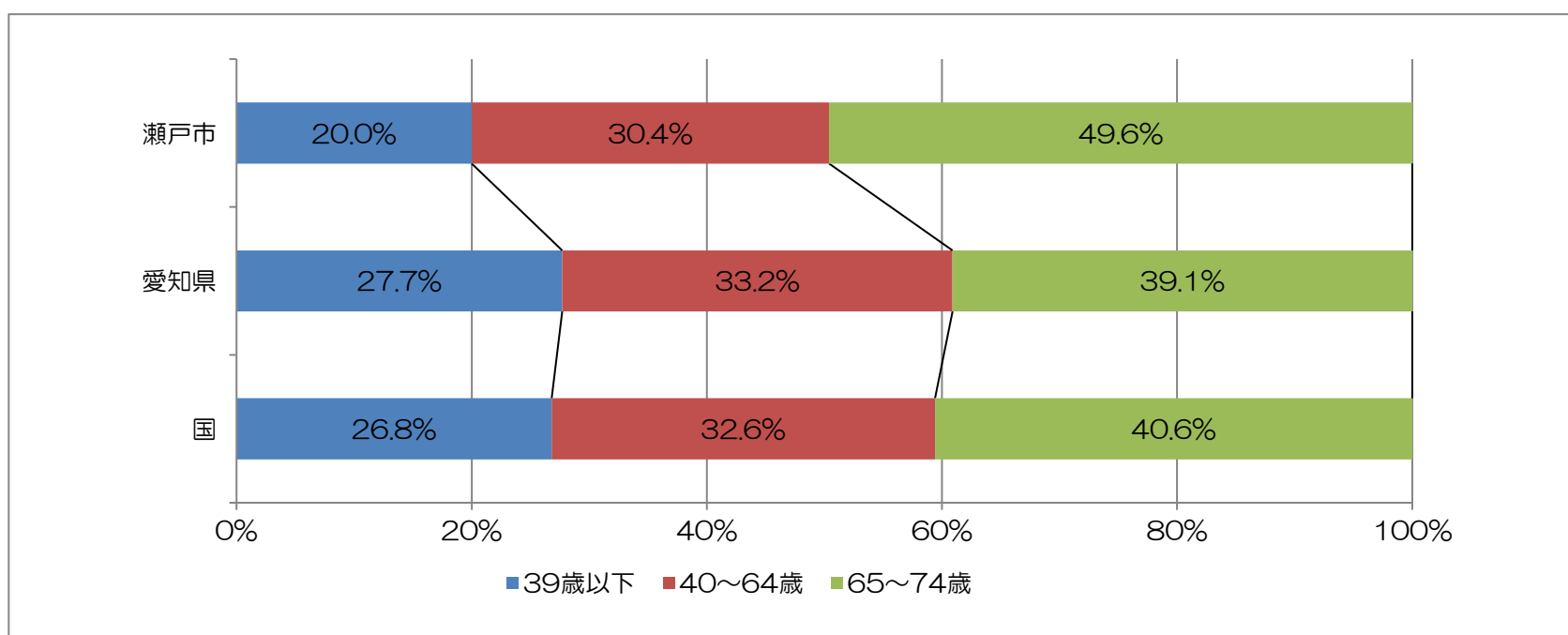


図5-3 出典：KDB 令和元年度 地域の全体像の把握

2 被保険者の医療状況

一般疾病と生活習慣病を男女別、年齢階級別にみると、図6-1の瀬戸市と図6-2の愛知県では、一般疾病は20歳から24歳が最も疾病保有者率が低く、生活習慣病保有者率は、20歳代から増加していきます。若年層からの発症が増加していることから、生活習慣病対策が早期から必要と考えます。

図6-1 一般疾病・生活習慣病保有者率（瀬戸市）

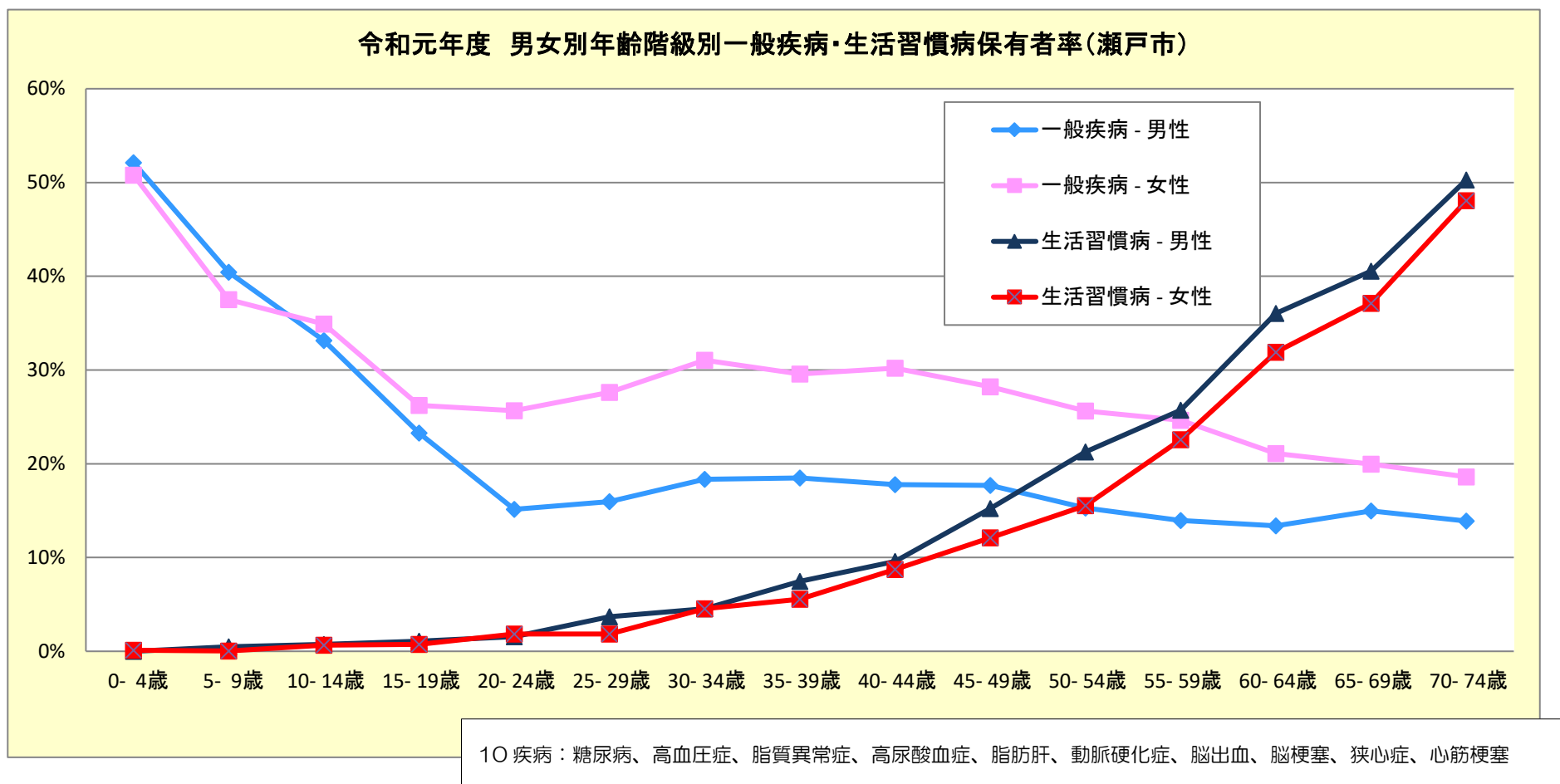


図6-2 一般疾病・生活習慣病保有者率（愛知県）

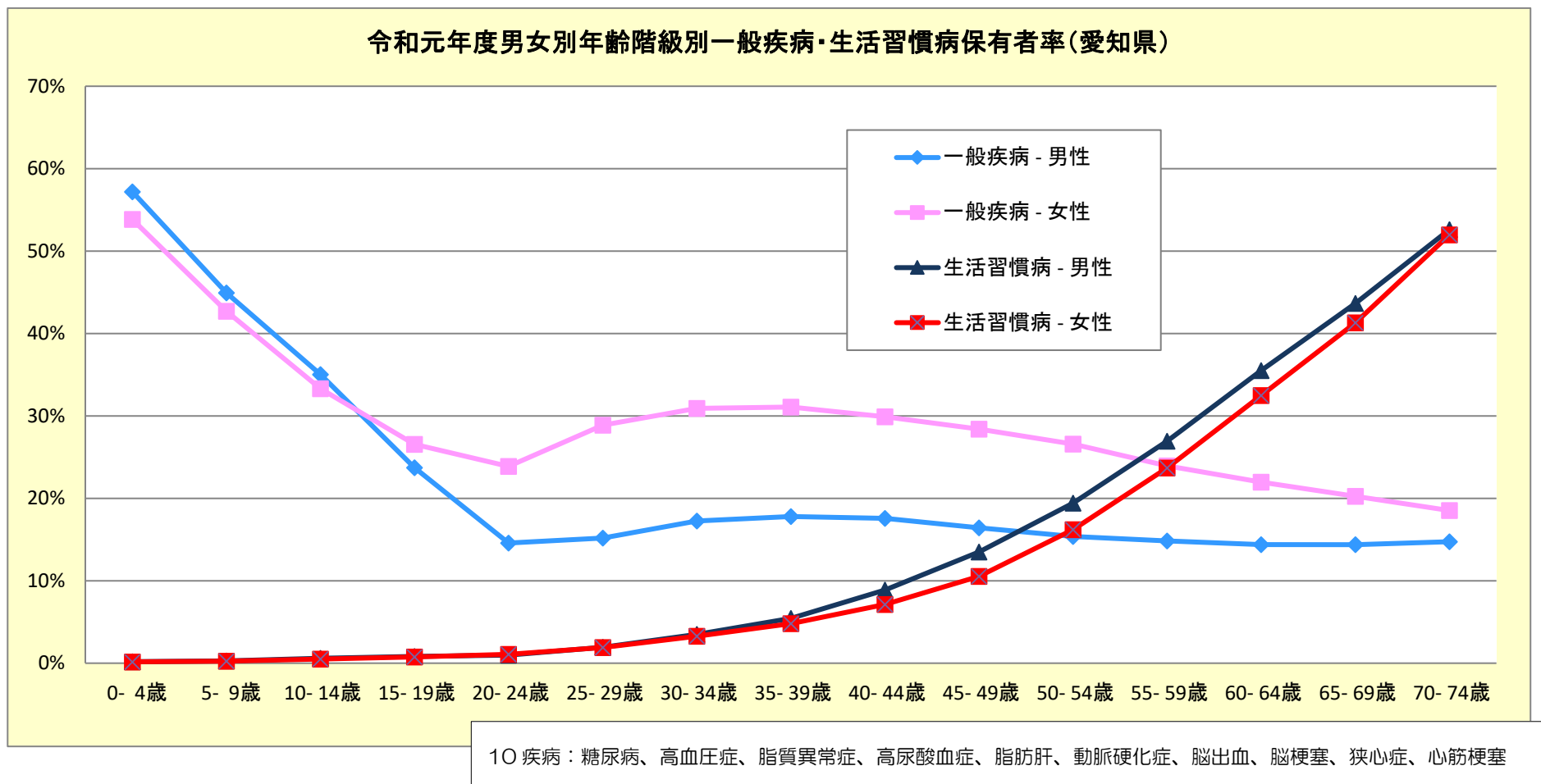


図6-1・6-2 出典：AI Cube 帳票「男女別年齢階級別一般疾病・生活習慣病保有者率」

3 医療費の概況

(1) 1人当たり医療費

瀬戸市国民健康保険1人当たり医療費のデータと県下38市との比較結果は、表4のとおりです。

総医療費（療養の給付等+療養費等）は県内において最上位であり、この内容を細分した入院、入院外、歯科、調剤においても、平成20年・25年・30年データは、これまでと同様、いずれもが県下38市の上位に位置していることに変わりありません。従来、瀬戸市の傾向は入院と比べて入院外の1人当たり医療費が高く、外来の総体とも言える「入院外+調剤」の費用額が最も高い状況です。

表4 瀬戸市国民健康保険1人当たり医療費等データ

	総医療費			入院			入院外		
	費用 (円)	順位 (38市中)	偏差値 (38市中)	費用 (円)	順位 (38市中)	偏差値 (38市中)	費用 (円)	順位 (38市中)	偏差値 (38市中)
H20	292,620	1	71.1	96,219	2	69.3	109,253	18	51.1
H25	324,739	3	67.2	101,993	4	60.5	124,414	11	58.2
H30	371,642	1	70.0	129,699	1	71.3	140,526	5	60.2

	歯科			調剤			入院外+調剤		
	費用 (円)	順位 (38市中)	偏差値 (38市中)	費用 (円)	順位 (38市中)	偏差値 (38市中)	費用 (円)	順位 (38市中)	偏差値 (38市中)
H20	25,402	6	61.9	51,918	2	69.2	161,171	1	69.3
H25	27,577	6	61.7	61,165	3	62.4	185,579	2	69.0
H30	28,907	7	58.1	62,303	8	57.1	202,830	4	65.6

※H20は37市

表4 出典：国民健康保険事業年報・月報（H20：H20年3月～H21年2月診療分、H25：H25年3月～H26年2月診療分、H30：H30年3月～H31年2月診療分）

(2) KDBで示される疾病別医療費の状況

入院と入院外それぞれの疾患別（大分類）レセプト総点数を男女別に表したものが表5-1、5-2です。この総点数に10を乗じたものが総医療費になります。標準化比（県=100）（国=100）は、年齢構成の影響を補正したうえで、標準化比が大きい疾病は年齢構成の割に当該疾病の医療（費）が多いことがわかります。例えば、標準化比=120であれば、年齢構成の影響を補正したうえで、愛知県や全国よりも1.2倍医療費がかかっていることを意味します。一方、標準化比がいくら大きくても、頻度の少ない疾病では医療費全体に与える影響はわずかになります。

このことから国と比較した際、標準化費が高い内容としては、男性の入院では「新生物」「呼吸器系の疾患」、外来では「皮膚及び皮下組織の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」となります。女性の入院では「感染症及び寄生虫」「内分泌、栄養及び代謝疾患」、外来では「内分泌、栄養及び代謝疾患」「眼及び付属器の疾患」です。

なお大分類の15から23の項目は本計画では合計して掲載しています。

表5-1 令和元年度大分類別総医療点数（男性）

大分類 (最大医療資源傷病名)	瀬戸市総点数 (入院)	件数 (入院)	標準化比 (県=100)	標準化比 (国=100)	瀬戸市総点数 (外来)	件数 (外来)	標準化比 (県=100)	標準化比 (国=100)
01 感染症及び寄生虫症	1,569,248	40	81.2	73.3	6,227,979	2,291	96.9	93.1
02 新生物	45,217,390	538	124.1	115.7	39,978,925	2,954	101.8	104.9
03 血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	2,643,438	19	135.9	107.7	618,662	114	24.7	19.7
04 内分泌、栄養及び 代謝疾患	2,764,476	61	109.2	86.6	47,151,402	17,434	120.8	125.7
05 精神及び行動の障害	17,099,061	411	117.2	82.2	11,435,349	4,853	111.9	108.9
06 神経系の疾患	8,353,812	166	92.7	57.7	10,045,311	3,839	106.2	90.4
07 眼及び付属器の疾患	3,239,151	94	92.1	107.1	13,169,194	8,090	101.4	114.6
08 耳及び乳様突起の疾患	367,118	15	123.3	93.6	1,183,316	899	91.9	104.4
09 循環器系の疾患	41,853,153	458	112.0	101.0	34,639,843	16,038	108.2	101.9
10 呼吸器系の疾患	13,490,702	273	143.7	109.8	18,349,858	8,867	121.9	123.9
11 消化器系の疾患	10,940,048	281	99.9	88.3	13,943,108	5,538	103.9	94.4
12 皮膚及び皮下組織の 疾患	1,584,000	37	115.5	85.4	8,347,327	5,090	126.4	138.8
13 筋骨格系及び結合組織 の疾患	8,365,405	114	98.0	70.3	14,740,855	7,443	110.4	116.4
14 尿路性器系の疾患	5,612,907	114	90.2	55.8	25,216,114	3,615	122.7	76.6
15～23 合計	16,220,848	363			8,594,669	5,696		
総計	174,696,818	2,804			250,361,046	89,764		

表5-2 令和元年度大分類別総医療点数（女性）

大分類 (最大医療資源傷病名)	瀬戸市総点数 (入院)	件数 (入院)	標準化比 (県=100)	標準化比 (国=100)	瀬戸市総点数 (外来)	件数 (外来)	標準化比 (県=100)	標準化比 (国=100)
01 感染症及び寄生虫症	2,256,785	31	182.0	148.3	4,986,223	3,041	86.7	84.2
02 新生物	30,968,981	401	113.3	103.5	37,940,637	3,967	108.7	110.0
03 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,322,555	23	93.3	75.2	926,832	302	52.4	49.8
04 内分泌、栄養及び代謝疾患	3,253,318	71	170.8	143.9	50,077,059	21,843	117.1	128.1
05 精神及び行動の障害	12,096,604	284	101.8	65.0	12,050,429	5,772	114.3	107.5
06 神経系の疾患	10,133,606	133	129.7	81.1	12,521,711	4,933	133.6	107.9
07 眼及び付属器の疾患	4,981,588	134	117.6	133.3	20,260,996	14,843	102.6	115.3
08 耳及び乳様突起の疾患	345,410	12	83.6	63.7	2,060,441	1,475	97.4	109.0
09 循環器系の疾患	23,737,201	210	117.2	106.7	24,954,445	14,878	89.8	87.2
10 呼吸器系の疾患	5,619,894	111	113.7	84.3	19,498,962	11,086	111.1	114.4
11 消化器系の疾患	7,590,560	211	111.6	95.2	14,644,019	7,412	101.9	87.6
12 皮膚及び皮下組織の疾患	485,798	21	44.2	36.8	6,956,664	6,012	98.9	106.3
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	10,768,067	135	83.5	56.9	33,236,721	16,068	94.6	93.7
14 尿路性器系の疾患	3,897,442	82	98.2	63.1	15,323,782	3,239	135.9	82.0
15~23 合計	17,368,937	425			11,599,929	7,891		
総計	130,609,657	2,093			262,464,976	118,788		

出典：表5-1、5-2「疾病別医療費分析（生活習慣病）」csvファイルより計算。

平成30年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）：都道府県医療費適正化計画推進のための健診・医療等の情報活用を担う地域の保健医療人材の育成に関する研究（研究代表者 横山徹爾）「医療費の疾病別内訳見える化ツール・KDB 国保版 ver.1.7」

(3) 標準化医療費の傾向

医療費の傾向と疾病状況の分析において、高齢者ほど様々な疾患に罹患しやすく、医療費は高額になると言われています。

本市の高齢化率は愛知県や国を上回り、被保険者の年齢構成においても65歳以上が半数を占める状況です。そこで年齢の影響を補正したうえで医療費の分析を実施するため、年齢調整した医療費（標準化医療費）において疾病状況を把握したものが図7-1、7-2です。

年齢調整を行い、愛知県・国の人口構成が本市と同様であったと仮定して医療費の傾向を見てみると、入院の医療費は男女ともに愛知県と比べ高い状況ですが、国と比較した場合は低い状況です。一方、外来の医療費では、男女ともに愛知県・国と比べて高いことがわかります。

図7-1 令和元年度疾病別医療費分析（生活習慣病）男性（0~74歳）

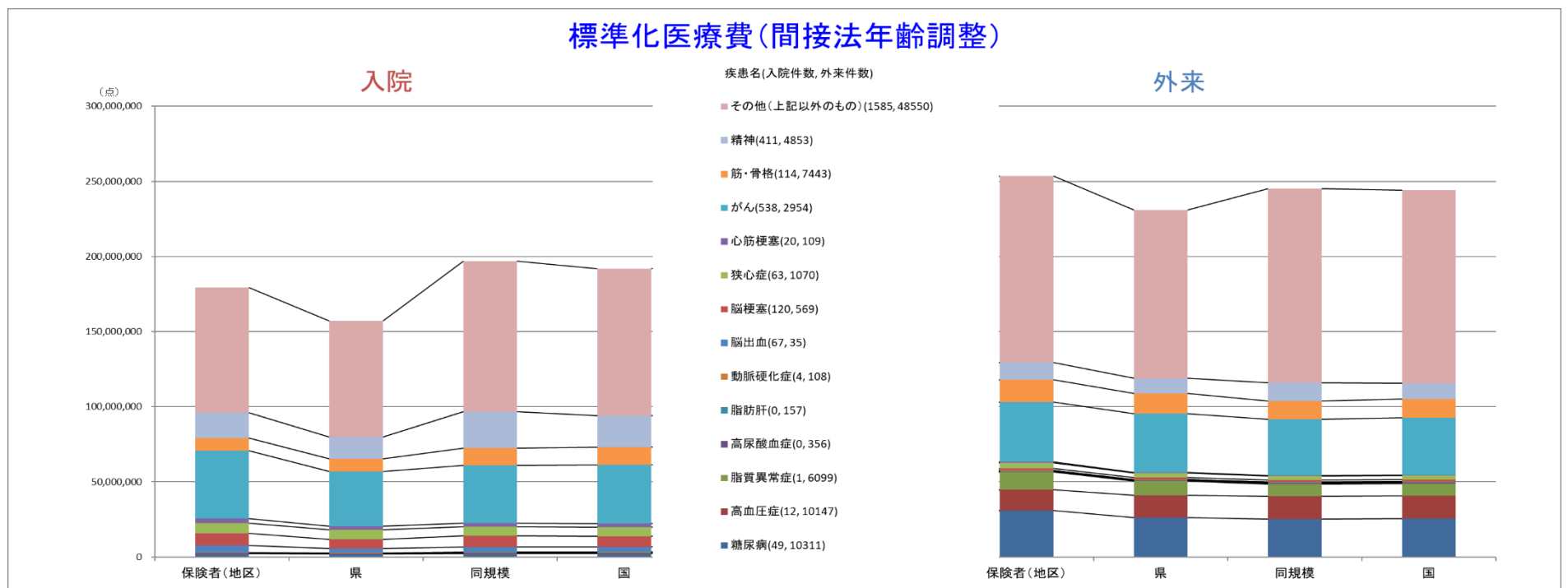
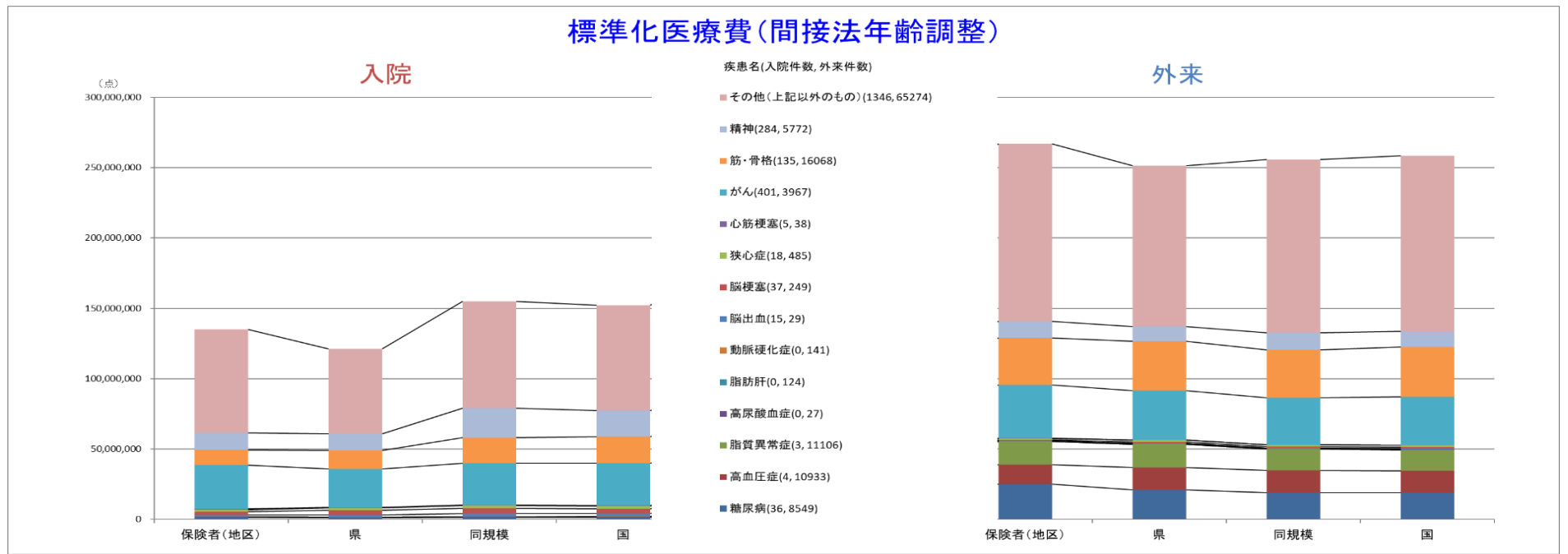


図7-2 令和元年度疾病別医療費分析（生活習慣病）女性（0～74歳）



この医療費の中には様々な疾病が含まれていますが、本計画ではこれらの疾病のうち、予防・対策が必要と思われる3つの特徴があります。

①脳血管疾患や虚血性心疾患、慢性腎不全等の重症化予防

図7-3、7-4は外来における疾病別の医療点数とレセプト数の経年変化を男女別で表したものです。糖尿病の医療点数が経年的には減少しているものの最も高く、レセプト件数も多い状況です。高血圧症の医療点数は糖尿病の半分の点数ですが、レセプト件数は糖尿病より多く、血管を傷つける要因となる糖尿病と高血圧症を治療している方が多いことがわかります。さらに男性の疾病状況の特徴として、慢性腎不全（透析あり）の医療点数が女性と比べて高いことが伺えます。近年、糖尿病の重症化による慢性腎不全（透析あり）が増加傾向にあり、重症化する前の対策が必要となります。

図7-5、7-6の女性では、男性と同様に糖尿病の医療点数が最も高い状況です。またレセプト件数では高血圧症や脂質異常症が多く、これらは動脈硬化を引き起こし、脳血管疾患や虚血性心疾患へと至るため早期の対策が必要となります。

図7-3 H27-R1 医療点数経年変化（外来）男性

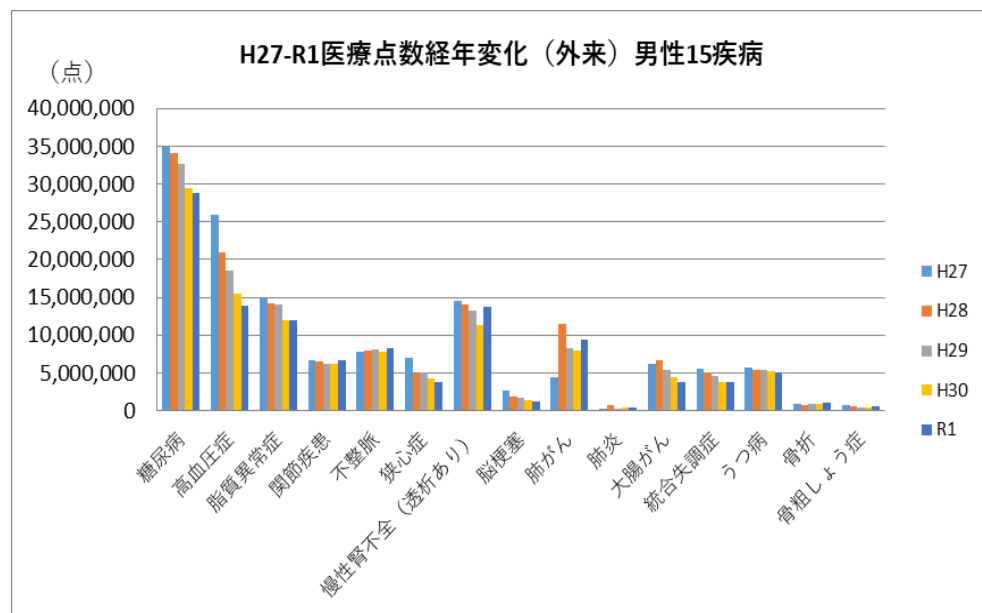


図7-4 H27-R1 レセプト数経年変化（外来）男性

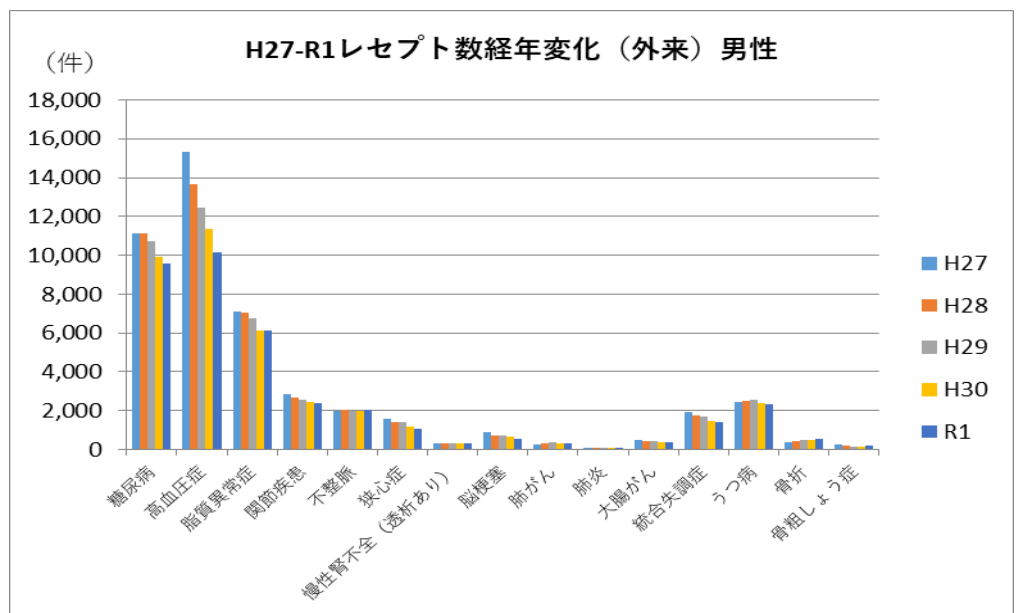


図7-5 H27-R1 医療点数経年変化（外来）女性

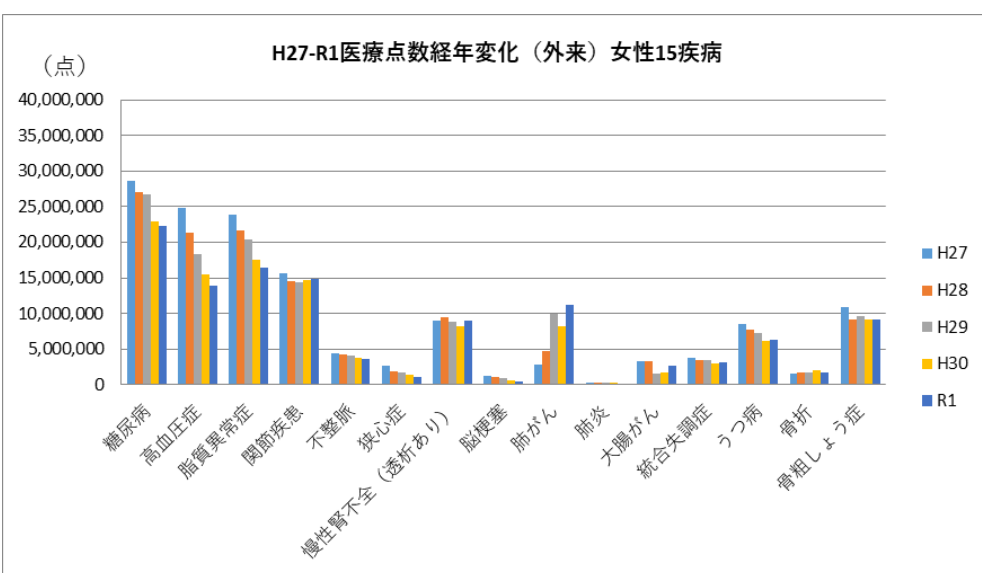


図7-6 H27-R1 レセプト数経年変化（外来）女性

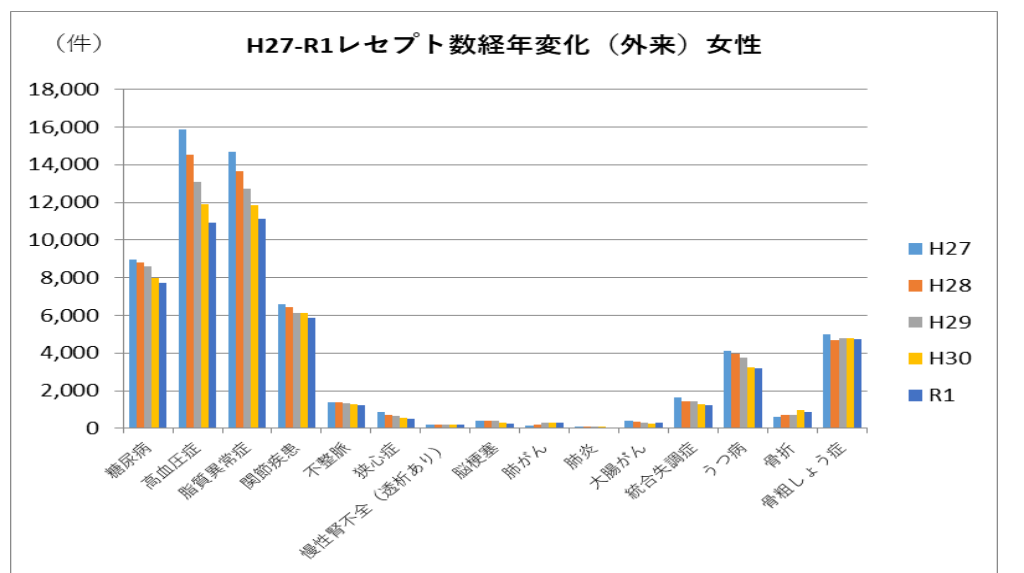


図7-7から7-9は、平成27年から令和元年の被保険者のうち、糖尿病・高血圧症・脂質異常症それぞれの有病者割合を経年変化で見たものです。被保険者数が減っているものの、男女ともに平成27年と比較すると有病者割合が増加しています。

これらの疾病は初期症状がないことが特徴のため、1年に1回の特定健康診査にて血液検査等の把握をすることや食事・運動といった基本的な生活習慣の改善が大切になります。

図7-7 被保険者数と糖尿病有病者割合の経年変化

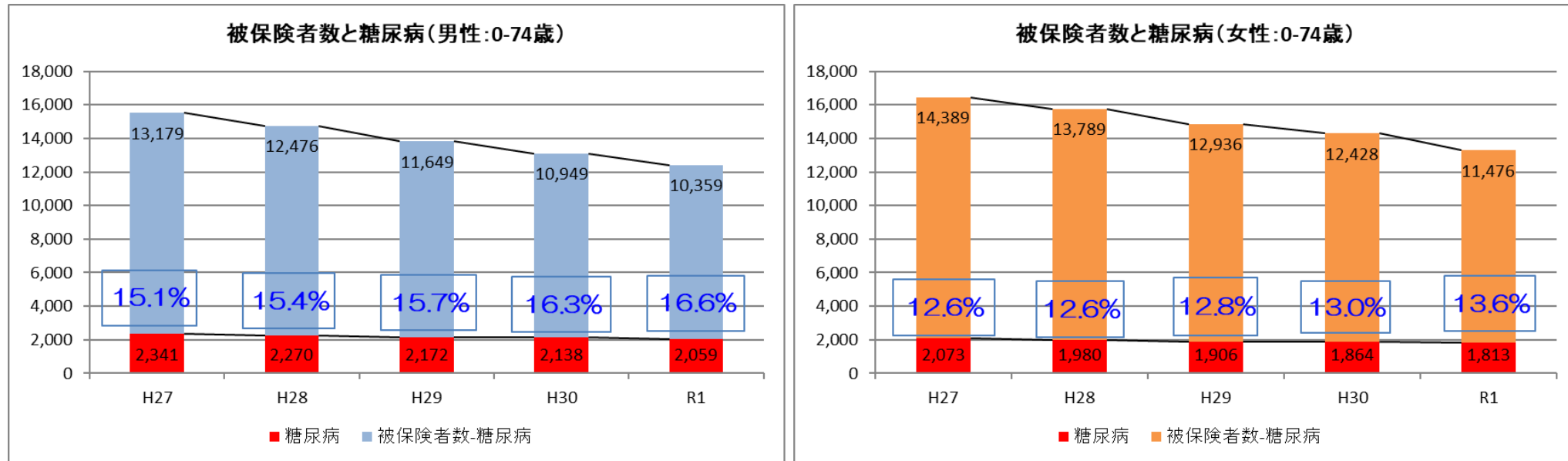


図7-8 被保険者数と高血圧症有病者割合の経年変化

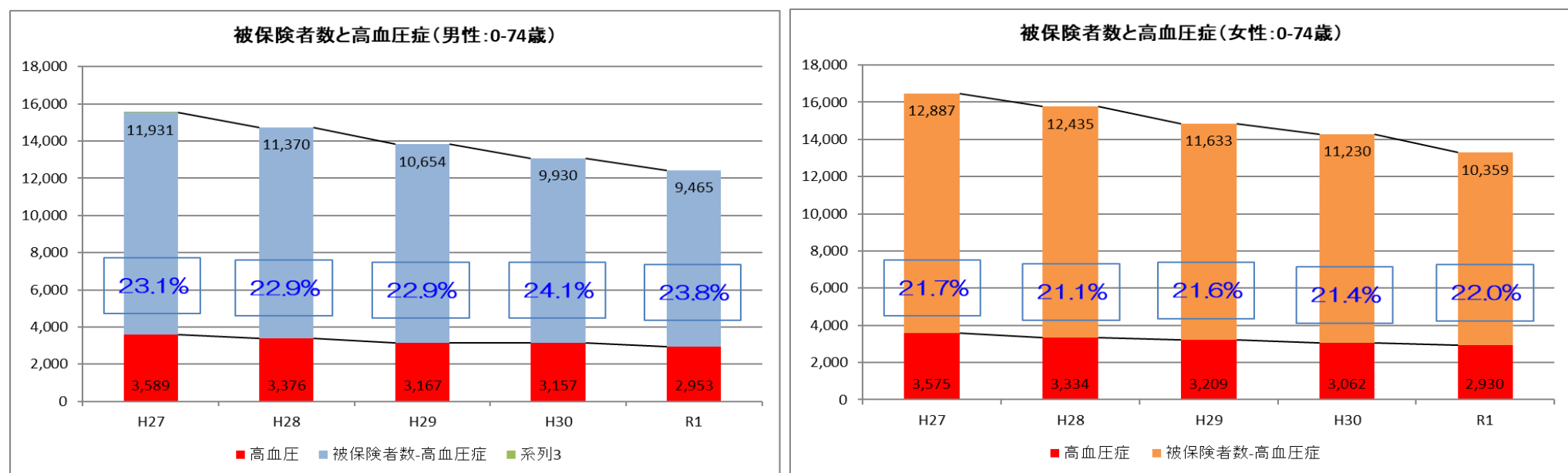
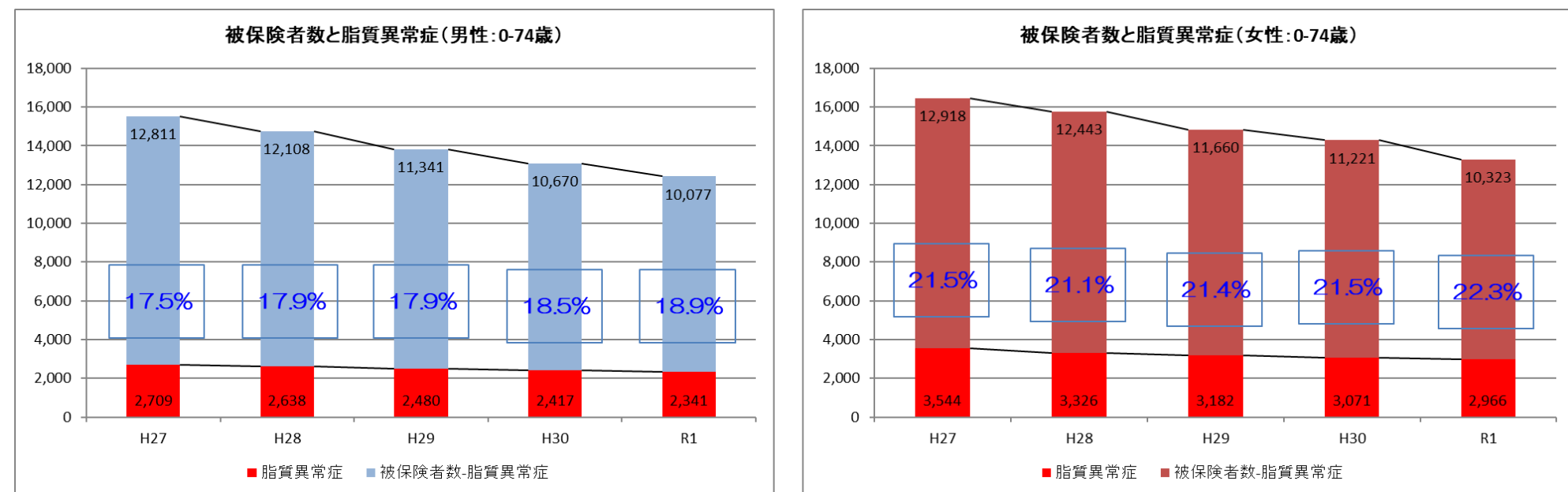


図7-9 被保険者数と脂質異常症有病者割合の経年変化



②筋・骨格に関連する疾病の予防

図7-2の女性における標準化医療費の入院・外来において、男性より顕著に多い疾病として筋・骨格に関連する疾病があります。この中身は、図7-12・7-13のように女性の関節疾患、骨折、骨粗しょう症が含まれます。これらの疾病は女性特有のホルモンとの関係性もありますが、要介護状態へとつながる要因ともなるため、健康寿命を延伸するために介護予防等を通じた対策が必要です。

図7-10 H27-R1 医療点数経年変化（入院）男性

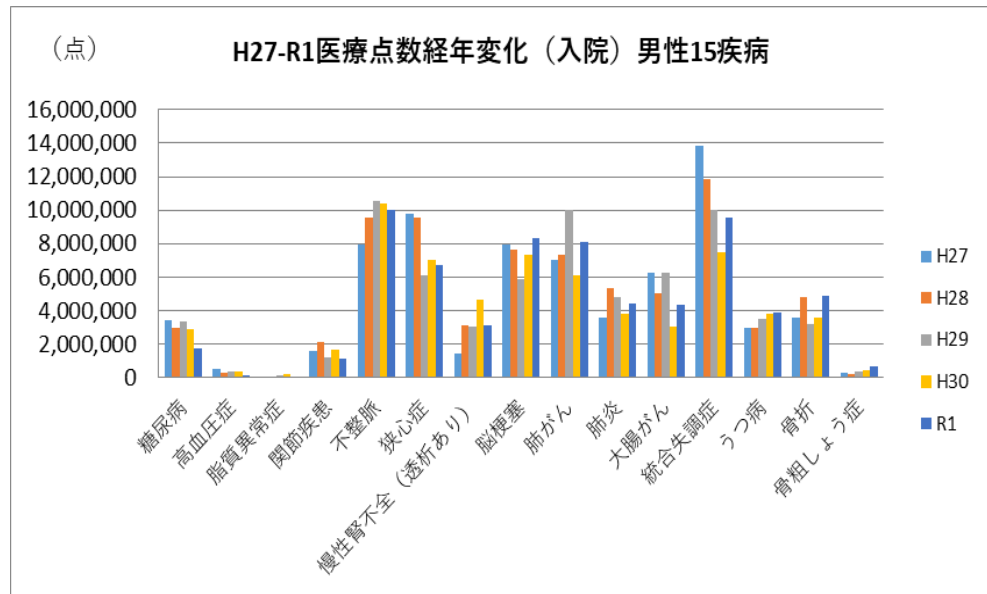


図7-11 H27-R1 レセプト数経年変化（入院）男性

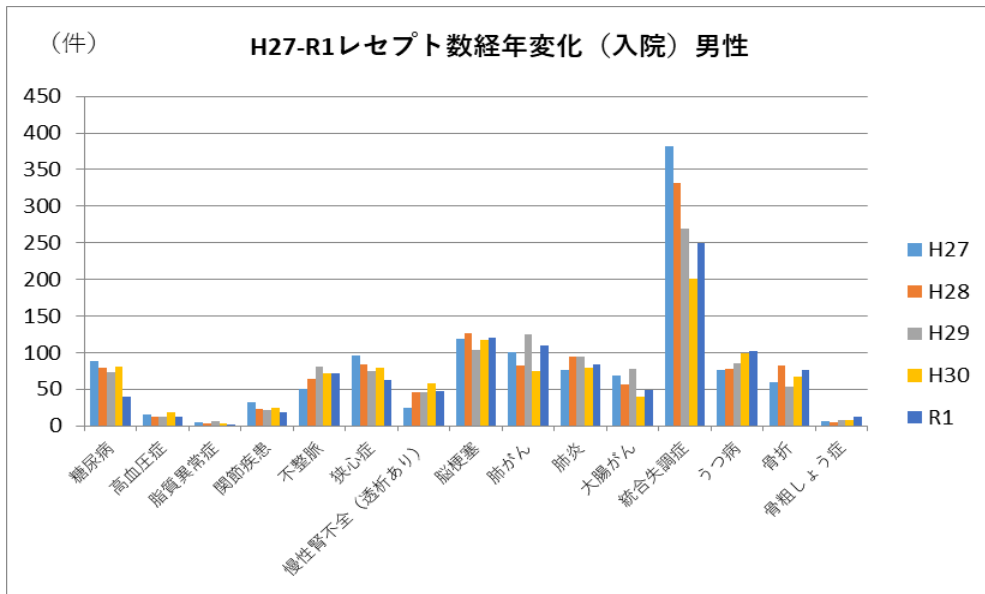


図7-12 H27-R1 医療点数経年変化（入院）女性

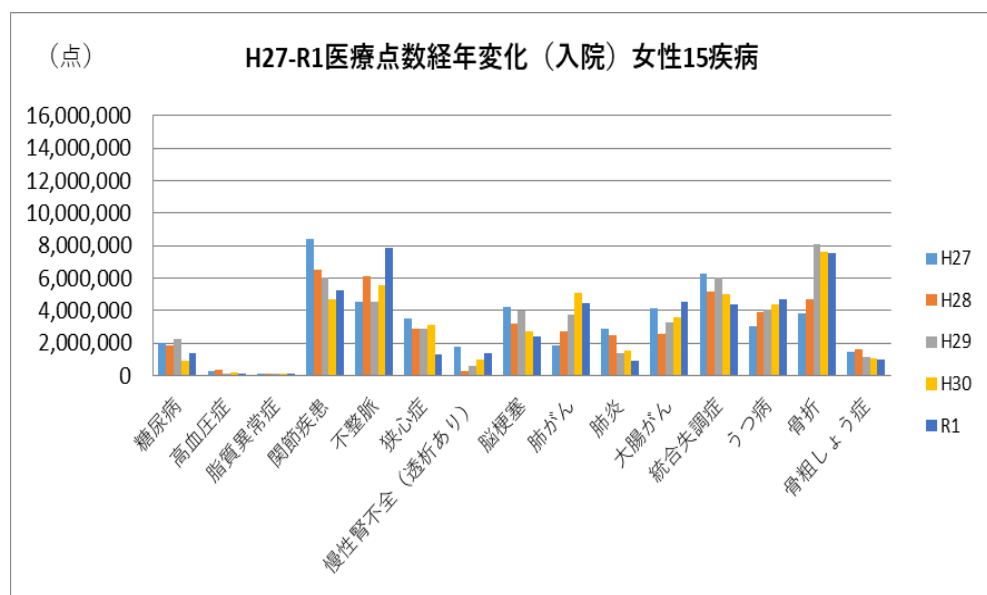
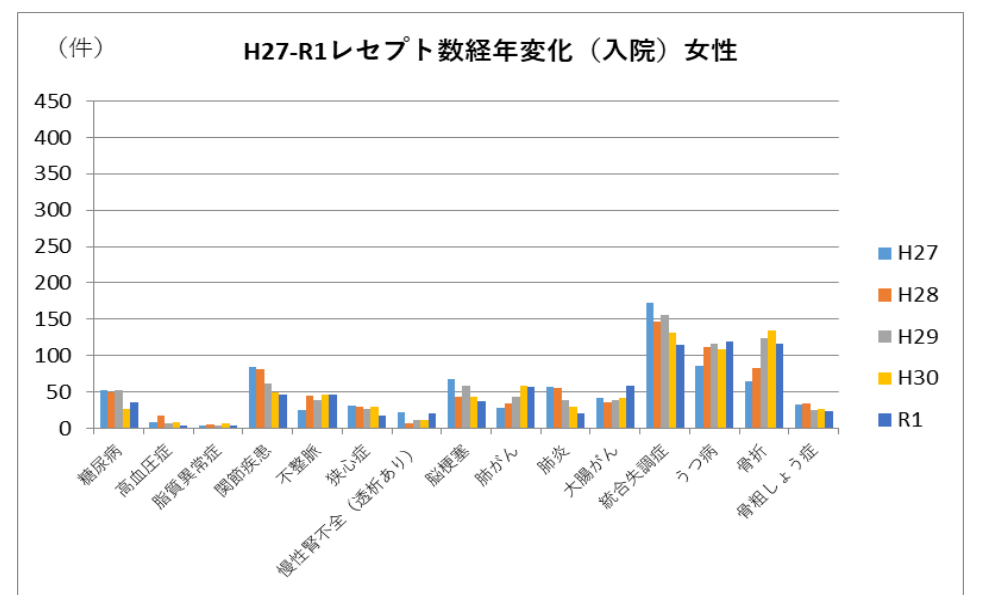


図7-13 H27-R1 レセプト数経年変化（入院）女性



③日本人の死因第1位の悪性新生物（がん）への対策

図7-1、7-2の標準化医療費において、その他を除く最も多い疾病はがんになります。図7-14から7-17は男女におけるがんの中で医療点数及びレセプト件数を表したものになります。このがんの中で、科学的根拠に基づいて実施しているがん検診及び本市が独自で実施しているものに注目すると、肺がん・大腸がん・胃がんの順に外来の医療点数が男女ともに多い状況です。また男性特有の前立腺がん、女性特有の乳がんは医療点数及びレセプト件数が多い状況です。これらの疾病は生活習慣によるものや遺伝的な素因が影響するため、まずはがん検診の受診をお勧めするとともに、好ましい生活習慣を確立することが必要です。

上記①から③の詳細な予防対策については、被保険者もしくは市民への保健事業として実施している第6章を参照してください。

図7-14 がん医療点数（R1 男性）

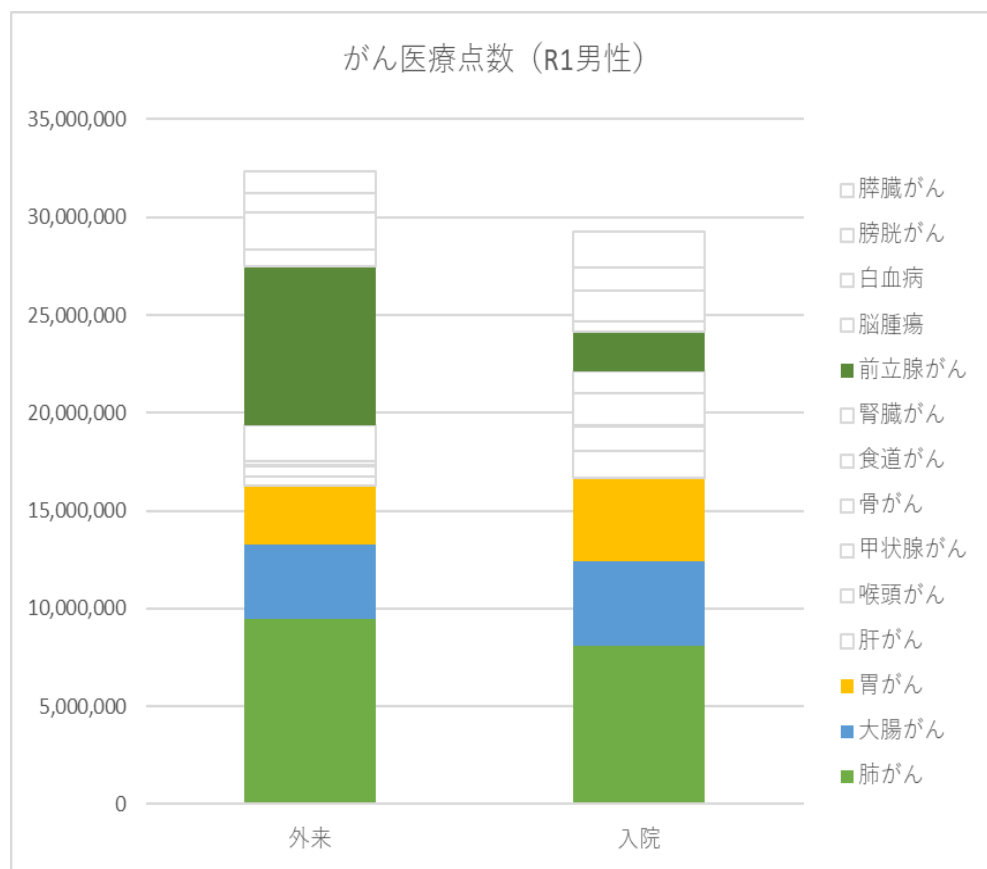


図7-15 がん医療点数（R1 女性）

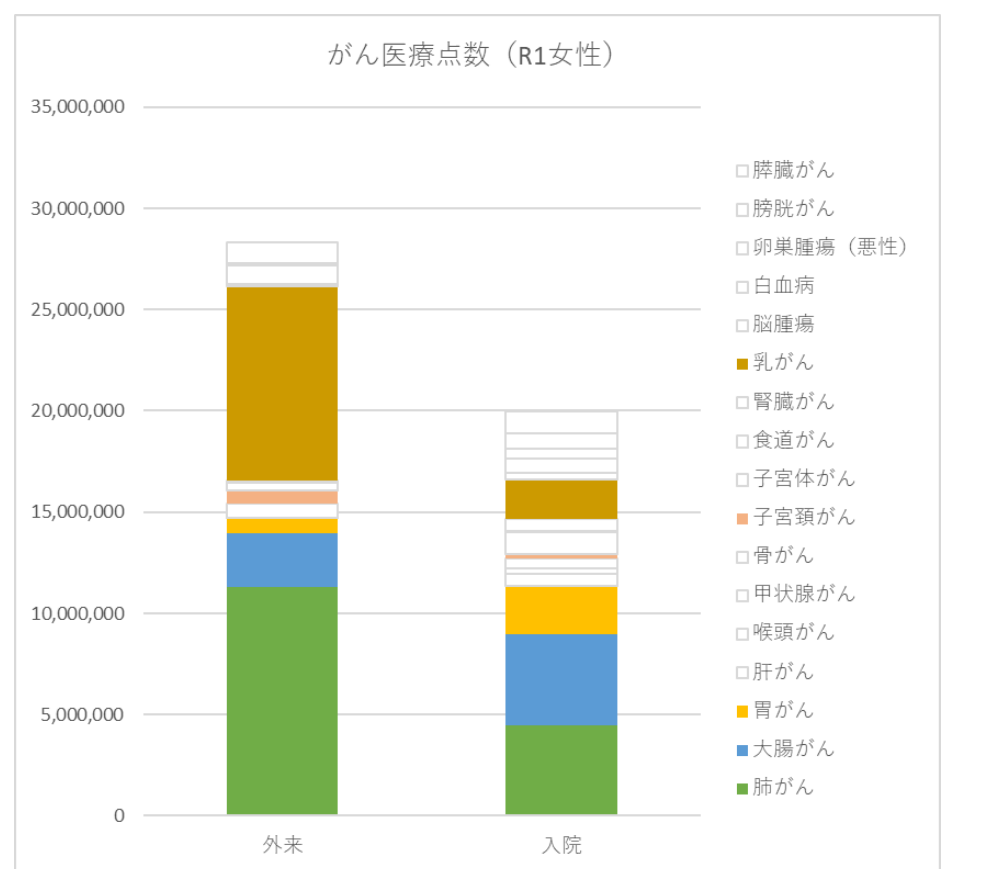


図7-16 レセプト件数 (R1 男性)

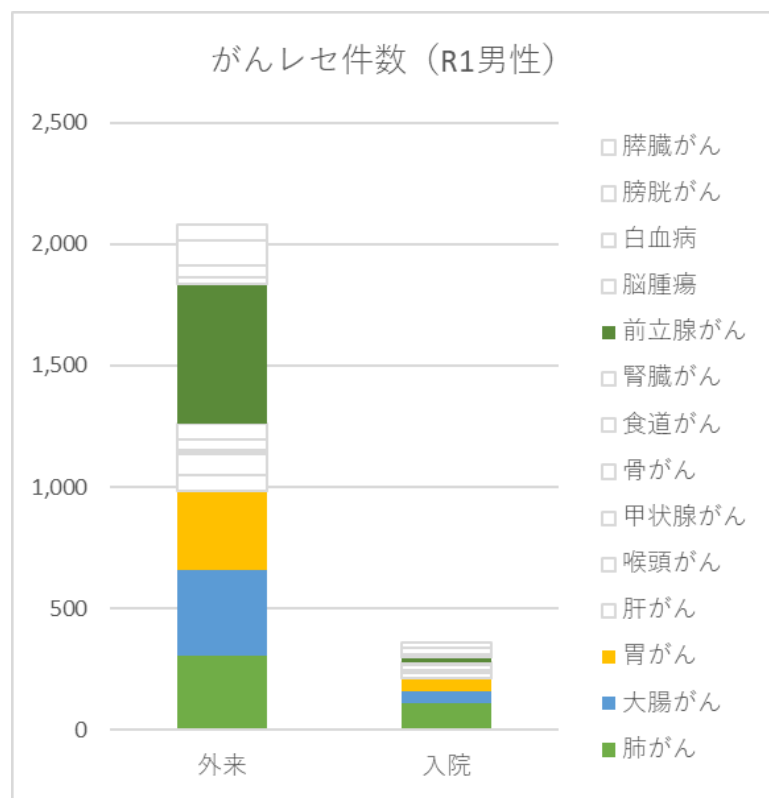


図7-17 レセプト件数 (R1 女性)

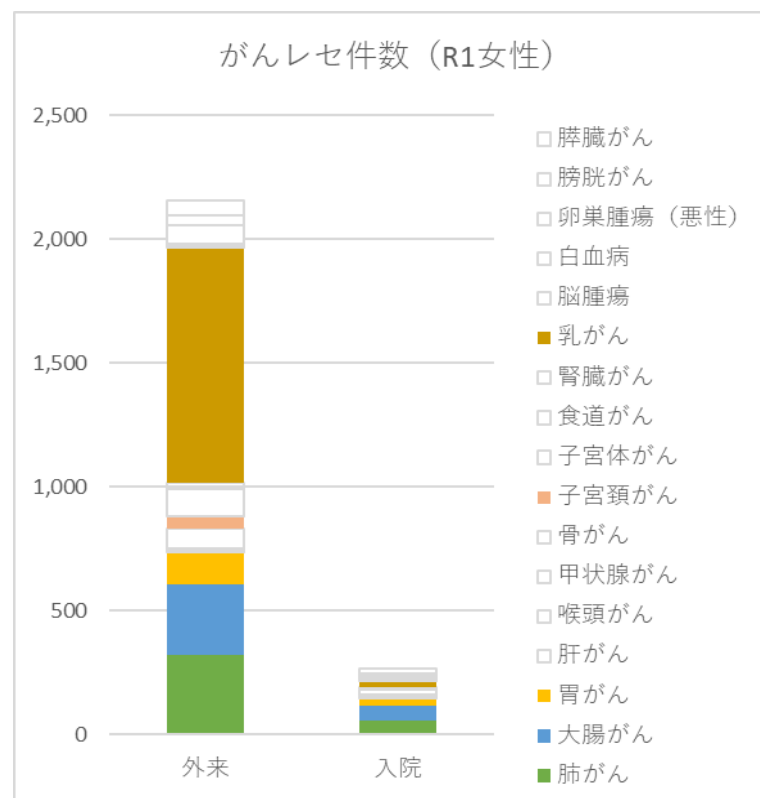


図7-1から7-17 出典：国保データベース (KDB) のCSVファイル (疾病別医療費分析 (生活習慣病)) より計算。
 Ver. 1.1 (2016.9.21) 平成26年度厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究 (H25-循環器等 (生習) - 一般-O14) (研究代表：横山徹爾)

第4章 後期高齢者医療制度との連続性

(1) 後期高齢者医療制度の被保険者数

75歳以上になると(65歳から74歳のうち一定の障害のある人も含む)、後期高齢者医療制度の被保険者となります。瀬戸市においては、図8のとおり被保険者数は年々増加し、人口に占める割合多くなっています。

図8 後期高齢者医療制度の被保険者数の経年変化

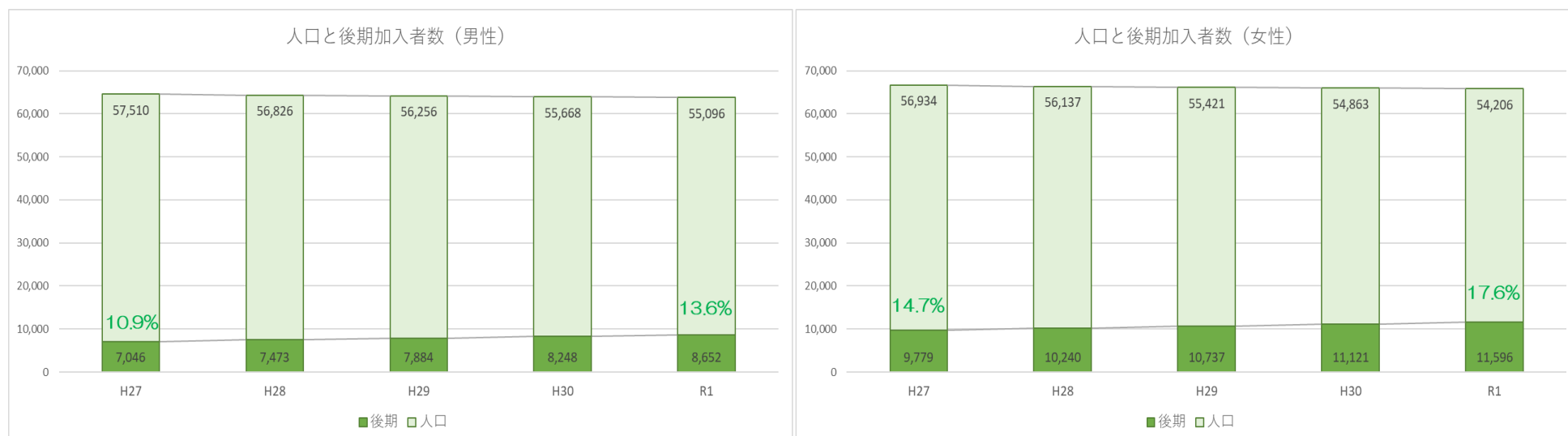
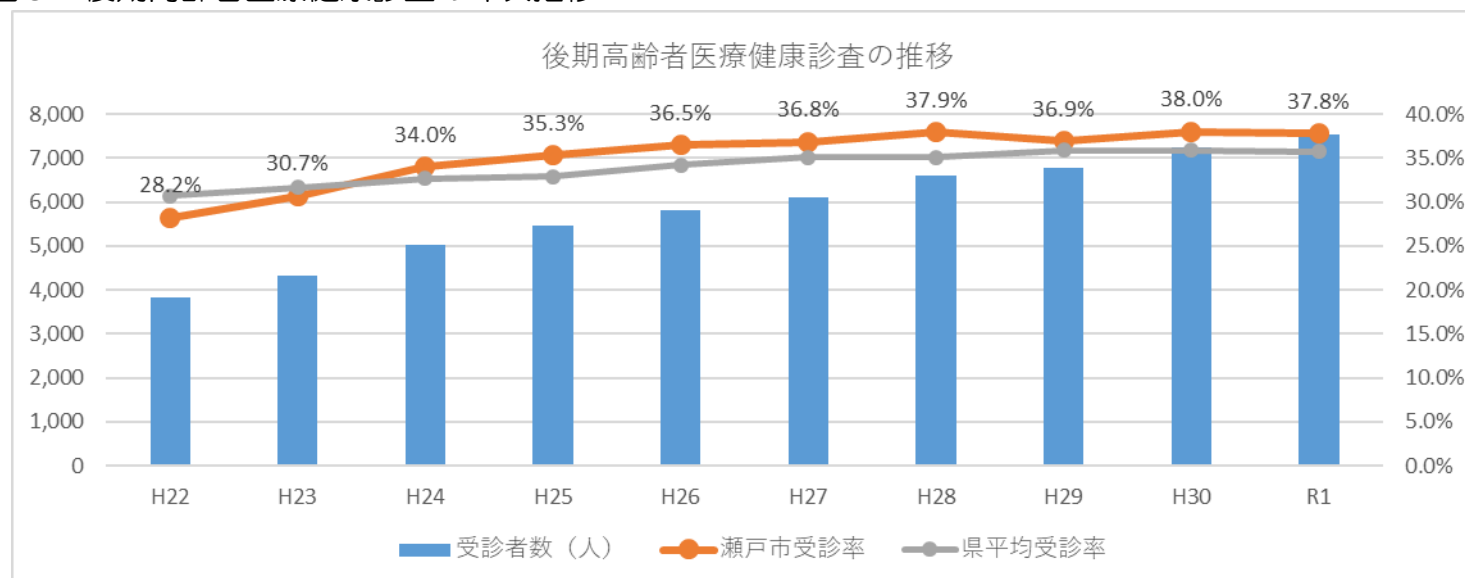


図8 出典：KDB 厚生労働省様式

(2) 後期高齢者の健康診査の受診傾向

健康診査は、国保特定健康診査と同じ体制で実施しており、図9のとおり近年の受診率はほぼ横ばいの状況です。

図9 後期高齢者医療健康診査の年次推移



出典：国保年金課資料

(3) 医療費の傾向

国保の医療費傾向と同様に、高齢者ほど様々な疾患に罹患しやすく、医療費は高額になると言われています。年齢の影響を補正したうえで医療費の分析を実施するため、年齢調整した医療費(標準化医療費)において疾病状況を把握したものが図10-1、10-2です。

国保との違いは、外来の医療費が男女ともに国と比べて高いことがわかります。

図10-1 令和元年度疾病別医療費分析(生活習慣病)男性(65歳以上)

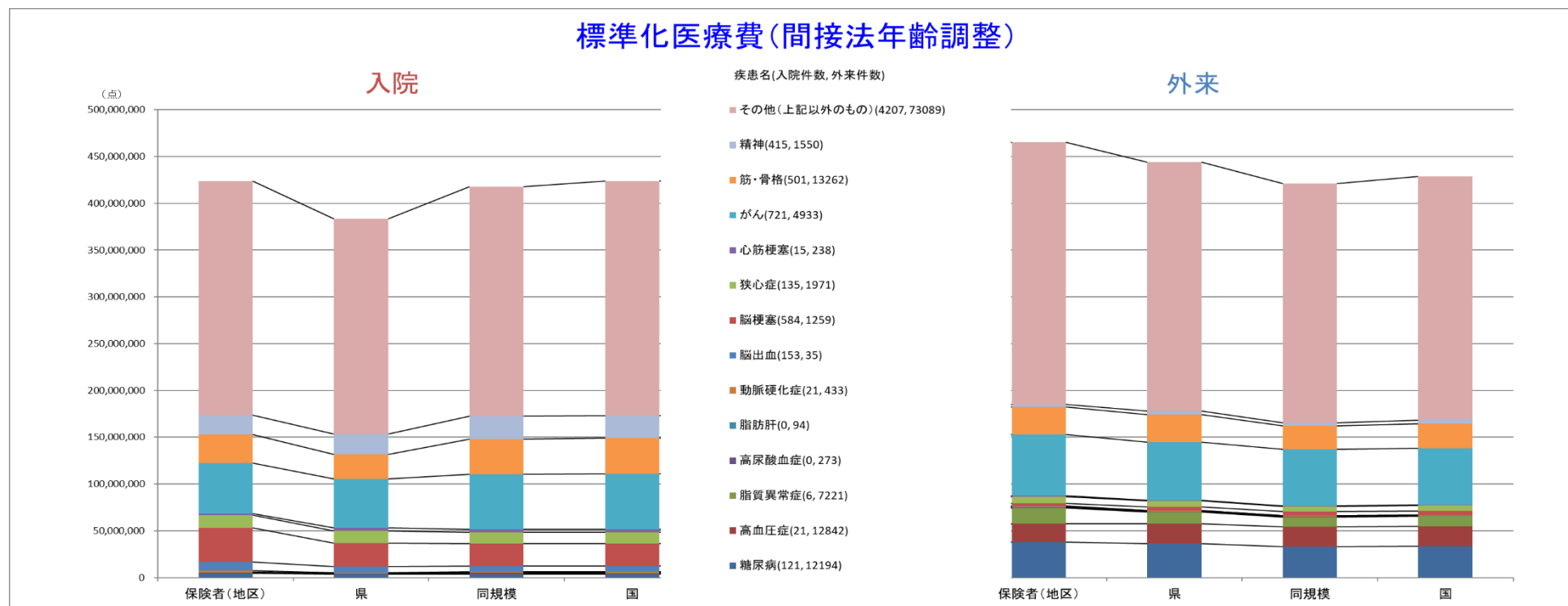
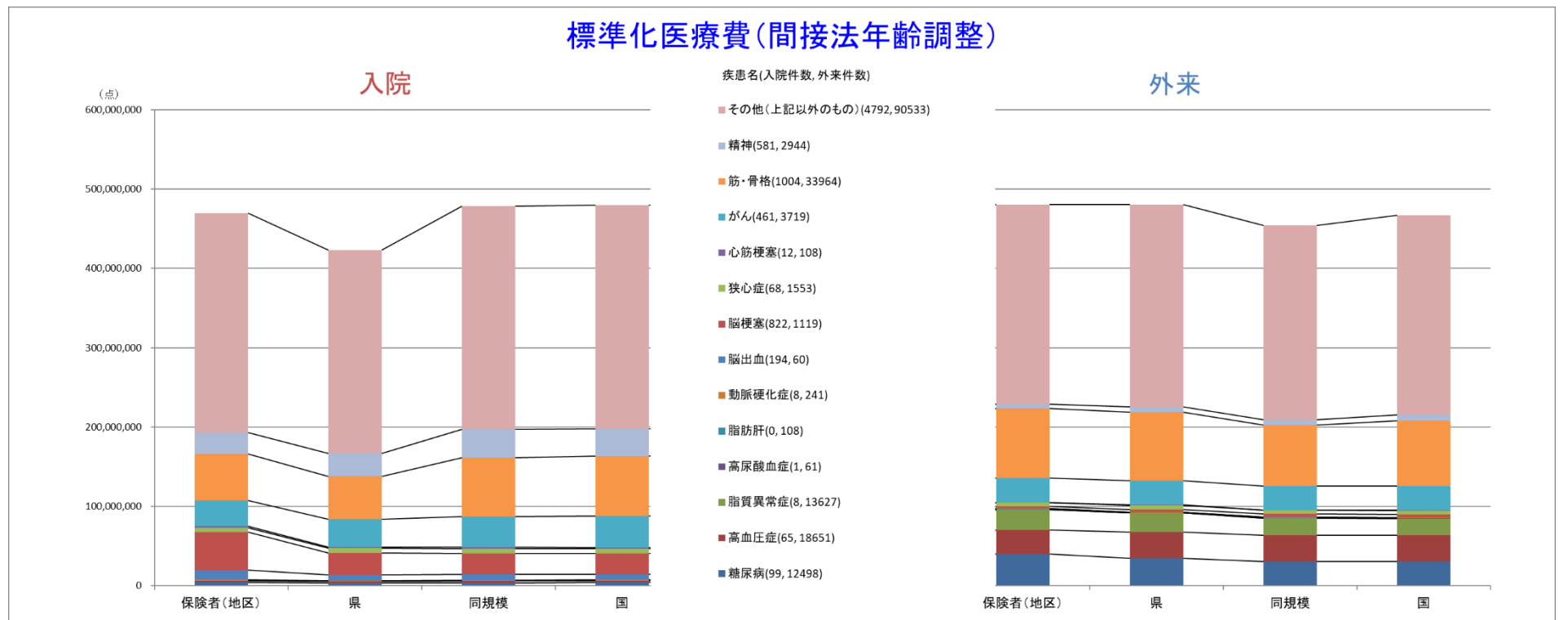


図10-2 令和元年度疾病別医療費分析（生活習慣病）女性（65歳以上）



後期高齢者医療制度の被保険者数と糖尿病、高血圧症、脂質異常症それぞれの疾患の有病者割合を見る（図10-3から10-5）と、被保険者数の増加により有病者割合もそれぞれ増加しています。特に高血圧症は男女ともに被保険者数の約半数が占めており、後期高齢者医療制度に加入する前段階からの対策が必要です。

図10-3 被保険者数と糖尿病有病者割合の経年変化

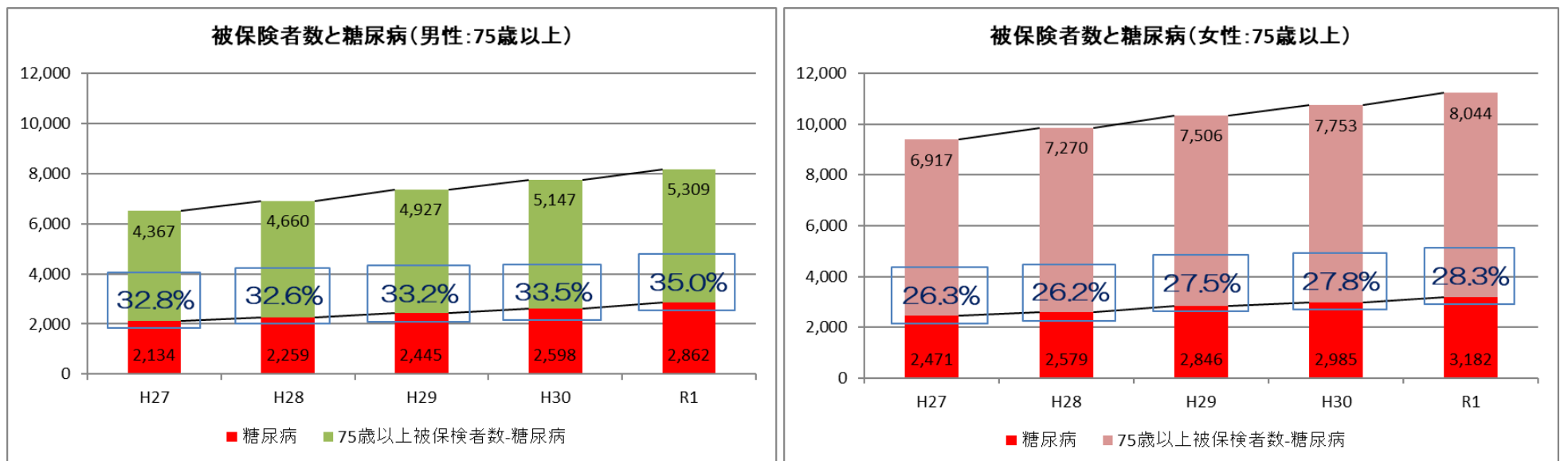


図10-4 被保険者数と高血圧症有病者割合の経年変化

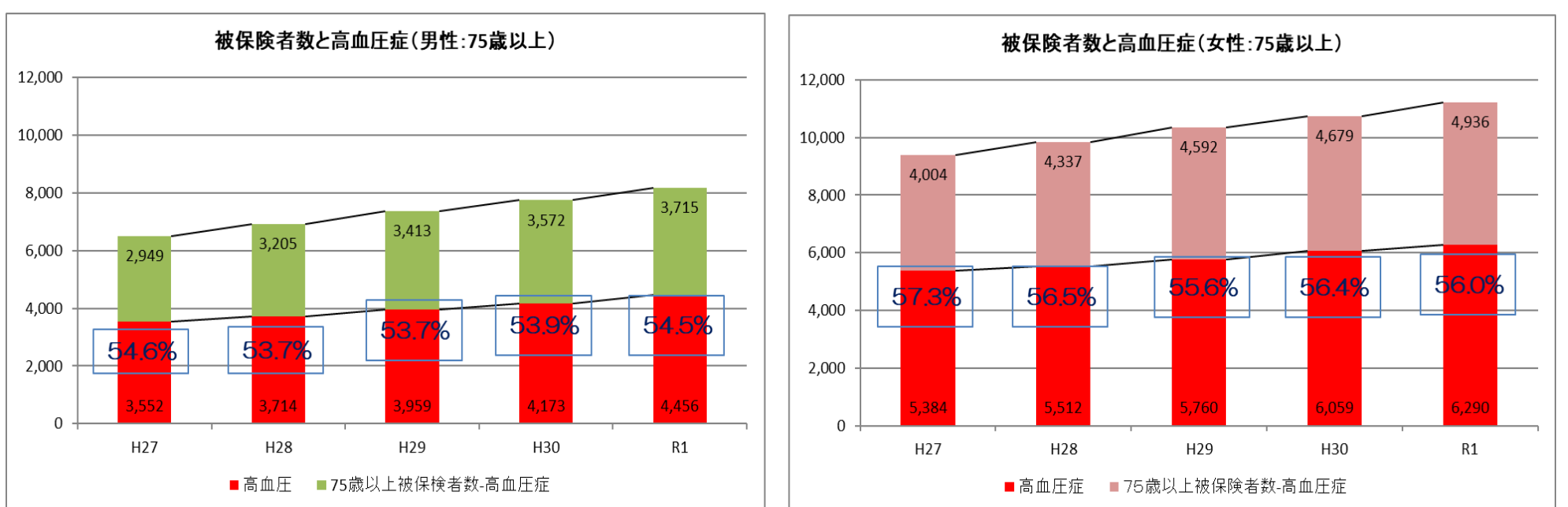


図10-5 被保険者数と脂質異常症有病者割合の経年変化

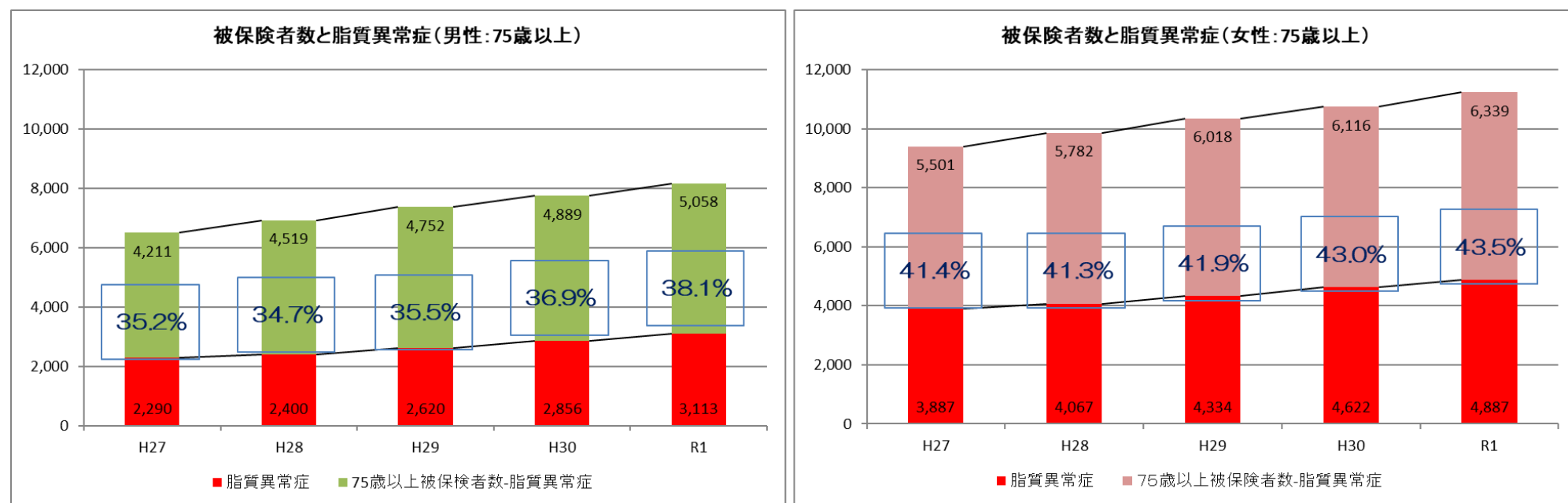
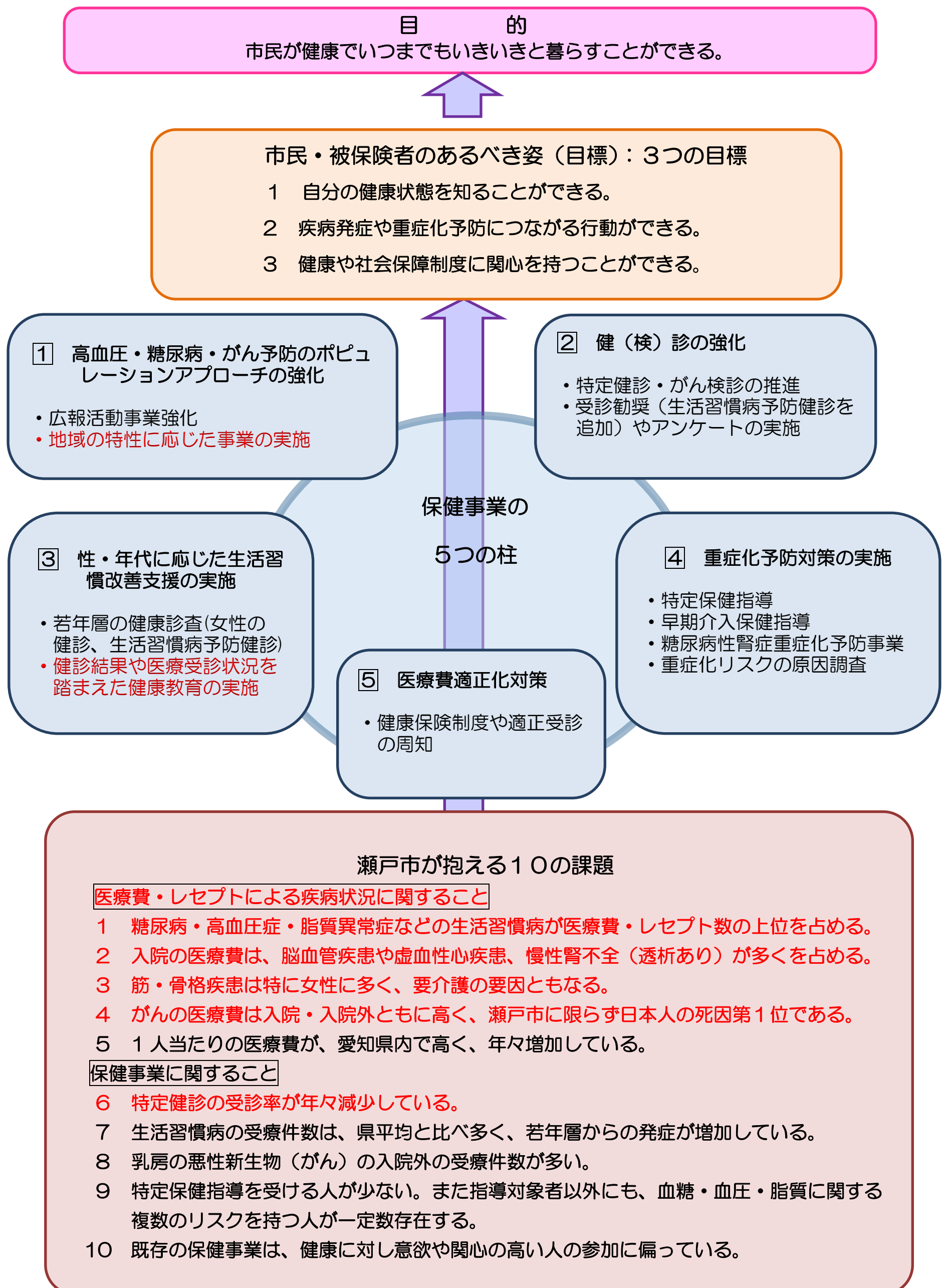


図10-1から10-5 出典：国保データベース（KDB）のCSVファイル（疾病別医療費分析（生活習慣病））より計算。
 Ver. 1.1 (2016.9.21) 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究（H25-循環器等（生習）-一般-O14）（研究代表：横山徹爾）

第5章 健康課題と対策の方向性

本計画の中間評価において、医療費や健診等の状況から「瀬戸市が抱える10の課題」と「保健事業の5つの柱」において、見直しを行い、修正した箇所を赤字としています。本計画の後半年は下記のとおり推進していきます。



第6章 保健事業の実施状況

1 特定健康診査

特定健康診査は40歳以上の国保加入者を対象に行うもので、糖尿病などの生活習慣病の予防を目的としています。メタボリックシンドロームに着目した健診で、健診結果により保健指導対象者が選定されます。瀬戸市では、健診後の円滑な医療受診をうながすことと、かかりつけ医を持ってほしいという考えのもと、平成20年度の開始当初からこの事業を瀬戸旭医師会に委託し、個別健診方式で実施しています。

(1) 受診者の状況

① 受診率の推移

瀬戸市は、図11のとおり受診率が順調に伸びていき、平成27年度に47.6%となりました。それ以降は45%前後を推移しています。

図11 特定健康診査受診率推移

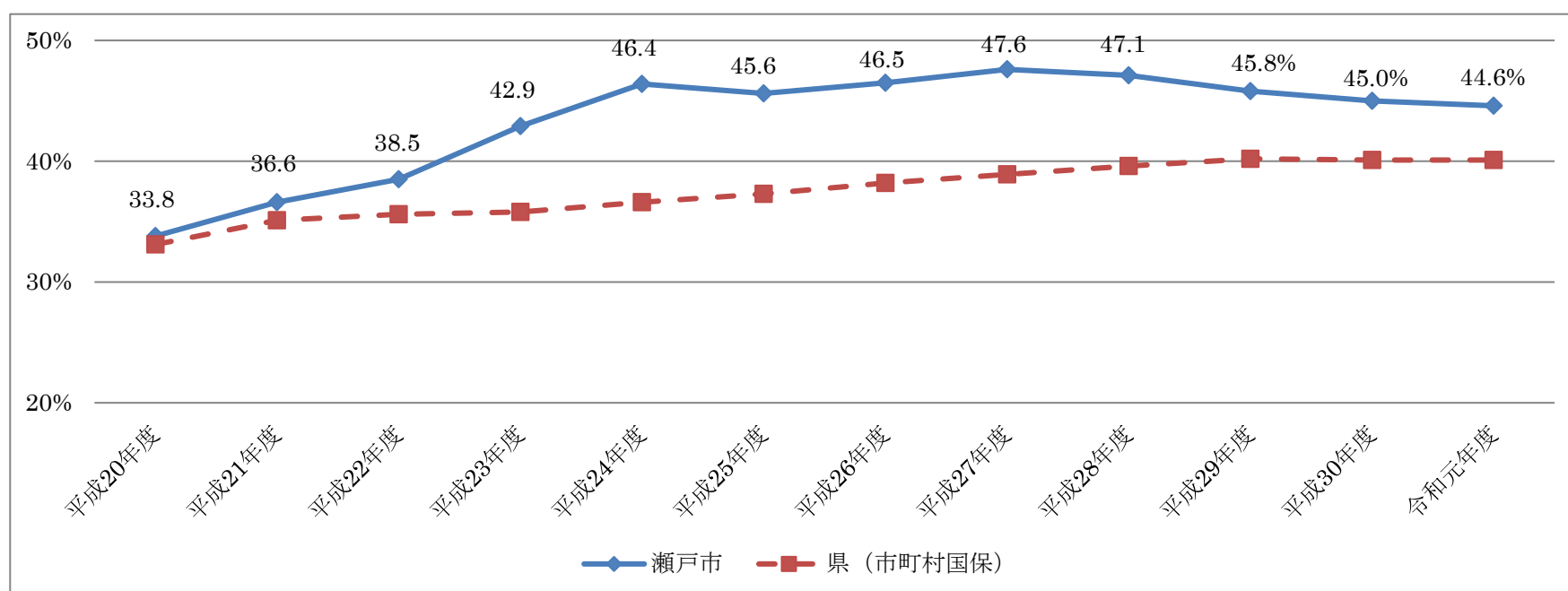


図11 出典：Alcube 帳票 法定報告

② 受診者の状況

令和元年度特定健康診査受診者を、年代や性別で見ると、最も受診率が高いのは70～74歳の女性です。図12のように、女性は男性より受診率が高い傾向にあり、最も受診率が低いのは40～44歳の男性です。瀬戸市は65歳未満の受診率が低いこと、特に男性の受診率が低いことがわかります。

図12 令和元年度 性・年代別特定健康診査受診状況

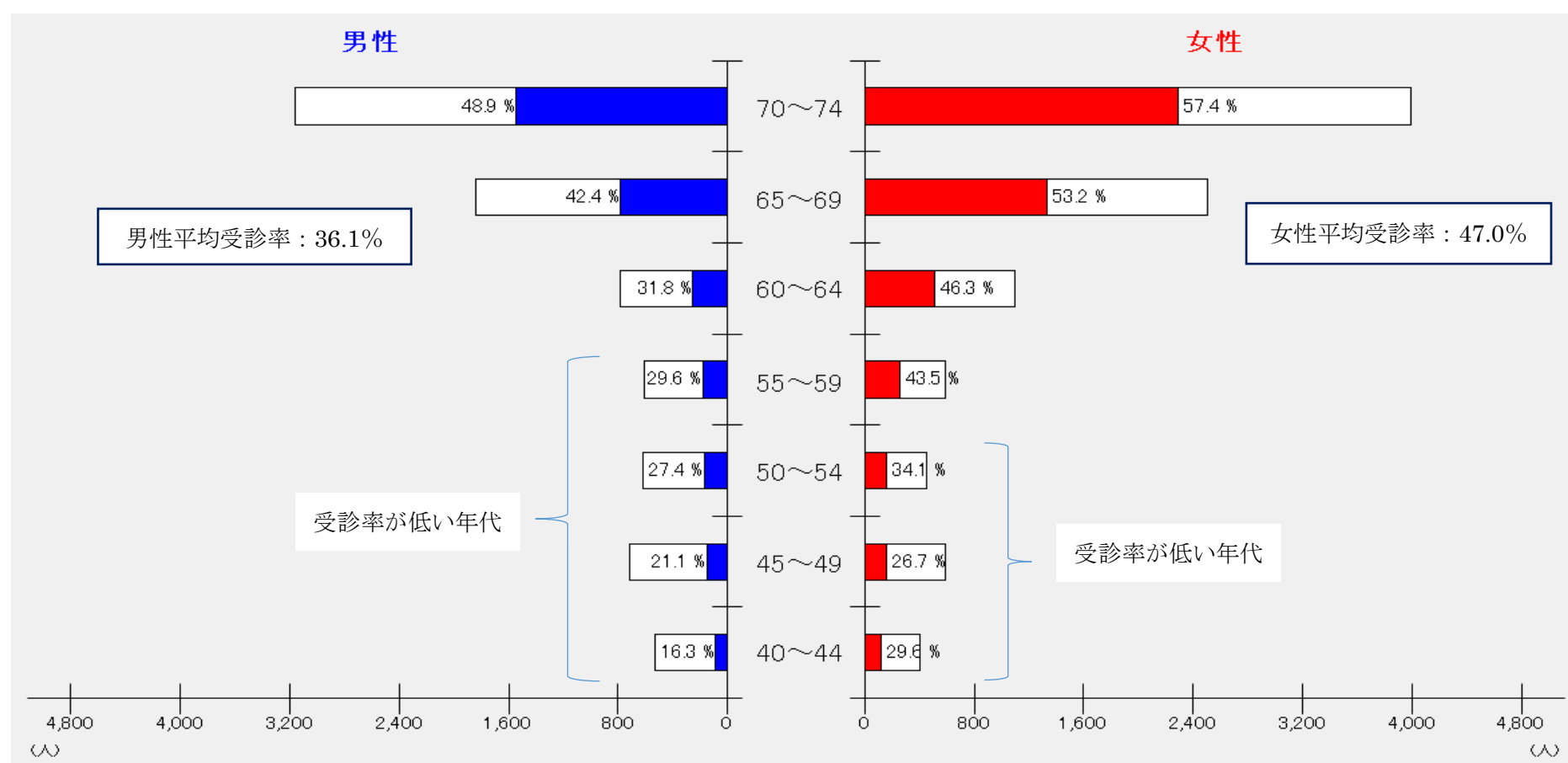


図12 出典：KDB 厚生労働省様式(様式5-4) 令和元年度健診受診状況

③受診勧奨事業




特定健診の受診率向上のため、健診期間中に受診勧奨のためのハガキを送付しています。健診受診率の低い40歳代・50歳代へ送付した結果は表6のとおりです。目標値には至りませんが、ハガキの送付により40歳代で2割、50歳代で3割の受診があるため、今後も継続して実施していきたいと考えています。

表6 特定健康診査受診勧奨事業結果

アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度
40歳代の受診率の向上 H28年度 40代 24.7%	目標値	25.7%	24.2%	23.7%
	実績値	23.2%	22.7%	21.2%
	達成状況	90.3%	93.8%	89.5%
50歳代の受診率の向上 H28年度 50代33.6%	目標値	33.6%	33.5%	34.1%
	実績値	32.5%	33.1%	31.6%
	達成状況	96.7%	98.8%	92.7%

表6 出典：国保年金課資料

また上記に加え、令和元年度は平成26年度から平成30年度の期間中、5年連続受診者・連続未受診者以外の方へパターン別に内容をかえて勧奨ハガキを送付し、下記のとおり受診につながりました。

	パターンA	パターンB	パターンC
内容	健診問診票にて20歳から体重+10kgで、生活習慣改善の意思がある方 	健診問診票にて生活習慣改善の意思がないと把握できた方 	A・B以外の方（健康意識が高い方・40～45歳の方等） 
送付数	1,860人	2,164人	3,771人
受診数	1,118人	1,251人	1,920人
受診割合	60.1%	57.8%	50.9%

③健診未受診者対策

図13は特定健診未受診者に対してアンケートを実施した結果です。

令和元年度939名へアンケートを実施し、239名の回答があり、回答率は25.5%でした。

結果は「病院で定期的に検査をしているから」と「職場健診や人間ドックなど他の健診を受けているから」という2つの理由を合わせると約半数を占めるものとなりました。

図13 特定健康診査未受診理由アンケート回答

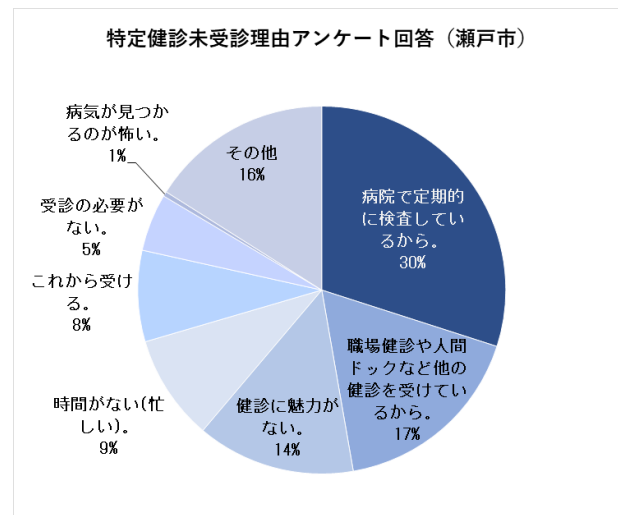


図13 出典：国保年金課資料

④ 健診結果からみえる傾向

健診結果の有所見者状況について、平成28年度から経年推移において、国や愛知県と比較して瀬戸市の有所見者割合が男女とも高いものが「中性脂肪150以上」「HDL-C40未満」です。標準化比は平成28年度の国を100とした際、特に「中性脂肪150以上」において、国は経年変化が横ばいに対し、瀬戸市は国より高く、増加していることがわかります。「HDL-C40未満」は国と同様、減少しているものの割合としては多い状況です。

「HbA1c5.6以上」「収縮期血圧130以上」「拡張期血圧85以上」「LDL-C120以上」は国や県と比較した際、瀬戸市が大きく上回る内容ではありませんが、医療費の傾向で触れたように糖尿病・高血圧症・脂質異常症の要因となるため、今後の推移を把握していく必要があると考えます。

図1 4-1 健診有所見者状況（中性脂肪 150 以上男性・年齢調整）の経年推移

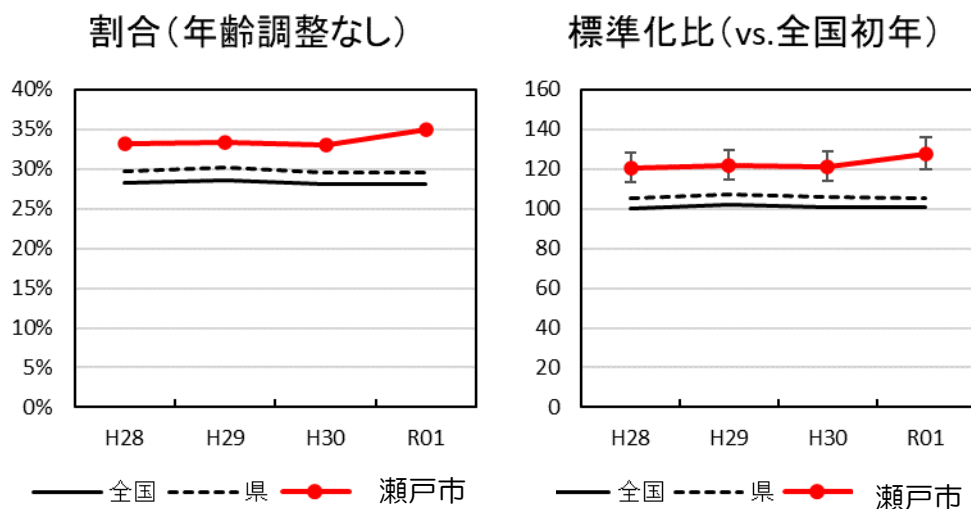


図1 4-2 健診有所見者状況（中性脂肪 150 以上女性・年齢調整）の経年推移

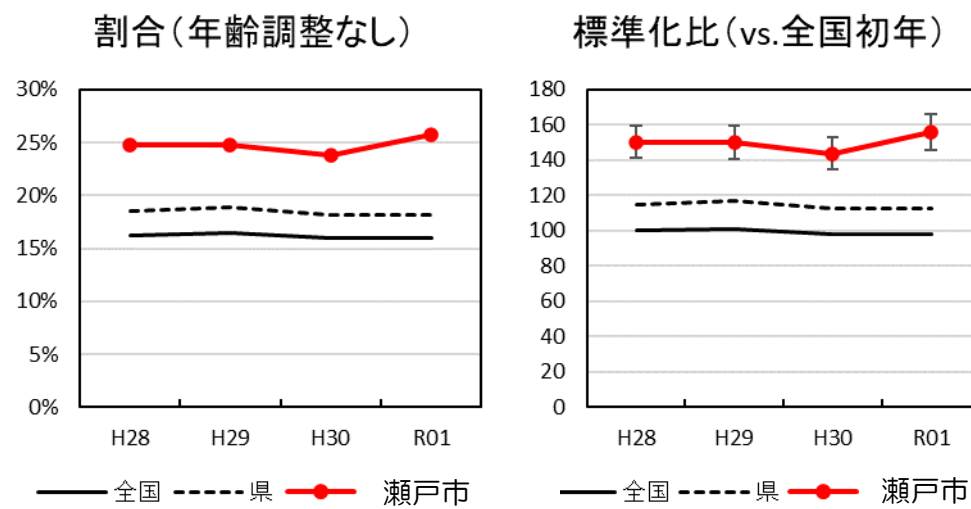


図1 4-3 健診有所見者状況（HDL-C40 未満男性・年齢調整）の経年推移

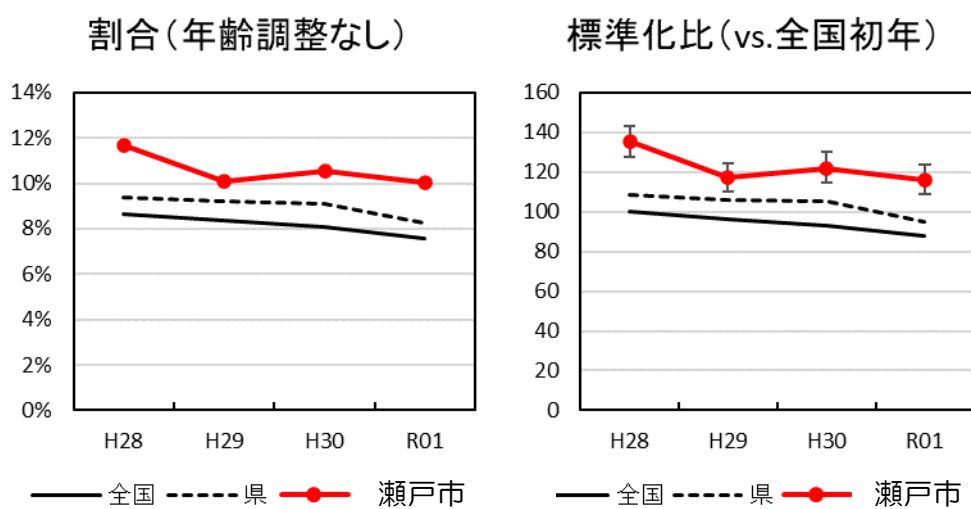


図1 4-4 健診有所見者状況（HDL-C40 未満女性・年齢調整）の経年推移

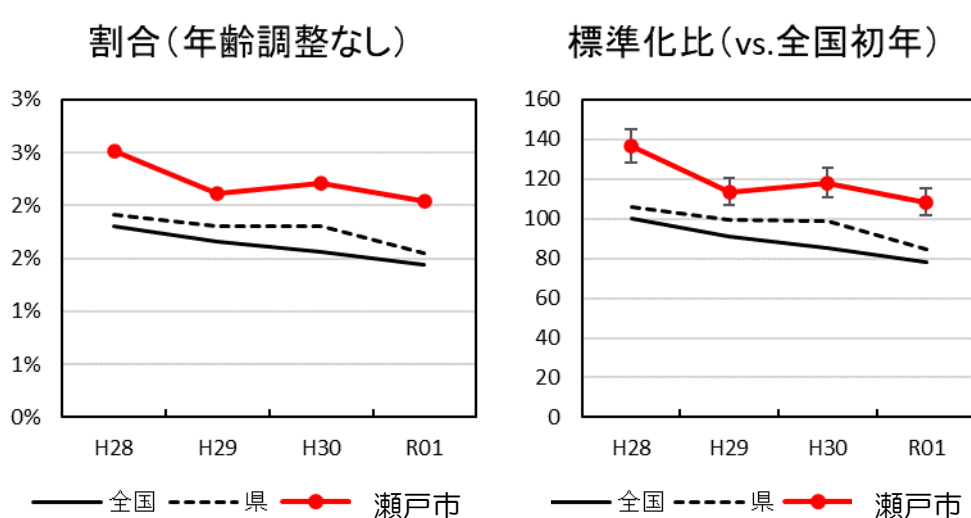


図1 4-5 健診有所見者状況（HbA1c5.6 以上男性・年齢調整）の経年推移

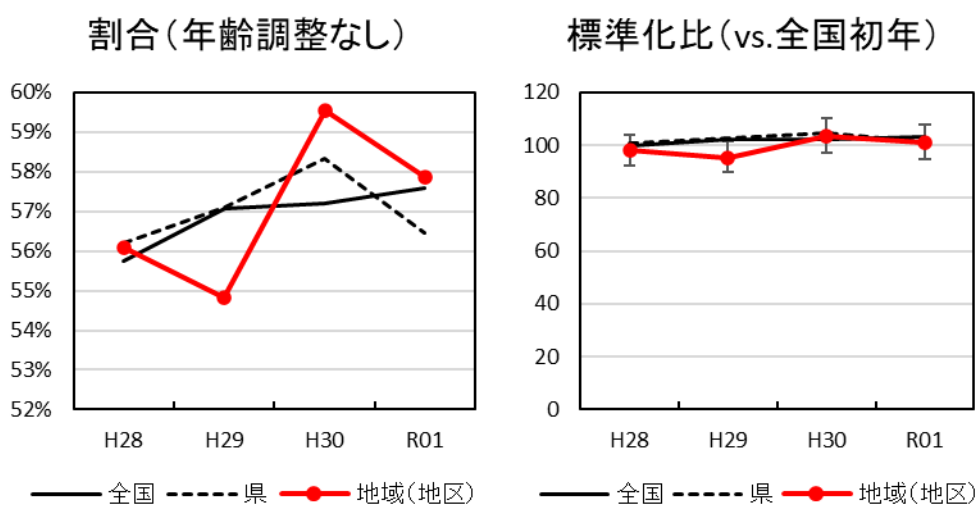


図1 4-6 健診有所見者状況（HbA1c5.6 以上女性・年齢調整）の経年推移

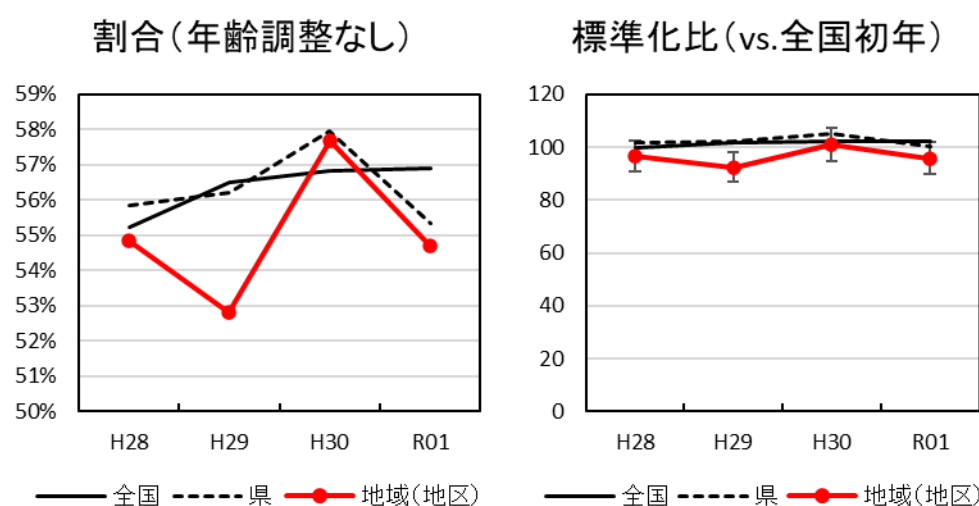


図1 4-7 健診有所見者状況（収縮期血圧 130 以上男性・年齢調整）の経年推移

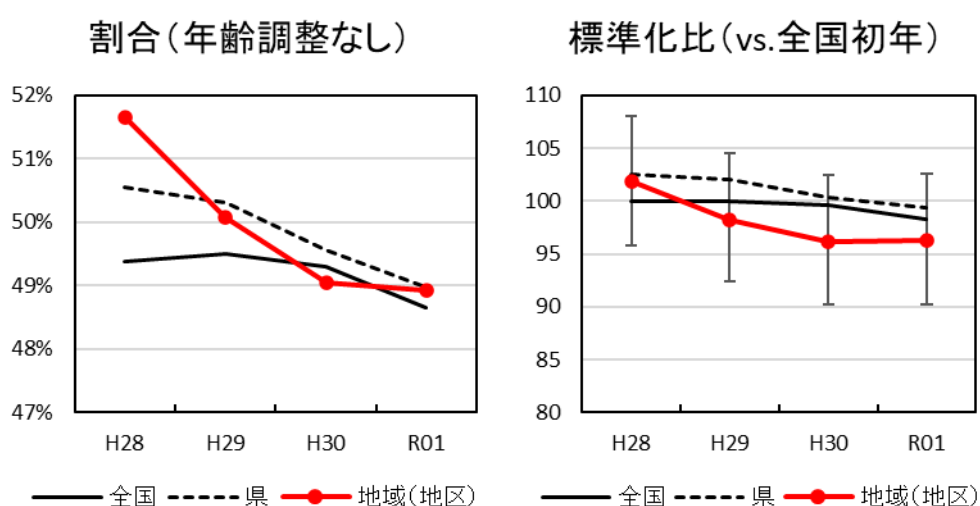


図1 4-8 健診有所見者状況（収縮期血圧 130 以上女性・年齢調整）の経年推移

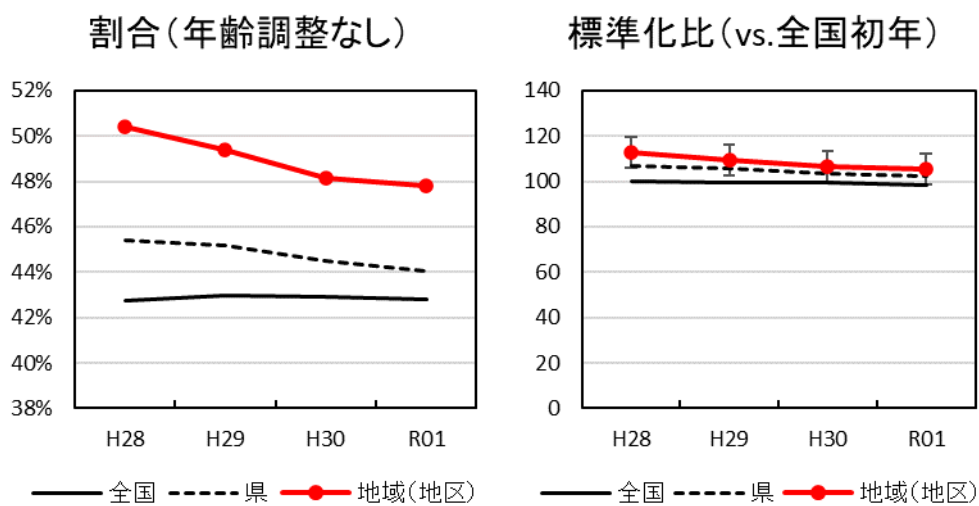


図14-9 健診有所見者状況（拡張期血圧85以上男性・年齢調整）の経年推移

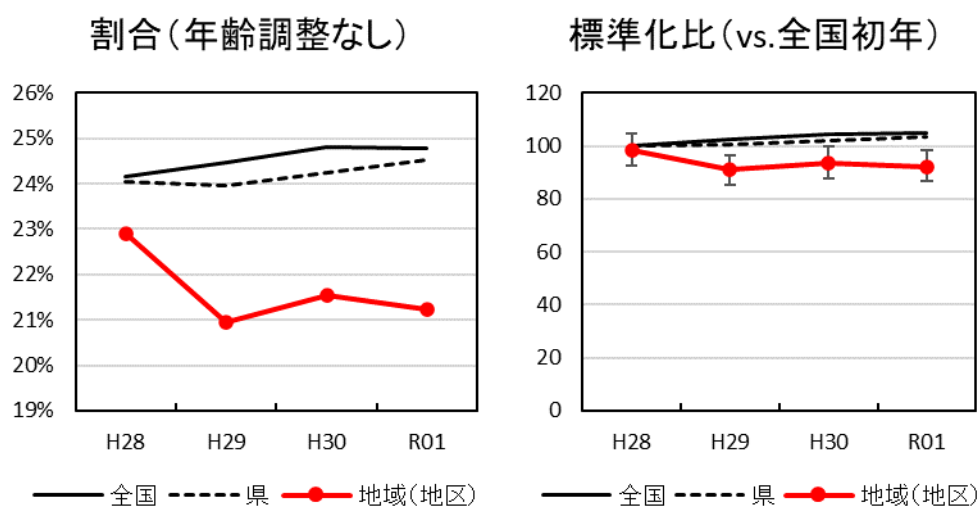


図14-10 健診有所見者状況（拡張期血圧85以上女性・年齢調整）の経年推移

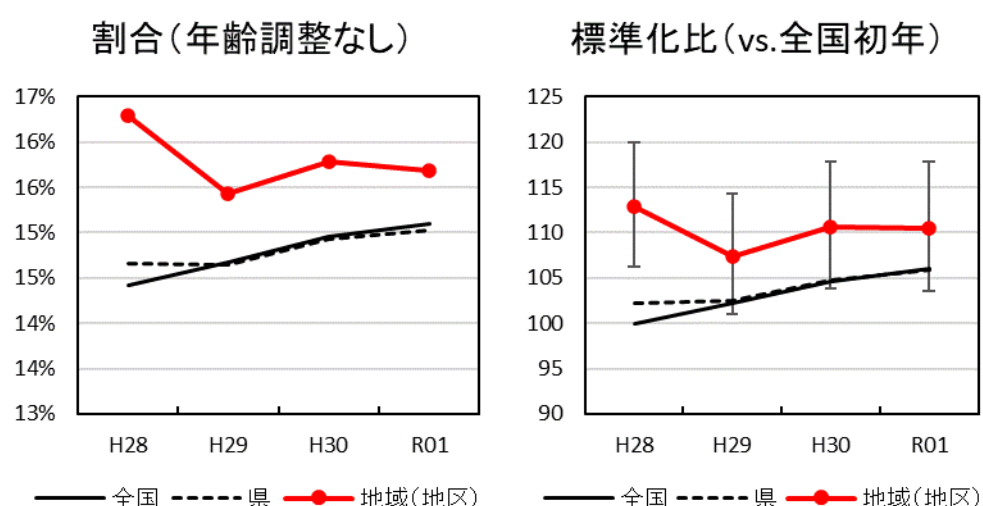


図14-11 健診有所見者状況（LDL-C120以上男性・年齢調整）の経年推移

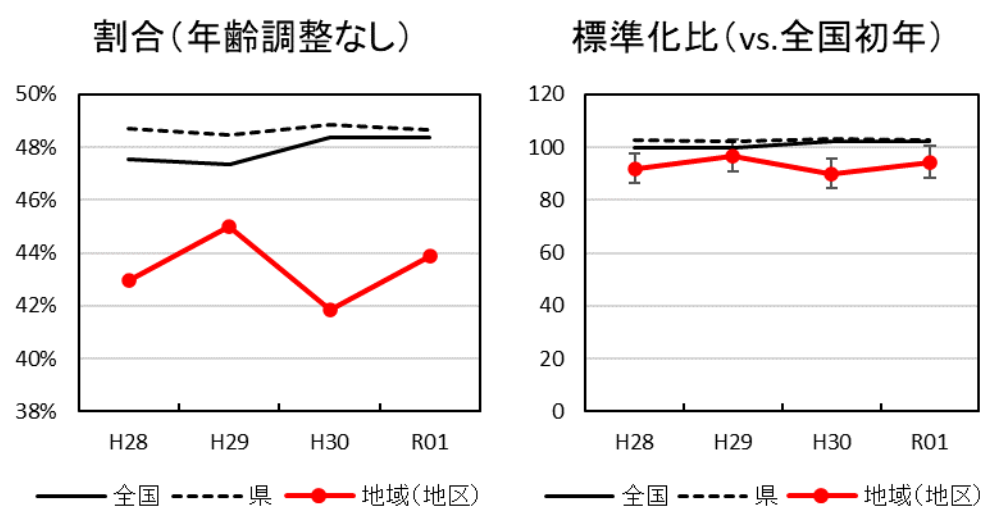


図14-12 健診有所見者状況（LDL-C120以上女性・年齢調整）の経年推移

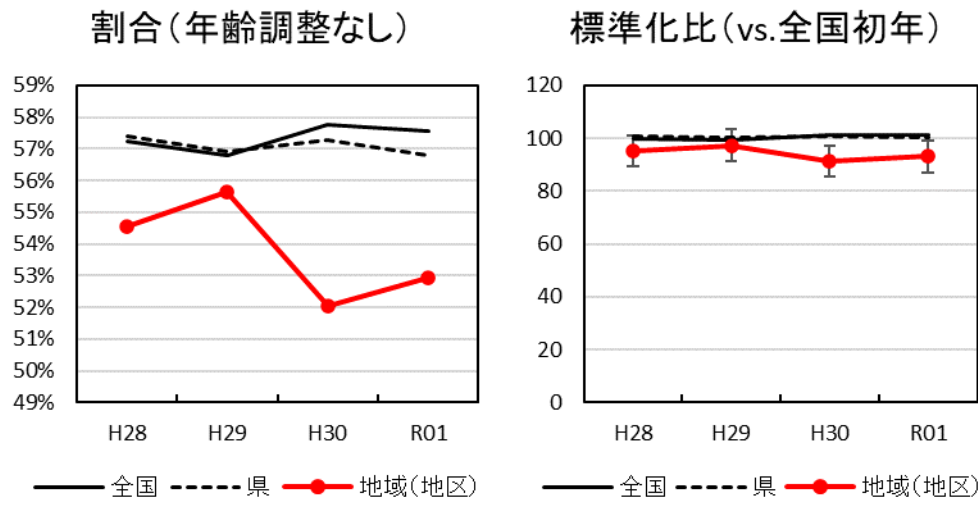


表7の健診結果有所見の重複割合において、「血糖・脂質」「血圧・脂質」の2つ、「血糖・血圧・脂質」の3つを重複している割合が愛知県や国と比べて高い傾向です。これらが重複することにより、動脈硬化のリスクとなり、脳血管疾患や虚血性心疾患へとつながるため、早期から介入する必要があります。

表7 健診結果有所見の重複割合

	瀬戸市			愛知県			国		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1
血糖・脂質	1.1%	1.3%	1.3%	1.0%	1.1%	1.1%	1.0%	1.0%	1.1%
血糖・血圧	1.9%	1.9%	1.9%	2.6%	2.6%	2.9%	2.8%	2.9%	2.9%
血圧・脂質	10.0%	9.8%	10.2%	9.6%	9.5%	9.7%	8.3%	8.8%	9.0%
血糖・血圧・脂質	5.9%	6.4%	6.7%	6.0%	6.2%	6.3%	5.5%	5.8%	6.0%

表7 出典：KDB 平成29～令和元年度地域の全体像の把握

⑤ 受診者の問診から見える特徴

受診者の中には、生活習慣病で治療中の人も含まれますが、表8のように糖尿病・高血圧・脂質異常症に関して服薬している人の割合が県より高いことがわかります。

表8 健診受診者の内服状況（質問票より）

質問票の内容	瀬戸市	愛知県	国
服薬：高血圧症	37.1%	34.4%	34.5%
服薬：糖尿病	10.1%	8.9%	8.7%
服薬：脂質異常症	31.9%	27.3%	25.5%

表8 出典：KDB 令和元年度地域の全体像の把握

2 特定保健指導（動機づけ支援・積極的支援）

瀬戸市の特定保健指導のうち、図15-1の動機づけ支援及び図15-2積極的支援の対象者数は年々減少しています。しかしそれぞれの割合をしてみると、図15-3の動機づけ支援の過去5年間の推移は、対象率は年々増加していること、利用率と終了率の差が縮まっていることがわかります。一方、図15-5の積極的支援の過去5年間の推移は、対象率が2.0%前後で推移しているものの、利用率・終了率が大きく減少しています。積極的支援はメタボリックシンドロームに大きく関与し、将来的な疾病等の影響が強くなるため、まずは利用率を高めることが必要と考えます。

※なお、積極的支援の令和元年度における終了率が0%なのは、新型コロナウイルス感染症により事業を中止したためです。

図15-1 特定保健指導（動機づけ支援）の利用状況の年次推移

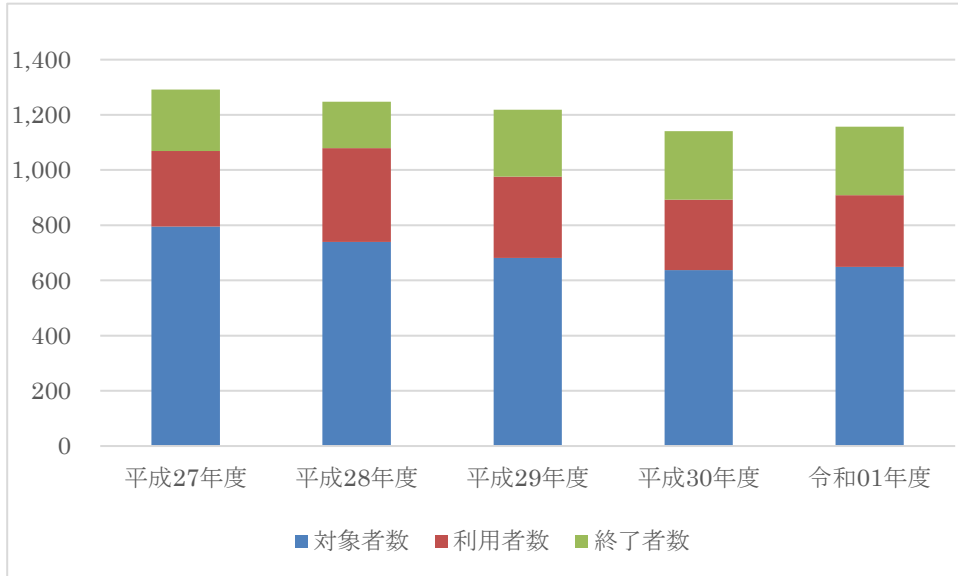


図15-2 特定保健指導（積極的支援）の利用状況の年次推移

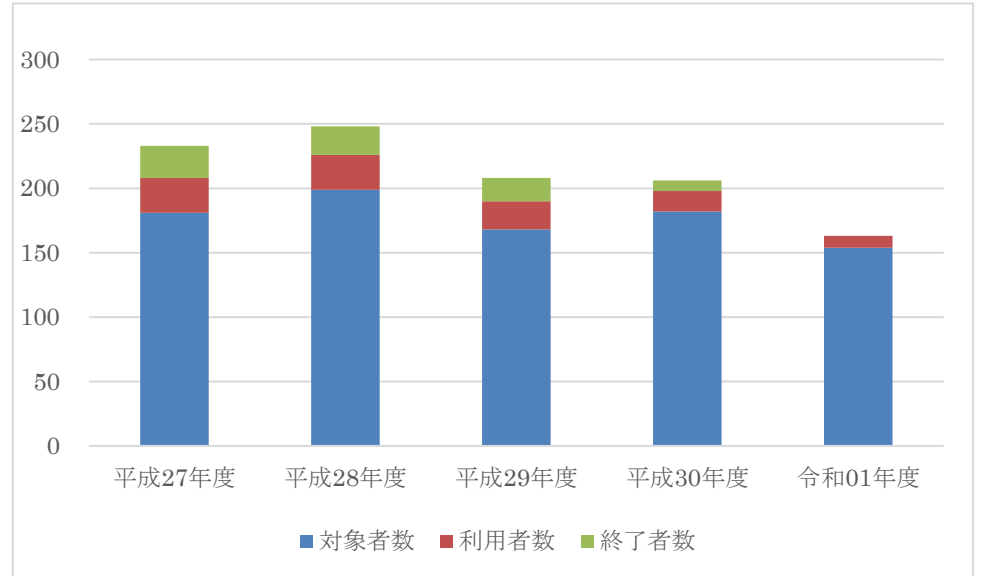


図15-3 動機づけ支援の過去5年間の推移（瀬戸市）

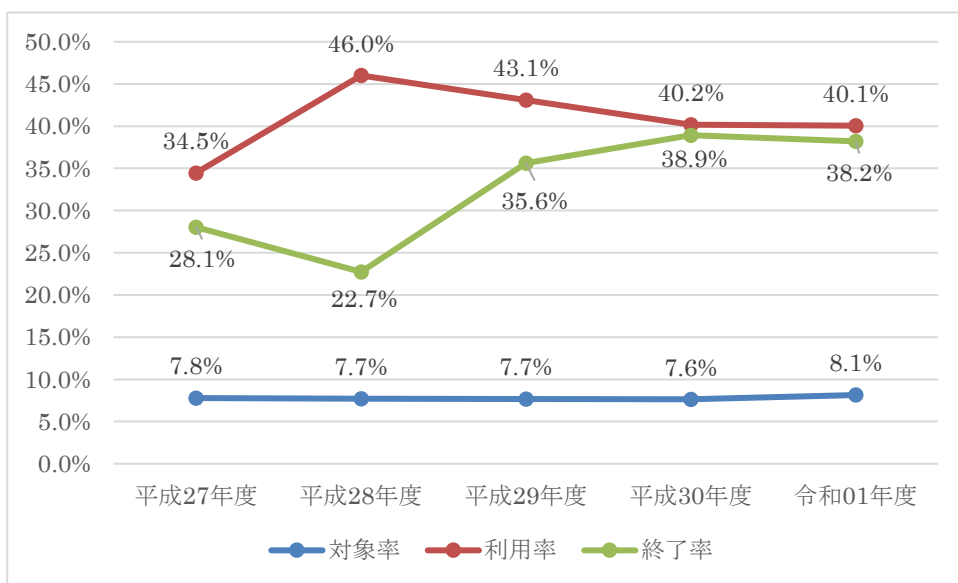


図15-4 動機づけ支援の過去5年間の推移（愛知県）

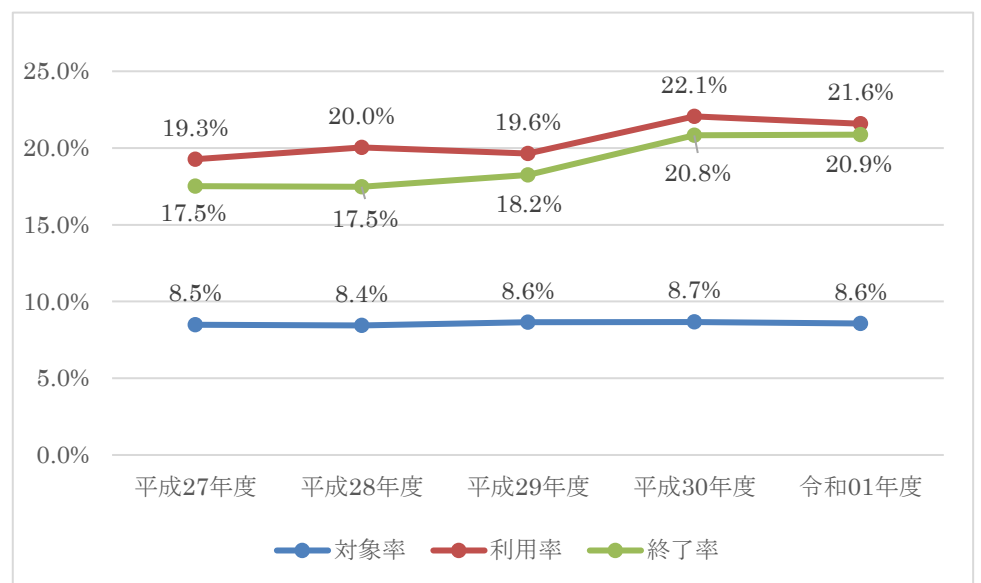


図15-5 積極的支援の過去5年間の推移（瀬戸市）

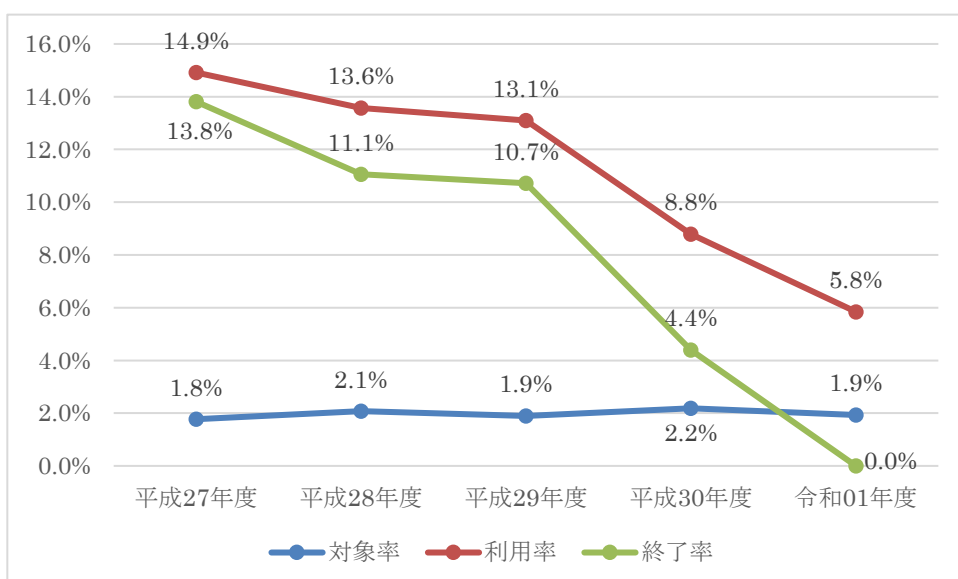


図15-6 積極的支援の過去5年間の推移（愛知県）

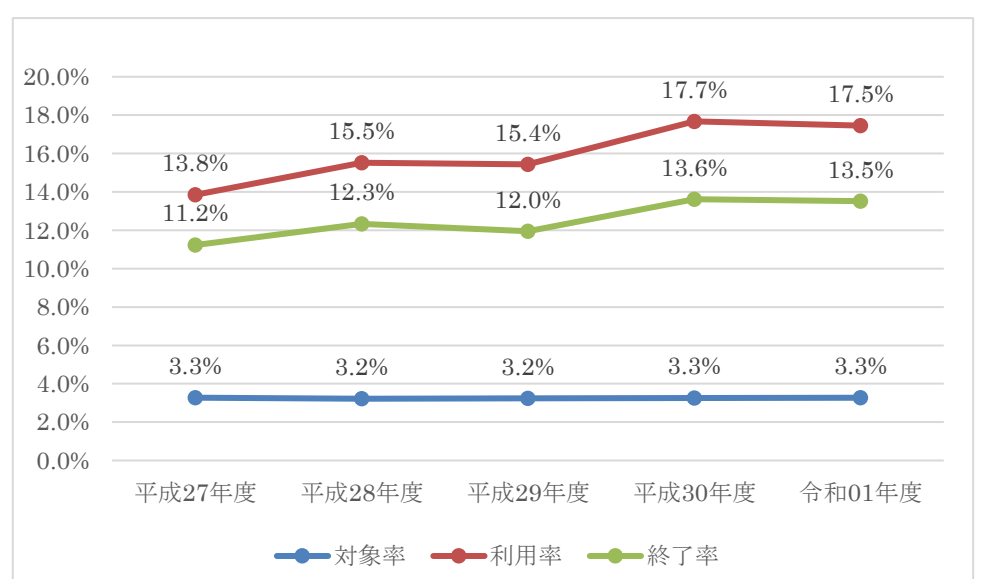


図15-1から15-6 出典：AI Cube 帳票 法定報告

3 生活習慣病予防健康診査

より早期の生活習慣病の発見や、健診受診の習慣化等を目的に30歳代の被保険者に対し、健康診査を実施しています。特定健康診査に準じた「基本健康診査」を必須項目とし、選択検査として胃部エックス線検査、便潜血反応検査、胸部エックス線検査、腹部超音波検査を行っています。

図16は、基本健康診査の受診率の推移です。年々、対象者数は減少傾向にありますが、受診率は増加傾向です。特に令和元年度

の受診率が増加した理由として、これまで勧奨ハガキの送付を節目年齢のみの実施を、全年齢に対象枠を広げたことで効果があったものと思われます。国保特定健診の前段階である30歳代の受診率を高め、40歳以降になっても定期的に健診受診につながるよう対策していきます。

健診結果の有所見状況においては、脂質異常や肝機能障害が見られます。30歳代に有所見者が存在し、生活習慣を改善すべき状態であることから、この年代への生活習慣病予防対策も必要であると考えられます。

図16 生活習慣病予防健康診査年次推移

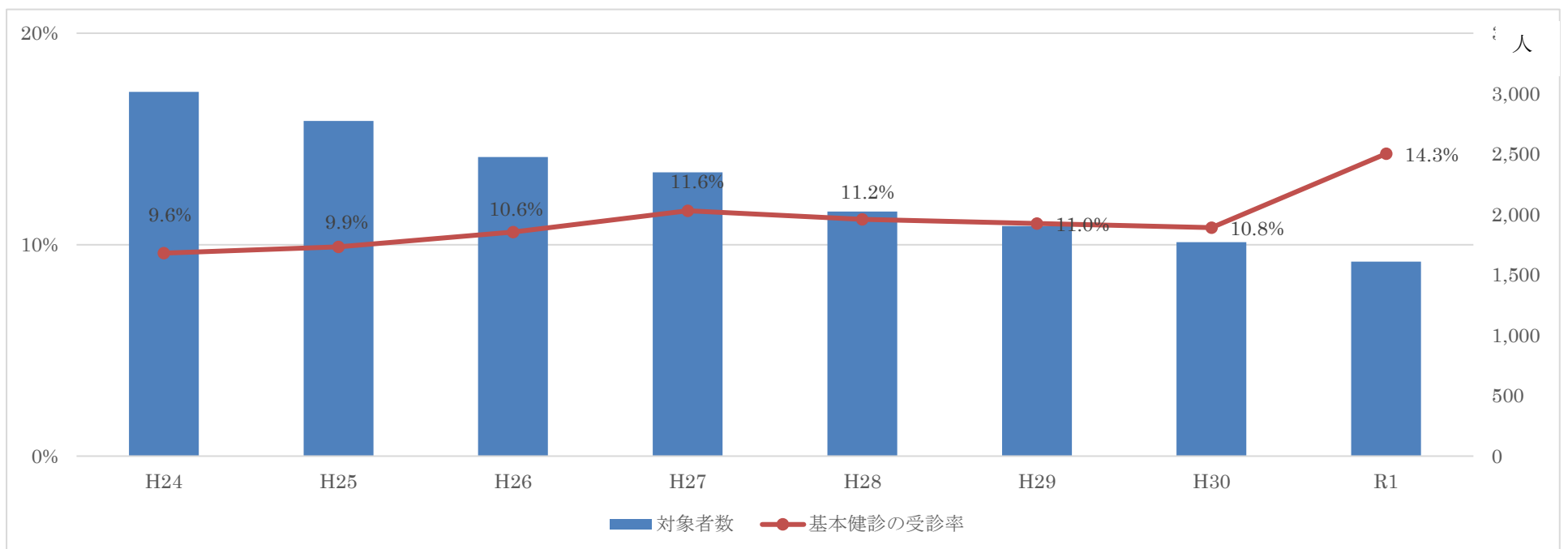


図16 出典：国保年金課資料

表9 令和元年度 受診結果 有所見の状況

有所見項目	n=230人		
	男	女	計
中性脂肪	23	5	28 (12.2%)
HDLコレステロール	7	0	7 (3.0%)
LDLコレステロール	25	14	39 (17.0%)
ALT	10	1	11 (4.8%)
AST	2	0	2 (0.9%)
HbA1c	16	14	30 (13.0%)
収縮期血圧	4	3	7 (3.0%)
拡張期血圧	6	4	10 (4.3%)
貧血	0	6	6 (2.6%)
尿酸	22	0	22 (9.6%)

表9 出典：国保年金課資料

4 糖尿病性腎症重症化予防事業

平成30年度より新規事業として、糖尿病性腎症重症化予防事業を実施しています。これは糖尿病の重症度や医療機関の受診状況等に応じて、適切な情報提供、受診勧奨、保健指導を行うことにより、生活習慣の改善や医療機関の治療に結びつけ、糖尿病による重症化のリスクの高い者に対して腎不全、人工透析への移行を防止することを目的としています。

(1) 受診勧奨

特定健康診査において、血糖値が基準値以上等で未治療と思われるハイリスク者に対して重症化を防ぐため受診勧奨を行います。受診勧奨したことで医療機関へ受診したことを目標値として把握します。

アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度
勧奨による受診率	目標値	—	30%以上	30%以上
	対象者数	—	8人	56人
	受診割合	—	50.0%	55.4%
	達成状況	—	166.7%	184.7%

(2) 保健指導

糖尿病治療中で、かかりつけ医が保健指導の実施が望ましいと判断し、対象者本人の同意が得られた者に対し、一定期間保健指導を実施します。被保険者の透析新規移行者の減少を目標にしています。

アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度
透析新規移行者の減少	目標値	—	前年度より減少	前年度より減少
	実績値	12人	20人	20人
	達成状況	—	増加	横ばい

令和元年度、保健指導（個別）を実施した方の結果は表10のとおりです。6名の方に実施し、維持が2名、改善が4名でした。

表10 令和元年度保健指導（個別）実施者の結果

対象	性別	年齢	腎症病期	検査値	紹介時	直近	評価	総合評価
A	男	73	2期	随時血糖	171	—	—	維持
				HbA1c	6.7	6.6	維持	
				eGFR	85	—	—	
B	女	69	3期	随時血糖	183	301	悪化	維持
				HbA1c	10.9	9.5	改善	
				eGFR	60.0	56.6	維持	
C	女	72	1期	随時血糖	130	120	改善	改善
				HbA1c	6.4	6.4	維持	
				eGFR	63.3	—	—	
D	女	69	2期	随時血糖	155	127	改善	改善
				HbA1c	8.1	7.7	改善	
				eGFR	69	64	悪化	
E	男	70	3期	随時血糖	170	—	—	改善
				HbA1c	9.0	8.2	改善	
				eGFR	36	43.4	改善	
F	男	69	2期	随時血糖	130	144	悪化	改善
				HbA1c	7.3	6.3	改善	
				eGFR	64.1	75.5	改善	

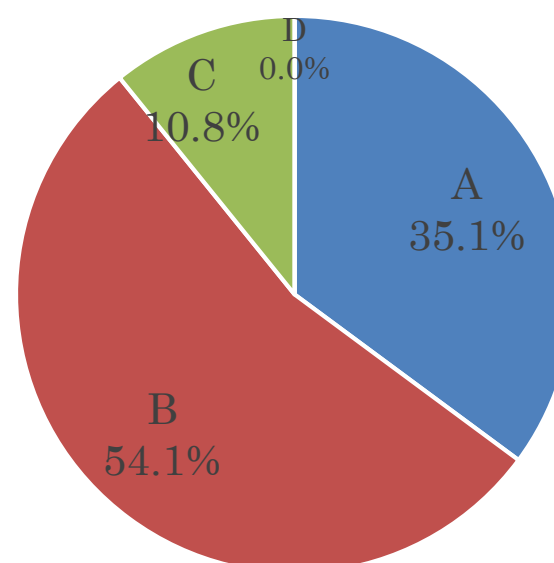
5 保健事業の実施状況

保健事業は38事業で評価が可能な37事業について、中間年での達成状況を把握しました。

37事業中、Bが54.1%であり半数を占めるため、それぞれの事業で不十分な点を改善していき、後半年もよりよい事業を実施していきたいと思えます。各保健事業の目標や実施状況については26頁以降をご覧ください。

図17 保健事業評価

- A・・・順調にすすめている。現状のまま推進していく。
- B・・・おおむね順調だが、不十分な点が少しある。
- C・・・推進できている部分もあるが、不十分な点も多い。
- D・・・推進の方法を含め、改善が必要である。



データヘルス計画(第2期) 事業評価表

No	保健事業の 5つの柱		市民の あるべき姿	事業	担当課
	1	2			
1	1	2	3	広報事業	健康課・国保年金課
2	1	3	3	講演会・イベント	健康課
3	1		3	めたぼうし体操の普及活動	健康課
4	1		3	せと健康マイレージ	健康課
5	1		2	保健推進員活動	健康課
6	1		2	健康づくり食生活改善推進員活動	健康課
7	1		2	せといきいき健康グルメ	健康課
8	2		1	特定健康診査	国保年金課
9	2	3	1	瀬戸市国保生活習慣病予防健康診査（短期人間ドック）	国保年金課
10	2		1	特定健康診査受診率向上対策（勸奨事業）	国保年金課
11	2		1	生活習慣病予防健康診査（短期人間ドック）受診率向上対策	国保年金課
12	2		1	歯科事業	健康課
13	2		1	女性の健康診査	健康課
14	2		1	がん検診（1）がん検診受診率向上対策	健康課
15	2		1	がん検診（2）がん検診精度管理	健康課
16	2		1	がん検診（3）肺がん検診	健康課
17	2		1	がん検診（4）胃がん検診	健康課
18	2		1	がん検診（5）大腸がん検診	健康課
19	2		1	がん検診（6）子宮頸がん検診	健康課
20	2		1	がん検診（7）乳がん検診	健康課
21	2		1	がん検診（8）前立腺がん検診	健康課
22	3		2	健康教育（母子）	健康課
23	3		1	健康相談	健康課
24	3		2	健康教育（成人1：年齢別習慣別運動教室）	健康課
25	3		2	健康教育（成人2：食事・栄養関連教室）	健康課
26	3		2	健康教育（成人3：外部依頼による健康教室）	健康課
27	3		1	学童期生活習慣病対策健診事業	健康課
28	3		1	訪問指導	健康課
29	4		2	減塩プロジェクト 減塩のための栄養指導教室	健康課
30	4		2	特定保健指導（動機付け支援）	国保年金課
31	4		2	特定保健指導（積極的支援）	国保年金課・健康課
32	4		2	重症化予防事業（早期介入保健指導）	国保年金課
33	4		2	糖尿病性腎症重症化予防事業（受診勸奨事業）	国保年金課・健康課
34	4		2	糖尿病性腎症重症化予防事業（保健指導事業）	国保年金課・健康課
35	5		3	ジェネリック医薬品知識普及、差額通知	国保年金課
36	5		3	医療費通知	国保年金課
37	5		3	重複多受診者保健指導	国保年金課
38	5		3	健康保険制度・適正受診の周知	国保年金課

事業評価表

No.1

事業名	広報事業	担当課	健康課・国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
	2 健(検)診の強化								
目的	健康意識の向上								
対象者	市民								
実施計画	①がん、高血圧、糖尿病等に関する広報記事(健診案内、健康コラム、健診結果からみえる傾向等)を掲載 ②国保年金課窓口等にて健診等の周知案内配布 ③かかりつけ薬局の推奨やお薬手帳の活用について掲載								
実施状況評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	①掲載回数 (がんや生活習慣病、健診に関するコラムの掲載数)	目標値	3回以上	3回以上	3回以上	3回以上	3回以上	3回以上	3回以上
		実績値	3回	7回	7回				
		達成状況	100%	100%	100%				
	①掲載内容(健康づくりや生活習慣病予防に関連した内容)	内容	禁煙週間・がん検診・子どものおやつ・メタボリックシンドローム	禁煙週間・がん検診・子宮頸がん、乳がん検診・生活習慣病予防・飲酒・ロコモ予防・野菜の摂取	禁煙週間・がん検診・子宮頸がん、乳がん検診・血糖値と血圧・飲酒・正月太り解消・幼児期・学童期の間食				
	②案内配布枚数	目標値	500枚以上	500枚以上	500枚以上	500枚以上	500枚以上	500枚以上	500枚以上
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
	③実施状況	目標値	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している
		実績値	ホームページにて実施	ホームページにて実施	ホームページにて実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	(1)「生活習慣病予防のために健康的な生活習慣に改めたい」と回答する市民の増加 H29年度中間評価 52.6%→現状値より増加(H34年度最終評価)	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	52.60%	—	—	—	—	—	—
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
(2)「過去1年間に健康診断(がん検診を含む)を受けた」と回答する市民の増加 H29年度中間評価 77.2%→現状値より増加(H34年度最終評価)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	
	実績値	77.20%	—	—	—	—	—	—	
	達成状況	—	—	—	—	—	—	—	
(3)メタボリックシンドローム認知度の増加 H29年度中間評価50.2%→H34年度最終評価100%	目標値	—	—	—	—	—	100%	—	
	実績値	50.20%	—	—	—	—	—	—	
	達成状況	—	—	—	—	—	—	—	
(4)ロコモティブシンドローム認知度の増加 H29年度中間評価70.8%→H34年度最終評価80%	目標値	—	—	—	—	—	80%	—	
	実績値	70.8%	—	—	—	—	—	—	
	達成状況	—	—	—	—	—	—	—	
(5)COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の増加 H29年度中間評価52.2%→H34年度最終評価80%	目標値	—	—	—	—	—	—	—	
	実績値	52.2%	—	—	—	—	—	—	
	達成状況	—	—	—	—	—	—	—	
評価・結果				中間達成度		最終達成度			
H30年度第二期計画から、広報掲載コラム数を増やし、健康に関する知識の普及に努めることができた。ロコモティブシンドロームとCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度に関しては、まだまだ認知度が低い。				A					
課題・今後の方向性	今後も広報等で健康に関する知識の普及に努めていく。ロコモティブシンドロームとCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度に関しては目標値に及ばないため、事業等でとりあげ認知度向上を目指していく。								

事業評価表

No.2

事業名	講演会・イベント	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	健康意識の向上								
対象者	市民								
実施計画	①医師講話(健康関連) ②医師講話(こころの健康) ③薬剤師講話 ④健康福祉フェア(健康まつり)								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	①年度に1回開催	目標値	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催
		実績値	実施	実施	実施				
		参加人数	108人	126人	86人				
		内容	CKDってなに？	糖尿病・糖尿病性腎症ってなに？	子宮頸がんと女性特有の病気				
		達成状況	達成	達成	達成				
	②年度に1回開催	目標値	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催
		実績値	実施	実施	実施				
		参加人数	76人	82人	67人				
		内容	ストレスとの上手なつきあい方	こころの病とその予防	こころの病とその予防				
		達成状況	達成	達成	達成				
	③年度に1回開催	目標値	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催
		実績値	実施	実施	実施				
		参加人数	41人	40人	50人				
		内容	お薬との上手なつきあい方	薬の常識あれ・これ	高血圧の薬のアレ・コレ？				
		達成状況	達成	達成	達成				
	④年度に1回開催 ※H30年度までは健康福祉フェア内で開催していたが、R1年度から健康まつり単体での実施となった。	目標値	年度に1回開催	年度に1回開催	年度に1回開催	新型コロナウイルス感染症のためR2年度以降の開催は見合わせる			
		実績値	実施	実施	実施				
		参加人数	1,122人	1,368人	548人※				
		達成状況	達成	達成	達成				
アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
(1)「がん検診を受診する市民の増加」H29年度中間評価 胃25.3%、大腸40.0%、子宮18.6%、乳16.5%、肺50.8%、前立腺16.2% ↓ 平成34年度最終評価 胃40%、大腸50%、子宮50%、乳50%、肺52%、前立腺50%以上	目標値	※受診率は各がん検診を参照							
	実績値								
	達成状況								
(2)「ストレスをおおいに感じる市民の減少」 H29年度中間評価21.0%→H34年度最終評価20%以下	目標値	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	
	実績値	19%	18%	18%					
	達成状況	100%	100%	100%					
①満足度<参加者アンケート> 全体の満足度 満足+まあ満足	目標値	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	
	実績値	96%	97%	92%					
	達成状況	107.9%	109.9%	103.4%					
②満足度<参加者アンケート> 全体の満足度 満足+まあ満足	目標値	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	
	実績値	86.8%	86.8%	87.7%					
	達成状況	97.5%	97.5%	98.5%					
③満足度<参加者アンケート> 全体の満足度 満足+まあ満足	目標値	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	89%以上	
	実績値	76%	84.8%	91.1%					
	達成状況	85.4%	95.3%	102.4%					

	④満足度<参加者アンケート>	目標値	80%以上	80%以上	80%以上	新型コロナウイルス感染症のためR2年度以降の開催は見合わせる			
		実績値	80%	74.4%	70.6%				
		達成状況	100%	93%	88.3%				
	評価・結果	講話の参加率が目標値に対して大幅に達していないため、広報等を用いて市民に講話の存在を広く知ってもらう必要があると考える。講話の満足度に関しては、高い達成状況が維持できているため、今後も満足度の高い講話を継続して実施していきたい。			中間達成度				最終達成度
課題・今後の方向性	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施方法を工夫しながらも、市民の健康意識を向上させることができるよう、継続して各事業を実施していく。 その時々の方情に合わせた市民の興味が高い内容の講話を実施し、参加者数を増やしていく。								

事業評価表

No.3

事業名	めたぼうし体操の普及活動	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
目的	子どもから大人まで気軽楽しくからだを動かせる体操を啓発し、健康づくりに役立てる。								
対象者	市民								
実施計画	保健推進員活動、健康まつり、保育園、学校等で普及								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	めたぼうし体操実施事業	目標値	4つ以上	4つ以上	4つ以上	4つ以上	4つ以上	4つ以上	4つ以上
		実績値	5つ	5つ	5つ				
		達成状況	100%	100%	100%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	運動習慣の向上 第2次いきいき瀬戸21計画 (1)「仕事以外で日ごろ意識的に運動している市民の増加」	目標値	—	—	—	—	—	50%以上	
		実績値	47.6%	—	—	—	—		
		達成状況	—	—	—	—	—		
	評価・結果				中間達成度			最終達成度	
	毎年健康課の各事業でめたぼうし体操を行い、参加者の方々に体操を楽しんでいただいている。 また、市民の方から地域の活動で実施したいという声もきかれ、映像媒体の貸し出しも行っており、市の事業だけでなく、地域住民の自主的な活動内でも普及ができています。				A				
課題・今後の方向性	今後も健康づくりに関する事業で体操を取り入れ、めたぼうし体操の普及と気軽にできる健康づくりの啓発に努めていく。								

事業評価表

No.4

事業名	せと健康マイレージ	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
目的	市民自らが主体的に楽しみながら気軽に健康づくりに取り組むことができるよう応援する。								
対象者	①せと健康マイレージ:3歳以上で市内在住、在勤、在学の者 ②せとKIDSけんこうマイレージ:3歳以上小学6年生までで市内在住、在園、在学の者								
実施計画	・健康づくりに取り組むことでポイントをため、一定以上のポイント獲得者には愛知県の発行する「愛知健康づくり応援カード(まいか)」を交付 ・①に参加したまいか交付者を応募者とし年度末に記念品の抽選を実施。								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	①参加人数 (平成29年度より事業開始)	目標値	-	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数
		実績値	137人	252人	292人				
		達成状況	-	達成	達成				
	②参加人数 (令和元年度より事業開始)	目標値	-	-	-	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数	前年度実績を上回る参加人数
		実績値	-	-	116人				
		達成状況	-	-	-				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	(1)「生活習慣病予防のために健康的な生活習慣に改めたい」と回答する市民の増加 H29年度中間評価 52.6%→現状値より増加 (H34年度最終評価)	目標値	—	—	—	—	—		
		実績値	52.6%	—	—	—	—		
達成状況		—	—	—	—	—			
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
事業開始初年度である平成29年度から徐々に事業の認知が進み、参加者数は増加している。				A					
課題・今後の方向性	市民それぞれが年齢等や生活に合わせて気軽に参加できるように、令和2年度からはアプリでも事業展開中。インセンティブを活用して関心や意欲を高め、参加者数を増加させることが課題。								

事業評価表

No.5

事業名	保健推進員活動		担当課	健康課					
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
目的	健康意識の向上								
対象者	市民								
実施計画	保健推進員活動 スローガンを掲げ、20地区にて活動展開								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	参加人数	目標値	延5,700人	延5,700人	延5,700人	延5,700人	延5,700人	延5,700人	
		実績値	延4,443人	延6,694人	延5,831人				
		達成状況	77.9%	117.4%	102.3%				
	実施内容 (地区活動の実施回数の計)	目標値	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回
		実績値	108回	106回	115回				
		達成状況	108%	106%	115%				
	骨密度測定の全地区実施	目標値	—	—	—	—	全地区実施	全地区実施	全地区実施
		実施地区数	—	—	—	—			
		実施者数	—	—	—	—			
		達成状況	—	—	—	—			
	ウォーキングと体操の全地区実施	目標値	—	—	—	—	全地区実施	全地区実施	全地区実施
		実施地区数	—	—	—	—			
		実施者数	—	—	—	—			
		達成状況	—	—	—	—			
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	(6)「1週間に2回以上、1回30分の運動習慣がある市民の増加」 H29年度中間評価40.2%→H34最終評価45%以上	目標値	—	—	—	—	—	45%以上	
実績値		40.2%	—	—	—	—			
達成状況		—	—	—	—	—			
(4)ロコモティブシンドローム認知度の増加 H29年度中間評価70.8%→H34年度最終評価80%	目標値	—	—	—	—	—	80%		
	実績値	70.8%	—	—	—	—			
	達成状況	—	—	—	—	—			
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
保健推進員活動は保健推進員が企画・運営する事業に加え地域の自治会等で開催される運動会やまつりに参加することで延参加者数は平均5,500人以上であり、目標はほぼ達成していると考え。保健推進員活動が開始され20年以上経過し、地域に保健推進員の名前や活動が浸透してきたものと考えられる。				A					
課題・今後の方向性	地域力を十分に発揮し、地域の健康課題を自ら解決していくためには、保健推進員の資質向上とともに自治会等の地区組織との更なる連携強化が必要である。								

事業評価表

No.6

事業名	健康づくり食生活改善推進員活動	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
目的	健康意識の向上								
対象者	市民								
実施計画	健康づくり食生活改善推進員活動 スローガンを掲げ、健康教室(年間7回実施、健康まつり)にて活動展開								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	参加人数	目標値	延5,100人	延5,100人	延2,550人	延2,550人	延2,550人	延2,550人	
		実績値	延5,013人	延4,701人	延2,598人				
		達成状況	98.3%	92.2%	101.9%				
	調理実習 (メタボ予防、減塩、糖尿病予防、血液サラサラ等、年間7回の実施)	目標値	7回	7回	7回	7回	7回	7回	7回
		実績値	7回	7回	7回				
		達成状況	100%	100%	100%				
	健康づくり食生活改善推進員が実施する調理実習の参加率(当該年度/定員)	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	80.1%	83.3%	94.5%				
		達成状況	80.1%	83.3%	94.5%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	「自分にとって適切な食事内容・量を知っている市民の増加」 H29年度中間評価60.8%→H34年度最終評価62%以上	目標値		62.0%	62.0%	62.0%	62.0%	62.0%	
		実績値	60.8%	56.4%	55.8%				
		達成状況		91.0%	90.0%				
	参加者のアンケート結果による満足度、意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
実績値		100%	100%	100%					
達成状況		100%	100%	100%					
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
食生活改善推進員が協力する事業(調理実習)の参加率は年々上がっており、アンケートによる評価も満足度が高いことが伺えた。しかし、「自分にとって適切な食事内容・量を知っている市民の増加」については意識の高い調理実習参加者においても目標値には届いていないことがわかった。				A					
課題・今後の方向性	「自分にとって適切な食事内容・量を知っている市民の増加」を達成し、疾病や重症化を予防するためにも「栄養バランス皿や健康茶わん、栄養バランスシート」の配布、さまざまな健康教育の機会に市民へさらに周知していく必要がある。								

事業評価表

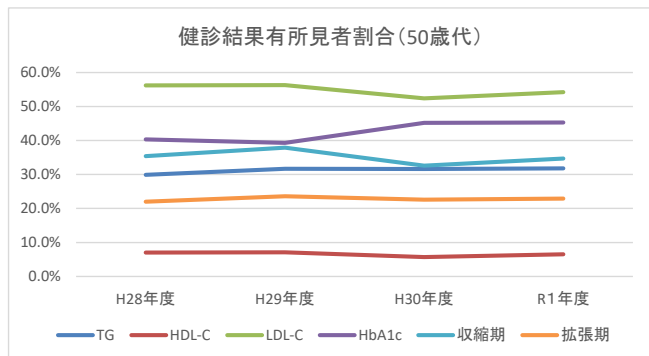
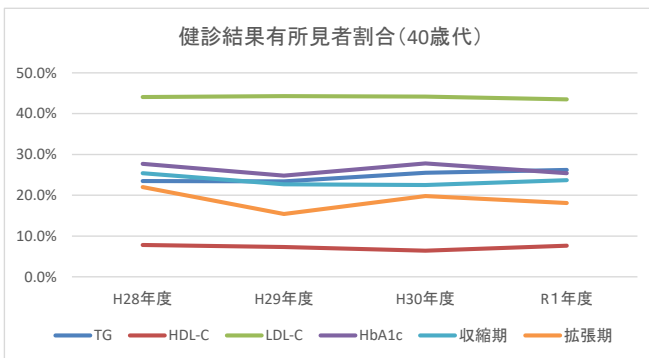
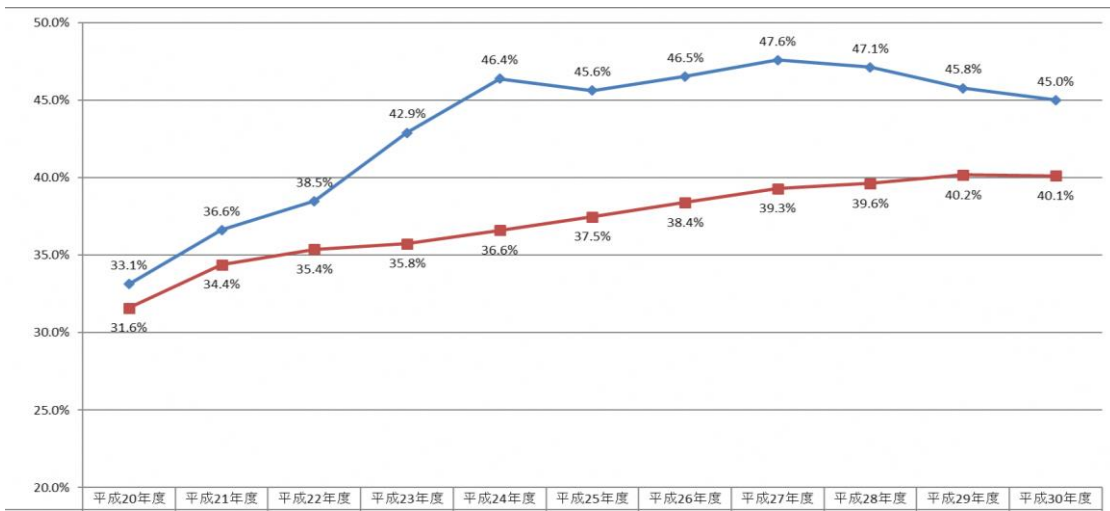
No.7

事業名	せといいき健康グルメ	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	1 高血圧・糖尿病・がん予防のポピュレーションアプローチの強化								
目的	適切な食事量やバランスを知る機会を増やすため、健康メニューを提供する飲食店を認定し、外食においても健康的な食事が出来る環境づくりを行う。								
対象者	市民								
実施計画	・健康メニューを提供する市内飲食店を募集する。 ・認定基準を満たしたメニューを提供するお店を「せといいき健康グルメ認定メニュー提供店」とし市民に周知するとともに、多くの方に利用してもらえよう働きかけを行う。								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	店舗数	目標値							
		実績値		4	5				
		達成状況							
	認定メニュー数	目標値							
		実績値		4	5				
		達成状況							
	利用者数	目標値							
		実績値		586	687				
		達成状況							
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	「自分にとって適切な食事内容・量を知っている市民の増加」 H29年度中間評価60.8%→H34年度最終評価62%以上	目標値							
実績値									
達成状況									
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
店舗数、認定メニュー数、利用者数ともに前年を上回ることができおり、外食における食生活改善を意識する機会が増加していると思われる。				B					
課題・今後の方向性	瀬戸市内に飲食店が少ないこともあり、認定メニュー提供店舗数が頭打ちになることが予想される。多くの人に長く利用してもらうためには同じ提供店の中でメニューの見直しや追加も視野に入れる必要がある。								

事業評価表

No.8

事業名	特定健康診査	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	生活習慣病早期発見、健康意識の向上								
対象者	40歳以上の被保険者								
実施計画	6月から10月 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	特定健診受診率(47.1%:H28値)	目標値	—	50%	52%	54%	56%	58%	60%
		実績値	45.8%	45.0%	—				
		達成状況	—	90.0%	—				
	新規加入者に随時受診券送付	目標値	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
		実績値	682通	657通	737通				
		達成状況	達成	達成	達成				
	新規介入送付者の受診率	目標値	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%
		実績値	21.8%	18.7%	17.1%				
		達成状況	72.7%	62.3%	57.0%				
	他健診結果把握数(依頼対象者の6割以上)	目標値	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%
		実績値	90.3%	75.0%	91.7%				
		達成状況	150.50%	125.0%	152.8%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	メタボ該当者率の減少 H28年度19.0%(現状値)	目標値	18.7%	18.4%	18.1%				
		実績値	18.8%	19.5%	—				
		達成状況	100.5%	106.0%	—				
	健診結果有所見(血糖・血圧・脂質)の重複割合の減少 H28年度6.5%(現状値)	目標値	6.3%	6.1%	5.9%				
		実績値	5.9%	6.4%	6.7%				
		達成状況							
健診結果有所見割合の減少<H28 40代(現状値)> TG 23.5%、HDL-C 7.8%、LDL-C 44.1%、HbA1c 27.7% 収縮期血圧 25.4%、拡張期血圧 16.7%→ 前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値								
	実績値	グラフ参照							
	達成状況								
<H28 50代(現状値)> TG 29.9%、HDL-C 7.0%、LDL-C 56.2%、HbA1c 40.3% 収縮期血圧 35.4%、拡張期血圧 22.0%→ 前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値								
	実績値	グラフ参照							
	達成状況								
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
健診受診率は低下しており、目標値との差が広がっている。 健診結果の有所見者は、40歳代では各項目で年度毎の違いはあるが、横ばいで推移している。 50歳代ではHbA1cが増加傾向である。 重複割合も増加している。				C					
課題・今後の方向性	積極的な受診勧奨と、健診未受診者アンケートの実施により、原因と対策を実施していく。 健診結果有所見者割合の増加が見られ、生活習慣病の保健指導の必要性を改めて感じる。								



事業評価表

No.9

事業名	瀬戸市国保生活習慣病予防健康診査(短期人間ドック)	担当課	国保年金課							
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる									
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化									
	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施									
目的	30歳代の被保険者の健康意識向上と生活習慣病の早期発見									
対象者	30歳代の被保険者									
実施計画	6月から10月(一部を除く)業務委託									
実施状況 評価等	アウトプット			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	基本健康診査受診率(10.9%・H29値) 前年度+1%	目標値	—	11.9%	11.8%	15.3%				
		実績値	10.9%	10.8%	14.3%					
		達成状況	—	90.8%	110.9%					
	アウトカム			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	○健診結果有所見者率の減少 H29年度 30.5%	目標値	—	32.6%	32.1%					
		実績値	30.5%	43.8%	41.4%					
		達成状況	—	134.4%	129.0%					
	評価・結果					中間達成度				最終達成度
	短期人間ドックの受診率はH29年度と比較すると受診率は増加している。 しかし、健診結果の有所見者もH29年度と比較し増加している。					B				
課題・今後の方向性	健診受診率は今後も増加していくよう、受診勧奨を継続して実施していく。 有所見者の内容把握が出来ていないため、所見内容よっての対策を検討したい。									

事業評価表

No.10

事業名	特定健康診査受診率向上対策(勸奨事業)	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	特定健診受診率向上、未受診理由の把握、健診結果提供依頼								
対象者	①受診率の低い40～50歳代 ②過去の連続受診歴がない者への送付 ③過去2年間の他健診受診結果提供者								
実施計画	・対象に合わせた内容の勸奨ハガキの送付 ・他健診受診者へ結果提供依頼通知の送付								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率の低い40～50歳代へ 勸奨ハガキの送付	目標値	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
		実績値	4,973通	3,766通	4,696通				
		達成状況	達成	達成	達成				
	過去の連続受診歴がない者へ 勸奨ハガキの送付	目標値	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
		実績値	2,586通	2,660通	3,724通				
		達成状況	達成	達成	達成				
	他健診受診者へ 結果提供依頼通知の送付	目標値	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
		実績値	31通中28通	20通中15通	12通中11通				
		達成状況	達成	達成	達成				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	40歳代の受診率の向上 H28年度 40代 24.7%	目標値	25.7%	24.2%	23.7%				
		実績値	23.2%	22.7%	21.2%				
		達成状況	90.3%	93.8%	89.5%				
	50歳代の受診率の向上 H28年度 50代33.6%	目標値	33.6%	33.5%	34.1%				
		実績値	32.5%	33.1%	31.6%				
		達成状況	96.7%	98.8%	92.7%				
	過去の連続受診歴がない者への 勸奨ハガキの送付による受診率	目標値							
		実績値	4.6%	3.8%	4.5%				
		達成状況							
特定健診受診率の向上 H28年度 47.1%(現状値)	目標値	—	50%	52%	54%	56%	58%	60%	
	実績値	45.8%	45.0%	—					
	達成状況	—	90.0%	—					
評価・結果				中間達成度					最終達成度
①若い世代への受診勸奨は20～30%の受診率があり、今後も勸奨を続ける。 ②過去に連続受診歴がない者の受診率は4%前後である。 ③結果提供も減少している。				B					
課題・今後の方向性	健診受診率が年々減少しているため、勸奨を積極的に実施していく必要がある。 他健診の結果提供依頼数を増やすため、R1年度に未受診アンケートと一緒に結果提供依頼をした。返送があった者へはR2年度送付していくため、他健診の結果提供者を増やしていく。								

事業評価表

No.11

事業名	生活習慣病予防健康診査(短期人間ドック)受診率向上対策	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	30歳代の被保険者の健康意識向上と生活習慣病の早期発見								
対象者	30歳代の被保険者								
実施計画	・健診中間期において受診勧奨ハガキの送付								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	新規受診者割合の増加(44.5%:H28値)	目標値							
		実績値							
		達成状況							
	受診勧奨ハガキの送付	目標値	30歳・35歳	30歳・35歳・39歳	30歳代				
		実績値	263通	445通	1,259通				
		達成状況							
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	基本健康診査受診率の向上 H29年度 10.9%(現状値)	目標値	—	11.9%	11.8%	15.3%			
		実績値	10.9%	10.8%	14.3%				
達成状況		—	90.8%	110.9%					
評価・結果					中間達成度			最終達成度	
受診勧奨者を増やしたところ、令和元年度の受診率が増加した。 また令和2年度より基本健診分の自己負担金を1,000円から無料に変更した。					B				
課題・今後の方向性	今後も継続して受診勧奨を実施する。								

事業評価表

No.12

事業名	歯科事業	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	歯科疾患を早期発見し、適切な治療と予防により歯の喪失を防ぐ。								
対象者	①歯科節目健康診査(30,35,40,45,50,55,60,65,70歳の市民) ②歯周病予防健康診査(20歳以上の市民) ③二十歳の健口診査(20歳になる市民)								
実施計画	①6月から12月 業務委託 ②2歳歯科健診と同時実施(24回/年) ③受診券発行時から2月末まで 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	歯科節目健康診査 受診者数	目標値	750人	750人	750人	750人	550人	550人	550人
		実績値	354人	437人	356人				
		達成状況	47.2%	58.3%	47.5%				
	歯周病予防健康診査にて歯 科健診を受診できる機会があ る	目標値	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
	二十歳の健口診査 受診者数	目標値	100人	100人	100人	100人	100人	100人	100人
		実績値	77人	75人	87人				
		達成状況	77.0%	75.0%	87.0%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	う蝕者の減少 H29年度34.6%(現状値) ↓ 現状値よりも改善した結果(H35年)	目標値	—	—	—	—	—		
		実績値	34.5%	—	—	—	—		
		達成状況	—	—	—	—	—		
	定期的に歯科健診を受ける市民 の増加	目標値	—	—	—	—	—	30%以上	
実績値		36.5%	—	—	—	—			
達成状況		—	—	—	—	—			
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
各種健診受診者数は例年ほぼ横ばいで推移している。				C					
課題・今後の方向性	歯科定期受診者の中には健診を利用していない者も見受けられるが、歯科を定期受診者の人数把握が困難。健診・受診いづれにおいても歯科のフォローを受けていない市民を把握する方法を検討し、特に健診受診動員に注力すべき対象の絞り込みを行っていく必要があると考えられる。								

事業評価表

No.13

事業名	女性の健康診査	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	疾病の早期発見、適切な治療につなげる。								
対象者	職域等で健康診査を受診する機会のない30歳代の女性、かつ瀬戸市国民健康保険加入者でない者								
実施計画	業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率	目標値	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上
		実績値	8.6%	8.5%	9.8%				
		達成状況	86.0%	85.0%	98.0%				
	健康教育参加率(女性の健診止血待合時に実施) H30(糖について、がん検診について) R1(手ばかり栄養法、乳がん自己検診法について)	目標値	-	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	-	100.0%	100.0%				
		達成状況	-	100.0%	100.0%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	○健診結果の医療・精密検査結果	目標値	/	/	/	/	未把握率 5%以下	未把握率 5%以下	未把握率 5%以下
		実績値	/	/	/	/			
		達成状況	/	/	/	/			
	○健診結果有所見者率の減少 H29年度46.9%(現状値) →前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値	53.1%	46.9%	44.1%				
		実績値	46.9%	44.1%	49.6%				
		達成状況	100.0%	100.0%	88.9%				
	評価・結果				中間達成度				最終達成度
受診率が徐々に増加していることから、広報や個別通知等を利用して市民に本事業が徐々に認知され始めているということが分かる。 健診結果有所見者率の減少に関してR1年度目標値を達成できなかったことから、疾病予防のために生活習慣の改善が重要であるという事を市民に伝えていかなければいけないと考える。				A					
課題・今後の方向性	多くの市民が疾病の早期発見につながる機会を得るためにも個別通知等を利用し受診者数を増やしていく。 また疾病の予防という観点で、健康教育の実施を継続して行い、対象者の生活習慣改善につなげて疾病にかかりにくい身体づくりができるよう知識の普及も行っていく。								

事業評価表

No.14

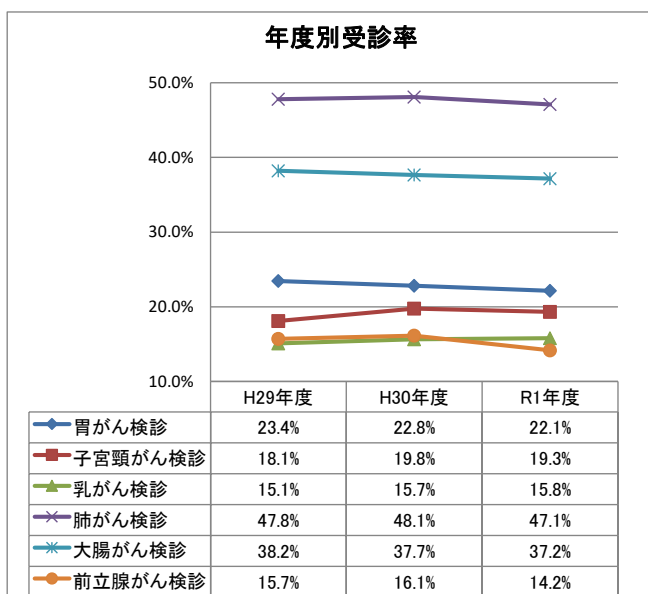
事業名	がん検診(1)がん検診受診率向上対策	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。								
対象者	(1)市民(該当市民)								
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する広報記事を掲載 ・検診アンケートの実施 ・精密検査未受診者への受診勧奨通知の送付 								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	掲載回数、内容	目標値	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
		実績値	3回	3回	3回				
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
	勧奨及び再勧奨の実施回数	目標値	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
		実績値	2回	2回	2回				
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
	受診率 各種がん検診受診率向上 →各がん検診で評価	目標値							
		実績値							
		達成状況							
	精検未受診者アンケート送付者数	目標値							
		実績値	202	128	183				
		達成状況							
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
各種がん検診ごとに設定	目標値	各がん検診で評価							
	実績値								
	達成状況								
評価・結果					中間達成度				最終達成度
<p>組織型検診の成果を出すための条件、①アセスメント(正しい検診)②マネジメント(正しい体制)③受診率対策(高い受診率)3つを達成してはじめてがん死亡率の減少を達成できる。</p> <p>受診率向上のため、個別の受診券の通知、広報への掲載はできている。</p> <p>また、プロセス指標の未受診率、未把握率の減少に向けての対策としては、まずは未把握率の減少に力を入れて実施しており、一定の効果はでているものと考えられる。</p>					B				
課題・今後の方向性	受診率が伸び悩んでいるため、現在の方策に合わせて効果的な受診勧奨・再勧奨の方法に力を入れる必要があると考える。プロセス指標については、未受診率減少のための方策に取り組む必要があると考える。								

事業評価表

No.15

事業名	がん検診(2)がん検診精度管理	担当課	健康課							
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる									
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化									
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。									
対象者	(2)がん検診事業評価検討委員									
実施計画	・がん検診事業評価検討委員会を開催									
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	会議実施 年1回開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	
		実績値	1回	1回	1回※					
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%					
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	事業評価における主要指標を許容値内 (毎年評価)	目標値	各がん検診で評価							
		実績値								
達成状況										
評価・結果					中間達成度				最終達成度	
がん検診事業評価検討委員会は年1回開催され専門医の医師等から精度の高い検診を維持できるよう関係機関で意見交換をしている。					B					
課題・今後の方向性	今後も継続する。 なかなかすすんでいない医療機関別チェックリストの導入について提案していきたい。									

(1) 受診率

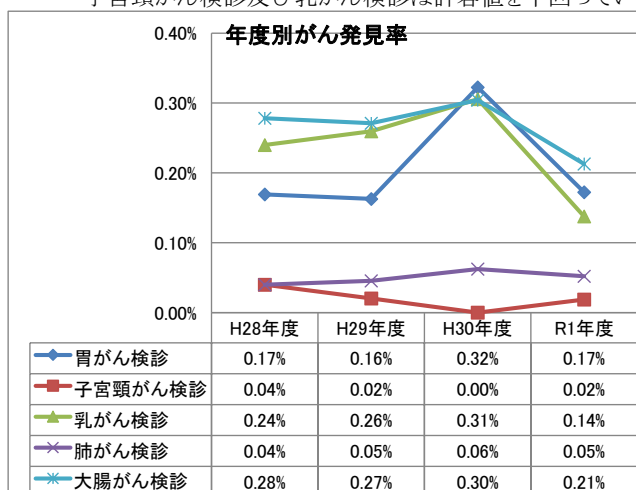


<参考>

受診率	県(H30)	許容値
胃がん検診	9.5%	—
子宮頸がん検診	9.7%	—
乳がん検診	9.4%	—
肺がん検診	19.3%	—
大腸がん検診	17.0%	—

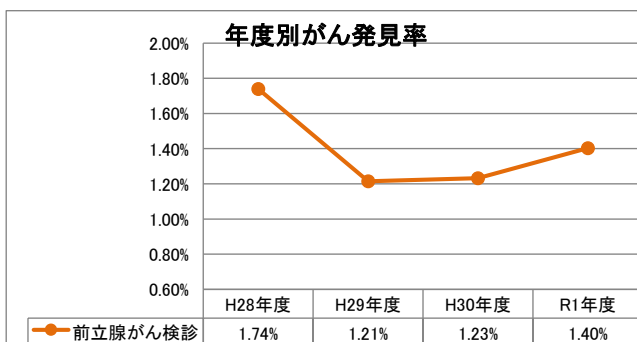
(2) がん発見率

・子宮頸がん検診及び乳がん検診は許容値を下回っている。



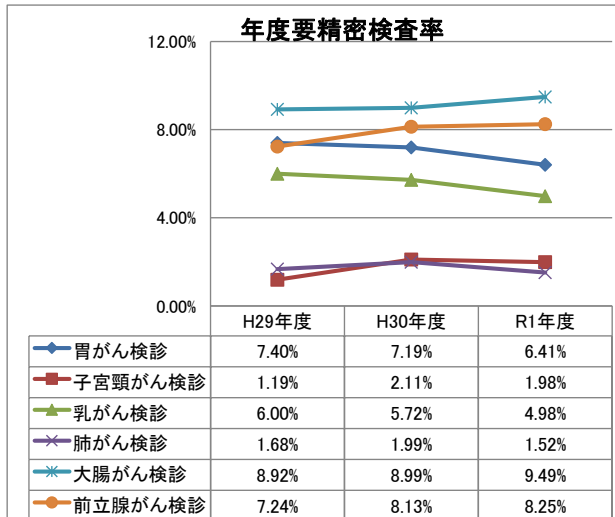
<参考>

がん発見率	県(H30)	許容値
胃がん検診	0.168%	0.11%以上
子宮頸がん検診	0.020%	0.05%以上
乳がん検診	0.310%	0.23%以上
肺がん検診	0.047%	0.03%以上
大腸がん検診	0.218%	0.13%以上



(3) 要精密検査率

・子宮頸がん検診及び大腸がん検診が許容値を満たしていない。

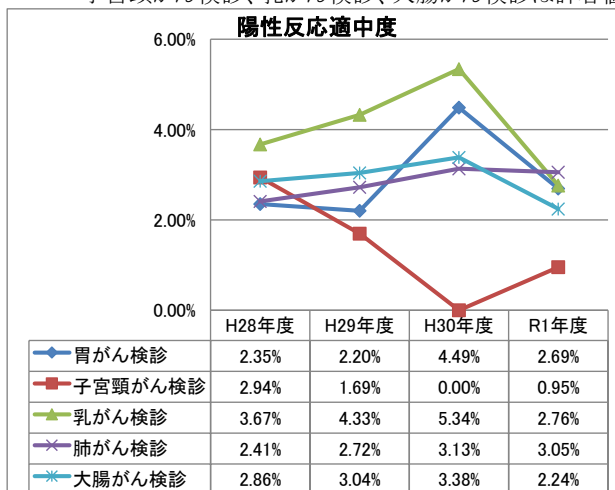


<参考>

要精密検査率	県(H29)	許容値
胃がん検診	8.5%	11.0%以下
子宮頸がん検診	1.7%	1.4%以下
乳がん検診	7.2%	11.0%以下
肺がん検診	1.6%	3.0%以下
大腸がん検診	8.2%	7.0%以下

(4) 陽性反応適中度

・子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診は許容値を満たしていない。



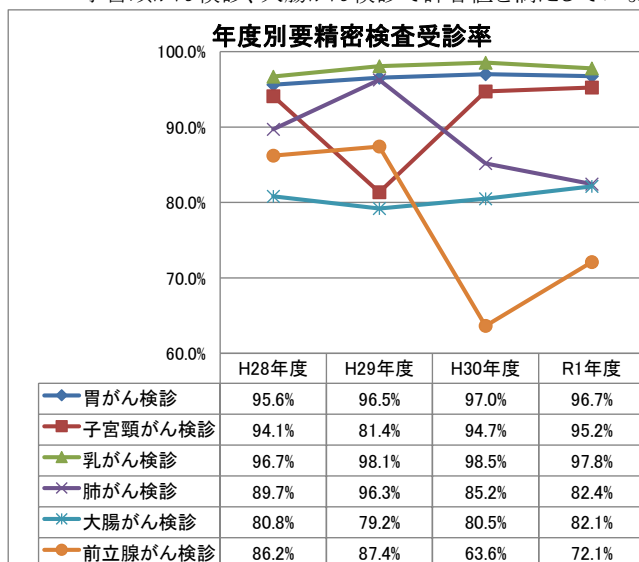
※陽性反応の適中度＝がん発見者／要精密検査者数×100

<参考>

陽性反応適中度	県(H29)	許容値
胃がん検診	1.97%	1.0%以上
子宮頸がん検診	1.34%	4.0%以上
乳がん検診	3.90%	2.5%以上
肺がん検診	3.13%	1.3%以上
大腸がん検診	2.86%	1.9%以上

(5) 精密検査受診率

・子宮頸がん検診、大腸がん検診で許容値を満たしていない。



<参考>

精密検査受診率	県(H29)	許容値
胃がん検診	81.5%	70%以上
子宮頸がん検診	73.2%	70%以上
乳がん検診	88.0%	80%以上
肺がん検診	83.5%	70%以上
大腸がん検診	69.7%	70%以上

事業評価表

No.16

事業名	がん検診(3)肺がん検診	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。								
対象者	(3)40歳以上の市民								
実施計画	6月から10月 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率50%以上	目標値	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上
		実績値	47.8%	48.1%	47.1%				
		達成状況	95.6%	96.2%	94.2%				
	精検受診率90%以上	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
		実績値	91.7%	82.1%	78.5%				
		達成状況	100%	91.2%	87.2%				
	未把握率5%以下	目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下
		実績値	0.6%	0.6%	0.7%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	未受診率5%以下	目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下
		実績値	7.6%	16.0%	19.9%				
		達成状況	65.8%	31.3%	25.1%				
	要精検率3%以下	目標値	3%以下	3%以下	3%以下	3%以下	3%以下	3%以下	3%以下
		実績値	4.0%	4.6%	4.0%				
		達成状況	75%	65.2%	75%				
	がん発見率0.03%以上	目標値	0.03%以上	0.03%以上	0.03%以上	0.03%以上	0.03%以上	0.03%以上	0.03%以上
		実績値	0.05%	0.08%	0.05%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	陽性反応的中度1.3%以上	目標値	1.3%以上	1.3%以上	1.3%以上	1.3%以上	1.3%以上	1.3%以上	1.3%以上
実績値		3.0%	4.0%	3.4%					
	達成状況	100%	100%	100%					
アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
EBSMR(標準化死亡率)男性 109.7→100未満(H35年度直近値)	目標値	-	-	100未満	100未満	100未満	100未満	100未満	
	実績値	-	-	106.5					
	達成状況	-	-	93.9%					
EBSMR(標準化死亡率)女性 101.6(H23-27)→100未満(H36年度直近値)	目標値	-	-	100未満	100未満	100未満	100未満	100未満	
	実績値	-	-	101.6					
	達成状況	-	-	98.4%					
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
受診率は目標値を達成してはいるが、年々減少傾向。精検受診率も減少、それに伴い未受診率は増加している。未把握率は目標達成しており、精検結果の把握状況は良い。がん発見率と要精検率も目標達成しているが、要精検率は目標に達しておらず、今後も精度管理に努めていく必要がある。標準化死亡率に関しては男性はH23-27時点よりも減少。女性は横ばいであった。				B					
課題・今後の方向性	引き続き、個別通知、広報、ホームページなどで周知、再勧奨実施していく。健診の精度管理に関してはデータを医療機関にフィードバックし、検診精度を保てるようにしていく。								

事業評価表

No.17

事業名	がん検診(4)胃がん検診	担当課	健康課								
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる										
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化										
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。										
対象者	(4)40歳以上の市民										
実施計画	6月から10月 業務委託										
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	受診率40%以上		目標値	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	
			実績値	23.50%	22.80%	22.10%					
			達成状況	58.8%	57.0%	55.3%					
	X線	精検受診率90%以上		目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	
				実績値	95.9%	95.2%	94.1%				
				達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
		未把握率5%以下		目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	
				実績値	1.1%	1.9%	0.7%				
				達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
	未受診率5%以下		目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下		
			実績値	3.0%	2.6%	5.2%					
			達成状況	100.0%	100.0%	96.2%					
	要精検率11%以下		目標値	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下		
			実績値	5.4%	5.0%	4.9%					
			達成状況	100.0%	100.0%	100.0%					
	がん発見率0.11%以上		目標値	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上		
			実績値	0.13%	0.18%	0.10%					
			達成状況	100.0%	100.0%	90.9%					
	陽性反応的中度1.0%以上		目標値	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上		
			実績値	2.48%	3.54%	2.09%					
			達成状況	100.0%	100.0%	100.0%					
	内視鏡	精検受診率90%以上		目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	
				実績値	71.4%	98.3%	100.0%				
				達成状況	79.3%	100.0%	100.0%				
		未把握率5%以下		目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	
				実績値	2.6%	0.0%	0.0%				
				達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
未受診率5%以下		目標値	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下	5%以下			
		実績値	0.0%	1.7%	0.0%						
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%						
要精検率11%以下		目標値	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下			
		実績値	14.6%	13.6%	10.2%						
		達成状況	75.3%	80.9%	100.0%						
がん発見率0.11%以上		目標値	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上	0.11%以上			
		実績値	0.27%	0.70%	0.35%						
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%						
陽性反応的中度1.0%以上		目標値	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上	1.0%以上			
		実績値	1.82%	5.15%	3.43%						
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%						

アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
EBSMR(標準化死亡比)男性 92.7(H23-27)→92.7未満(R5年度直近値)	目標値	-	-	92.7未満	92.7未満	92.7未満	92.7未満	92.7未満
	実績値	-	-	100.0				
	達成状況	-	-	92.7%				
EBSMR(標準化死亡比)女性 94.3(H23-27)→94.3未満(R5年度直近値)	目標値	-	-	94.3未満	94.3未満	94.3未満	94.3未満	94.3未満
	実績値	-	-	107.4				
	達成状況	-	-	87.8%				
評価・結果				中間達成度				最終達成度
<p>胃がん検診の受診率の目標達成状況は6割弱で微減して推移している。より効果的な受診勧奨が必要であると考えられる。</p> <p>X線検査と内視鏡検査とにも共通して、精検受診率・未把握率・要精検率全てにおいてほぼ目標達成できている。要精検者へのフォロー体制は充足しているといえる。</p> <p>内視鏡検査における要精検率については、昨年度目標値を達成。内視鏡検査導入(平成28年度)から経年的に達成度が上昇していることから、検診精度の向上も推測できるが、一方で、がん発見率・陽性反応的中度はX線検査・内視鏡検査とも例年ほぼ達成できていることから、検診精度自体は維持されているといえる。</p>				B				
課題・今後の方向性	個別再勧奨通知等によって受診率を向上させる必要がある。							

事業評価表

No.18

事業名	がん検診(5)大腸がん検診	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。								
対象者	(5)40歳以上の市民								
実施計画	6月から10月 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率50%以上	目標値	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上
		実績値	38.2%	37.7%	37.2%				
		達成状況	76.4%	75.4%	74.4%				
	精検受診率90%以上	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
		実績値	79.0%	78.2%	82.1%				
		達成状況	87.8%	86.9%	91.2%				
	未把握率10%以下	目標値	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下	10%以下
		実績値	3.7%	0.6%	1.0%				
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
	未受診率20%以下	目標値	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下
		実績値	17.3%	18.9%	16.8%				
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
	要精検率7%以下	目標値	7.0%	7.0%	7.0%	7.0%	7.0%	7.0%	7.0%
		実績値	8.9%	9.0%	9.5%				
		達成状況	78.7%	77.8%	73.7%				
	がん発見率0.13%以上	目標値	0.13%以上	0.13%以上	0.13%以上	0.13%以上	0.13%以上	0.13%以上	0.13%以上
		実績値	0.3%	0.3%	0.2%				
		達成状況	100.0%	100.0%	100.0%				
	陽性反応的中度1.9%以上	目標値	1.9%以上	1.9%以上	1.9%以上	1.9%以上	1.9%以上	1.9%以上	1.9%以上
実績値		3.0%	3.3%	2.2%					
達成状況		100.0%	100.0%	100.0%					
アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
EBSMR(標準化死亡比)男性 97.8(H23-27)→97.8未満(H35年度直近値)	目標値	-	-	97.8未満					
	実績値	-	-	97.2					
	達成状況	-	-	100.0%					
EBSMR(標準化死亡比)女性 女102.4(H23-27)→100未満(H35年度直近値)	目標値	-	-	100未満					
	実績値	-	-	100.2					
	達成状況	-	-	99.8%					
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
受診率、精検受診率は目標値に達していないため今後上昇させていく必要がある。 未把握率、未受診率は目標値を達成しており、未把握・未受診者への受診勧奨等のフォローが効果的に実施できていることが分かった。 がん発見率、陽性反応的中度も目標達成しているが、要精検率は目標に達しておらず、今後も精度管理に努めていく必要がある。				B					
課題・今後の方向性	受診率、精検受診率が目標値に達していないことから、広報や個別通知を継続して実施し、工夫を施すなどして受診率の向上を目指す。 また、要精密検査と判定された方には精密検査の重要性を伝え、検査・適切な治療につなげていく。								

事業評価表

No.19

事業名	がん検診(6)子宮頸がん検診		担当課	健康課					
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。								
対象者	(6)20歳以上の女性(2年に1回)ただし40～59歳(毎年)								
実施計画	6月から10月 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率50%以上	目標値	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上
		実績値	18.10%	19.80%	19.30%				
		達成状況	36.2%	39.6%	38.6%				
	精検受診率90%以上	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
		実績値	81.40%	94.70%	95.20%				
		達成状況	90.40%	100%	100%				
	未把握率5%以下	目標値	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下
		実績値	15.30%	0.88%	1.90%				
		達成状況	32.70%	100%	100%				
	未受診率5.0%以下	目標値	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下
		実績値	0.00%	4.39%	2.86%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	がん発見率0.05%以上	目標値	0.05%以上	0.05%以上	0.05%以上	0.05%以上	0.05%以上	0.05%以上	0.05%以上
		実績値	0.02%	0%	0%				
		達成状況	40.00%	0%	0%				
	陽性反応的中度4.0%以上	目標値	4.0%以上	4.0%以上	4.0%以上	4.0%以上	4.0%以上	4.0%以上	4.0%以上
		実績値	1.69%	0%	0%				
達成状況		42.30%	0%	0%					
要精検率1.4%以下	目標値	1.4%以下	1.4%以下	1.4%以下	1.4%以下	1.4%以下	1.4%以下	1.4%以下	
	実績値	1.19%	2.11%	1.98%					
	達成状況	100%	66.40%	70.70%					
アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
EBSMR(標準化死亡比) 129.8(H23-27)→100未満(H35年度直近値) ※子宮の悪性新生物のEBSMRは、H23-27の値の重みが推定不能のため、算出不能であったため、H22-26の値を使用した。	目標値	-	-	100未満	100未満	100未満	100未満	100未満	
	実績値	-	-	129.8					
	達成状況	-	-	77.0%					
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
受診率は目標に達していないため、今後も受診率向上にはたらしめていく必要がある。 精検受診率、未把握率は2年連続目標値を達成、未受診率は3年連続で目標値を達成したため、今後も継続していけるよう努めていく。 がん発見率、陽性反応的中度、要精検率は目標を達成していないため、がん検診の精度についても把握していく必要があると分かった。				B					
課題・今後の方向性	受診率が目標値に達していないことから、広報や個別通知等継続して実施し、市民に周知することで受診率の向上を目指す。 がん発見率、陽性反応的中度、要精検率を向上させるため、検診自体の精度管理についても把握・評価する必要があると考えられる。								

事業評価表

No.20

事業名	がん検診(7)乳がん検診	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。								
対象者	(7)40歳以上の女性(2年に1回)								
実施計画	6月から10月 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率50%以上	目標値	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上	50%以上
		実績値	15.10%	15.70%	15.80%				
		達成状況	30.2%	31.4%	31.6%				
	精検受診率90%以上	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
		実績値	98.10%	98.50%	97.80%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	未把握率5.0%以下	目標値	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下
		実績値	1.92%	0.97%	0.55%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	未受診率5.0%以下	目標値	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下	5.0%以下
		実績値	0%	0.49%	1.66%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	がん発見率0.23%以上	目標値	0.23%以上	0.23%以上	0.23%以上	0.23%以上	0.23%以上	0.23%以上	0.23%以上
		実績値	4.41%	5.42%	2.82%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	陽性反応の集中度2.5%以上	目標値	2.5%以上	2.5%以上	2.5%以上	2.5%以上	2.5%以上	2.5%以上	2.5%以上
		実績値	4.33%	5.34%	2.76%				
		達成状況	100%	100%	100%				
	要精検率11%以下	目標値	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下	11%以下
実績値		6.00%	5.70%	5.00%					
達成状況		100%	100%	100%					
アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
EBSMR(標準化死亡比) ※98.7(H22-26)→98.7未満(H35年度直近値) 乳房の悪性新生物のEBSMRは、H23-27の値が重みが推定不能のため算出不能であったため、H22-26の値を使用した。	目標値	-	-	98.7未満	98.7未満	98.7未満	98.7未満	98.7未満	
	実績値	-	-	94.9					
	達成状況	-	-	100%					
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
受診率は目標値を達成できていないため、引き続き受診率向上のためはたらきかける必要がある。 受診率以外の項目は目標値を達成することができたことから、未把握・未受診者への受診勧奨等のフォロー等が効果的に行えていることや、がん検診自体の精度が高く維持できていることが分かった。				B					
課題・今後の方向性	受診率向上をはかるため、引き続き広報や個別通知等で市民に周知し、受診行動につなげていく必要があると考えられた。 今後も、未把握者・未受診者へのフォローを行い、がんの早期発見・早期治療につなげていく。 また、がん検診の精度についても引き続き確認をしていく。								

事業評価表

No.21

事業名	がん検診(8)前立腺がん検診 ※指針外の検診であるため、実績値のみ把握	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	2 健(検)診の強化								
目的	がんを早期発見し、適切な治療によりがんの死亡を減少させる。								
対象者	(8)50歳以上の男性(3年に1回)								
実施計画	6月から10月 業務委託								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	受診率	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	15.70%	16.10%	14.20%				
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
	精検受診率	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	88.11%	72.73%	72.79%				
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
	未把握率	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	2.8	6.67	0				
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
	未受診率	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	9.09	20.6	27.21				
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
	要精検率	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	7.24	8.13	8.25				
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
	がん発見率	目標値	—	—	—	—	—	—	—
		実績値	1.21	1.23	1.4				
		達成状況	—	—	—	—	—	—	—
	陽性反応的中度	目標値	—	—	—	—	—	—	—
実績値		16.78	15.15	17.01					
達成状況		—	—	—	—	—	—	—	
アウトカム		H29年度 H23-27	H30年度 H24-28	R1年度 H25-29					
EBSMR(標準化死亡比)100未満 87.0(H23-27)→87.0未満(H35 年度直近値)	目標値	100未満	100未満	100未満					
	実績値	87	91	※重みが推定不能のため算出不能					
	達成状況	114.94%	109.90%						
評価・結果					中間達成度			最終達成度	
		指針外検診であるため、アウトプットの目標値は科学的根拠に基づいていない。(指針に基づくがん検診の値を参考にしている)			/			/	
課題・今後の方向性	国の指針に基づかない検診は実施しないよう指導されているため、対策型検診としての実施について見直す必要がある。								

事業評価表

No.22

事業名	健康教育(母子)	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	児童の現在及び将来にわたる生活習慣病予防としての日常生活習慣の形成を目的とする。								
対象者	肥満傾向で生活習慣病予防を必要とする小学校1～6年生児童と(その保護者)家族								
実施計画	児童生活習慣病予防教室(キッズ健康教室)※事業名、内容の変更あり								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	参加人数(児童の実人数)	目標値	30	30	30	コロナウイルス感染症のためR2年度以降の実施は見合わせ、別の方法を検討する。			
		実績値	16	24	14				
		達成状況	53.3%	80.0%	46.7%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	(8)「1日3回食事をとる児童の増加」 H29年度中間評価95.8%→H34年度最終評価96%以上	目標値	—	—	—	—	—	96%以上	
		実績値	95.8%	—	—	—	—		
		達成状況	—	—	—	—	—		
	(9)「毎日運動している小学生の増加」 H29年度中間評価46.4%→H34最終評価54%以上	目標値	—	—	—	—	—		
		実績値	46.4%	—	—	—	—		
		達成状況	—	—	—	—	—		
	(10)「肥満傾向にある子どもの割合の減少」 H29年度中間評価 男子8.0%女子7.1%→ H34年度最終評価 減少傾向へ	目標値	—	—	—	—	—		
		実績値:男	8.0%	—	—	—	—		
		実績値:女	7.1%	—	—	—	—		
	評価・結果					中間達成度			最終達成度
当教室は、毎年入札によって委託業者が選定されている。そのため、参加者へのアンケート内容、集計についても、業者によって変更されている。統一されたアンケートが実施ができていなかったため、指標として使用することができないと考える。					A			/	
課題・今後の方向性	R2年度はコロナのため中止。今後の教室開催は検討中。教室開催することを目的とせず、学童期の生活習慣の形成ができるような情報の周知方法を検討していく。								

事業評価表

No.23

事業名	健康相談	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	心身の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行い、家庭における健康管理に資する。								
対象者	市民(被保険者)								
実施計画	①健康よろず相談、スワサポ(禁煙相談) ②乳幼児健康相談 ③電話相談:随時 ④窓口相談:随時								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	①よろず相談・スワサポ相談の実施	目標値	実施する	実施する	実施する	実施する	実施する	実施する	実施する
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
		実施回数	月2回	月2回	月2回				
	実施人数	1,102(人)	1,141(人)	1,031(人)					
	②乳幼児健康相談の実施	目標値	実施する	実施する	実施する	実施する	実施する	実施する	実施する
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
		実施回数	月1回	月1回	月1回				
		実人数(乳児)	154	185					
		延人数(乳児)	326	388					
		実人数(幼児)	165	182					
	延人数(幼児)	466	532						
	③④被相談人数	目標値	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	(1)「自分の適正体重を認識し、体重コントロールしている」と回答する市民の増加 H29年度中間評価54.2% ↓ 目標値59%以上(H34年度最終評価)	目標値	—	—	—	—	—	59%以上	
		実績値	54.2%	—	—	—	—		
達成状況		—	—	—	—	—			
(2)「こころの不調を感じた時に、相談できる機会を知っている」市民の増加 H29年度中間評価39.3%→H34年度最終評価 増加傾向へ	目標値	—	—	—	—	—	39.3%以上		
	実績値	39.3%	—	—	—	—			
	達成状況	—	—	—	—	—			
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
<健康よろず相談・スワサポ(禁煙相談)> 達成状況は90%前後であった。今後も市民に積極的に周知し参加者を増やし、市民の健康をサポートしていく必要がある。 <乳幼児健康相談> 育児に対する保健指導・健診時のフォロー、健康情報の提供を行い、乳幼児の健やかな成長、発達を促すことを目的として実施している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度は当面の間実施を見合わせているが、本事業に対する乳幼児を育児する親からのニーズは高く、次年度以降の実施体制を検討していく必要があると考える。				A					
課題・今後の方向性	<健康よろず相談・スワサポ(禁煙相談)>今後も健康相談・スワサポ(禁煙相談)を継続し、市民にとって身近な相談場所となりつづける必要があると考えられる。 <乳幼児健康相談>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施体制を検討していく必要がある。								

事業評価表

No.24

事業名	健康教育(成人1:年齢別習慣別運動教室)		担当課	健康課					
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	①②運動に関する具体的な方法を学び、対象者の生活に取り入れ、健康な生活を送ることができる。 (①運動習慣づくりのための運動実技・健康講話(全8回)、②運動習慣継続のための運動実技・健康講話(全10回)) ③運動によるからだところの健康づくりを目的とする。 (③若年世代のための運動実技・健康講話(全6回))								
対象者	①40～69歳の市民 ②40～69歳の市民 ③20～49歳の市民								
実施計画	※目的、内容、回数の変更あり ①健康講話・運動実技(全8回) ②健康講話・運動実技(全10回) ③健康講話・運動実技(全6回)								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	①教室参加意欲 (参加申込者数-無断欠席数)/参加申込者数 H29(体内若返り教室)55人参加 H30(体内若返り教室)50人参加 R1(からだスッキリスマイル教室)46人参加	目標値 実績値 達成状況	100% 92.30% 92.30%	100% 98.30% 98.30%	100% 98.30% 98.30%	100%	100%	100%	100%
	②教室参加意欲 (参加申込者数-無断欠席数)/参加申込者数 H29(筋力アップ教室)35人参加 H30(筋力アップ教室)39人参加 R1(ロコモ予防教室)31人参加	目標値 実績値 達成状況	100% - -	100% - -	100% 98% 98%	100%	100%	100%	100%
	③教室参加意欲 (参加申込者数-無断欠席数)/参加申込者数 H29(女性のためのリフレッシュヨガ教室)39人参加 H30(女性のためのリフレッシュヨガ教室)39人参加 R1(女性のためのリフレッシュヨガ教室)40人参加	目標値 実績値 達成状況	100% - -	100% 91.0% 91.0%	100% 97.0% 97.0%	100%	100%	100%	100%
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	①体組成測定による筋肉量増加や体脂肪率の減少 →前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況	- 37%・54.3% -	37%・54.3% 47.8%・65.2% 100%・100%	47.8%・65.2% 56.4%・59% 100%・90.5%				
	②体組成測定による筋肉量増加や体脂肪率の減少 →前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況	- - -	- - -	- 53.8%・76.9% -				
	③参加者アンケートによる教室初回と最終回の主観的健康観の変化(ストレスチェック結果から) →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況	- - -	- 8.1% -	8.1% 10.3% 100.0%				
	①参加者アンケートによる満足度、意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況	100% 100% 100%	100% 97.30% 97.30%	97.30% 100% 100.0%				
	②参加者アンケートによる満足度、意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況	- - -	- - -	- 100% -				
	③参加者アンケートによる満足度 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況	100% 97.0% 97.0%	100% 95.0% 95.0%	100% 100.0% 100.0%				
	①参加者アンケートによる満足度 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況							
	②参加者アンケートによる満足度 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況							
	③参加者アンケートによる満足度 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況							
	①参加者アンケートによる運動の意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況							
	②参加者アンケートによる運動の意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値 実績値 達成状況							

③参加者アンケートによる運動の意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値									
	実績値									
	達成状況									
	メタボリックシンドロームの予防改善 (13)「1日平均30分以上歩く市民の増加」 H29年度中間評価50.3%→H34最終評価53%以上	目標値	—	—	—	—	—	53%		
	実績値	50.3%	—	—	—	—				
	達成状況	—	—	—	—	—				
評価・結果						中間達成度				最終達成度
40～69歳向けの健康教室に関して、参加率、体組成測定の結果ともに高い達成状況で推移しており、内容的にも満足度の高い教室が実施できていると考える。若年世代に向けた健康教育に関しては、参加率・満足度ともに高い達成度を維持しており、教室終了後、以前より健康になったと感じている人が増加していることから、内容的にも充実している教室だと考える。						B				
課題・今後の方向性	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施方法を工夫しながらも、各教室を継続して実施し市民の健康づくりにつなげる。教室自体の内容や教室実施時に行う健康教育等の内容は年度ごとに見直しを行い疾病予防に努める。									

事業評価表

No.25

事業名	健康教育(成人2:食事・栄養関連教室)	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	生活習慣病予防・改善のための栄養教室								
対象者	市民								
実施計画	栄養講話・調理実習(全3回)								
実施状況 評価等	アウトプット	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	教室参加意欲 (参加者数+欠席連絡数)/定員	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	97.9%	95.6%	100%				
		達成状況	97.9%	95.6%	100%				
	アウトカム	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	参加者アンケートによる満足度、意識変化 →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%	100%	98.8%				
		達成状況	100%	100%	98.8%				
	〇メタボリックシンドロームの予防改善 (14)「BMI25以上の肥満の市民の減少」 H29年度中間評価16.6%→H34最終評価 13%以下	目標値	—	—	—	—	—	13%以下	
		実績値	16.6%	—	—	—	—		
		達成状況	—	—	—	—	—		
	「自分にとって適切な食事内容・量を知っている市民の増加」 H29年度中間評価60.8%→H34年度最終評価62%以上	目標値	—	62.0%	62.0%	62.0%	62.0%	62.0%	
		実績値	60.8%	56.4%	55.8%				
		達成状況	—	91.0%	90.0%				
	評価・結果				中間達成度		最終達成度		
調理実習への参加意欲はどの年度も高く、また内容についての満足度も高い結果であった。				A					
課題・今後の方向性	今後も瀬戸市における疾病や重症化を予防を考慮しながら、市民のニーズにもあったテーマで実施していく。								

事業評価表

No.26

事業名	健康教育(成人3:外部依頼による健康教室)		担当課	健康課					
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	依頼先が希望する健康知識の普及を目的とする。								
対象者	市民								
実施計画	依頼時対応								
実施状況評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	依頼時対応できる (年度に1度以上実施)	目標値	実施できる	実施できる	実施できる	実施できる	実施できる	実施できる	実施できる
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
	実施状況	実績値	261人	158人	330人				
		実施回数	18回	19回	13回				
		依頼先	スリムアップ講座・古瀬戸公民館・仕事ノアル暮らし・社会福祉法人樹の里・立正佼成会・東明地区社協・瀬戸高校	古瀬戸公民館・社会福祉法人樹の里・国保特定保健指導・仕事ノアル暮らし・社会福祉法人樹の里・立正佼成会・東明地区社協・水北なかよし会・瀬戸工業高校	古瀬戸公民館・下品野地域力向上協議会・老人憩いの家・シルバー人材センター・西陵地区社協・国保年金課・まちづくり協議会・西陵シニアクラブ第二健生会・スリムアップ講座・瀬戸高校				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	○メタボリックシンドロームの予防改善 第2次いきいき瀬戸21計画 (3)「メタボリックシンドローム認知度の増加」 (再掲) H29年度中間評価50.2%→H34最終評価100%	目標値	—	—	—	—	—	100%	
		実績値	50.2%	—	—	—	—		
		達成状況	—	—	—	—	—		
	○ロコモティブシンドローム認知度増加 (再掲) →前年度の結果を上回る結果(毎年評価)	目標値	66.6%	70.8%	78.1%				
		実績値	70.8%	78.1%	69.6%				
		達成状況	100%	100%	89.10%				
	評価・結果				中間達成度				最終達成度
外部からの健康教育の依頼に対して、市民のニーズに沿った健康教育を実施することができた。毎年300人以上の方に受講いただき、子どもから高齢者まで幅広い市民の方々に生活習慣病や運動・栄養など健康に関する知識の普及啓発に努めることができた。				A					
課題・今後の方向性	今後も依頼に応じて健康教育を実施していく。講師派遣ができることを周知し外部依頼健康教育の認知度も上げていけると良い。 合わせてロコモティブシンドロームについての知識の普及にも努めていく。								

事業評価表

No.27

事業名	学童期生活習慣病対策健診事業	担当課	健康課									
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる											
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施											
目的	疾病の予防と早期発見											
対象者	市内小学校の5年生(複式学級の場合は、5・6年生)											
実施計画	学童期生活習慣病対策健診事業 市内小学校に身体計測、血液検査実施											
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	実施校数	目標値	20	19	20	新型コロナウイルス感染症のためR2年度以降の実施は見合わせ、別の方法を検討する。						
		実績値	17	17	20							
		達成状況	85.0%	89.5%	100.0%							
	採血検査実施児童の割合 (採血実施人数/対象者数)	目標値	—	—	—							
		実績値	80.6%	80.6%	75.4%							
		達成状況	—	—	—							
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	血液検査結果有所見者率の減少 H29年度21.5%→H35年度20.0%	目標値				新型コロナウイルス感染症のためR2年度以降の実施は見合わせ、別の方法を検討する。						
		実績値	21.5%	24.6%	23.4%							
		達成状況										
	評価・結果				中間達成度							
採血実施は、保護者の判断にて実施している。採血を希望しない理由は、「必要としない」という理由だけでなく、持病があり定期的に採血を実施している等の理由が考えられる。また、当日の体調不良等により採血を見合わせる場合もある。そのため、採血実施児童に関して、目標値を設定することは難しいと考える。また、有所見率については、毎年対象児童が違うことから、学校全体で継続的な保健指導が行われなければ、有所見率の減少は難しいと考える。				B								
課題・今後の方向性	新型コロナウイルス感染症を鑑み、令和2年度以降実施方法を検討中である。 大学コンソ事業にて学童期の生活習慣形成に必要なデータを分析し、小学校に還元できるよう考えていく。											

事業評価表

No.28

事業名	訪問指導	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	1 自分の健康状態を知ることができる								
保健事業の5つの柱	3 性・年代に応じた生活習慣改善支援の実施								
目的	家庭訪問により、生活習慣病予防に関する保健指導を行い、健康の保持増進を図る。								
対象者	訪問指導が必要と思われる市民(特定保健指導未利用者、個別指導者、じん肺検診未受診者 等)								
実施計画	訪問指導が必要と思われる市民(特定保健指導未利用者、個別指導者、じん肺検診未受診者 等)への訪問実施								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	訪問体制がある	目標値	体制あり	体制あり	体制あり	体制あり	体制あり	体制あり	体制あり
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
		訪問件数	162	136	159				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	保健指導による肯定的な反応54.2%以上	目標値	-	54.2%以上	54.2%以上	54.2%以上	54.2%以上	54.2%以上	54.2%以上
		実績値	54.2%	55.30%	57.80%				
		達成状況	-	100.0%	100.0%				
	(11)「自分の適正体重を認識し、体重コントロールしている」と回答する市民の増加 H29年度中間評価54.2% ↓ 目標値59%以上(H34年度最終評価)	目標値	—	—	—	—	—	59%以上	
実績値		54.2%	—	—	—	—			
達成状況		—	—	—	—	—			
評価・結果					中間達成度				最終達成度
訪問件数は、目標値を超えることができなかったため今後も積極的に訪問指導を実施していく必要がある。保健指導による肯定的な反応では、目標値を達成することができた。保健指導によって、自身の健康の保持・増進に関心を持っている者が増加したと考えられる。					A				
課題・今後の方向性	訪問件数を今後も増やし、教室に参加できるよう促す必要があると考えられた。また、今後も保健指導による肯定的な反応を得られることができるよう、訪問や電話によって積極的にはたらきかける必要がある。								

事業評価表

No.29

事業名	減塩プロジェクト 減塩のための栄養指導教室	担当課	健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	4 重症化予防対策の実施								
目的	対象者が生活習慣を振り返り行動目標を設定及び実践し、支援終了後にもその生活が継続できること。								
対象者	基準該当者 収縮期血圧130mmHg以上かつ医師の判断で「高血圧というコメントが存在する方」								
実施計画	・減塩個別教室(栄養指導) 全6回実施								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	教室参加率	目標値	8%	4%	/				
		実績値	8人	19人					
		達成状況	40.0%	95.0%					
	個別指導出席率	目標値	95%	95%					
		実績値	37名	113名					
		達成状況	77%	99%					
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	塩分チェック表を実施した者の改善結果 (毎年評価)	目標値			/				
		実績値	50.0%	100%					
		達成状況	100.0%	68.0%					
	減塩に関する意欲調査(毎年評価)	目標値	100.0%	100.0%					
実績値		75.0%	100%						
達成状況		100%	100%						
評価・結果					中間達成度				最終達成度
高血圧症予防のための減塩には食事の見直しが大きく関与してくることから、管理栄養士の目線で塩分を見える化するための測定や調査を実施し、6回の教室で参加者の意識を改善することにつなげることができた。					B				
課題・今後の方向性	減塩のための栄養指導教室は平成28年度から平成30年度の3か年をもって完了とする。								

事業評価表

No.30

事業名	特定保健指導(動機付け支援)	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	4 重症化予防対策の実施								
目的	対象者が生活習慣を振り返り行動目標を設定及び実践し、支援終了後にもその生活が継続できること								
対象者	特定健診結果の基準該当者								
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・業務委託 ・結果未着者について医療機関へ勧奨 ・説明会等で依頼 								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	動機付け支援利用率 ※瀬戸市国民健康保険特定健康診査等 実施計画における目標値とした。	目標値		28%	34%	42%	50%	56%	62%
		実績値	43.1%	40.2%	—				
		達成状況			—				
	終了率 ※瀬戸市国民健康保険特定健康診査等 実施計画における目標値とした。	目標値		36.1%	43.9%				
		実績値	35.6%	38.9%	—				
		達成状況			—				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	特定保健指導該当者の減少率の向上 H28年度19.5%→ 前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善
		実績値	20.0%	19.1%	—				
		達成状況	102.6%	95.5%	—				
	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率の向上 H28年度21.7%→ 前年度の結果を改善する結果(毎年評価)	目標値	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善
		実績値	23.5%	22.9%	—				
		達成状況	108.3%	97.4%	—				
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
健診受診率の低下とともに、特定保健指導の利用率も低下している。しかし終了率は増加が見られた。 特定保健指導該当者は横ばいの状況である。				B					
課題・今後の方向性	瀬戸旭医師会の協力のもと、動機付け支援が積極的に実施されている。 特定保健指導の該当者を減らせるよう生活習慣の保健指導を実施していく。								

事業評価表

No.31

事業名	特定保健指導(積極的支援)	担当課	国保年金課・健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	4 重症化予防対策の実施								
目的	対象者が生活習慣を振り返り行動目標を設定及び実践し、支援終了後にもその生活が継続できること								
対象者	基準該当者								
実施計画	・健康課と委託業者により実施9回の教室で500P以上のプログラム								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	積極的支援利用率 ※瀬戸市国民健康保険特定健康診査等実施計画における目標値とした。	目標値	—	16%	20%	25%	30%	40%	50%
		実績値	13.1%	8.8%	9.9%				
		達成状況	—	55.0%	49.5%				
	終了率 ※瀬戸市国民健康保険特定健康診査等実施計画における目標値とした。	目標値	—	15.7%	9.4%				
		実績値	10.7%	4.4%	—				
		達成状況	—	28.0%	—				
	生活、意欲等の質的变化 (目標の主観的な変化:達成できた+まあまあ達成できた)	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	82.9%	88.2%	—				
		達成状況	82.9%	88.2%	—				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	特定保健指導該当者の減少率の向上H28年度19.5%→前年度の結果を改善する結果(毎年評価)再掲	目標値	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善
		実績値	20.0%	19.1%	—				
		達成状況	102.6%	95.5%	—				
	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率の向上H28年度21.7%→前年度の結果を改善する結果(毎年評価)再掲	目標値	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善	前年度の結果を改善
実績値		23.5%	22.9%	—					
達成状況		108.3%	97.4%	—					
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
積極的支援の利用率は減少傾向にあり、終了率も低下している。				C					
課題・今後の方向性	動機づけ・積極的支援ともに特定保健指導の対象者を減らしていくことが必要と考える。								

事業評価表

No.32

事業名	重症化予防事業(早期介入保健指導)	担当課	国保年金課							
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる									
保健事業の5つの柱	4 重症化予防対策の実施									
目的										
対象者	・生活習慣病予防健康診査受診者のうち基本健康診査で要観察以上の者 ・特定健康診査及び生活習慣病予防健康診査の結果で保健指導該当値に血糖と血圧と脂質のうち2項目以上該当かつ運動習慣のない者									
実施計画	①保健指導パンフレットの送付 ②健康教室の開催年12回									
実施状況評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①生活習慣病予防健康診査受診者のうち基本健康診査で要観察以上の者に指導パンフレット送付	目標値	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
		実績値	62人	81人	92人					
		達成状況	達成	達成	達成					
	②教室参加率	目標値	20%以上	20%以上	20%以上	コロナウイルス感染症のためR2年度の実施は見合わせ、今後は別の方法を検討する。				
		実績値	20.2%	13.3%	11.8%					
		達成状況	101.0	66.5	59.0					
	②教室平均出席率	参加者数	21人	17人	20人	コロナウイルス感染症のためR3年度の実施は見合わせ、今後は別の方法を検討する。				
		実績値	16.0人	12.7人	16.0人					
		達成状況	76.2%	74.7%	80.0%					
アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
②教室参加者の翌年度の健診結果維持・改善率80%以上(血糖、血圧、脂質)(毎年評価)	目標値	80%以上	80%以上	80%以上	コロナウイルス感染症のためR3年度の実施は見合わせ、今後は別の方法を検討する。					
	実績値	—	92.8%	—						
	達成状況	—	116.0%	—						
評価・結果				中間達成度				最終達成度		
②200人弱の対象者へ教室案内し、1割の参加がある。定員を設け、安全に実施する必要があるため、参加者数を増やすことは難しい。毎回の教室では80%の出席率があり、参加者は意欲的に参加していることがわかった。翌年の健診結果の改善にもつながっている。				B						
課題・今後の方向性	②効果はあるが、健康課の教室に参加している人と重なる。健康課の教室と合同開催を検討していけると良いと考える。									

事業評価表

No.33

事業名	糖尿病性腎症重症化予防事業(受診勧奨事業)	担当課	国保年金課・健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	4 重症化予防対策の実施								
目的	瀬戸旭医師会と連携し、糖尿病の重症度や医療機関の受診状況等に応じて、適切な情報提供、受診勧奨、保健指導を行うことにより、生活習慣の改善や医療機関の治療に結びつけ、糖尿病による重症化のリスクの高い者に対して腎不全、人工透析への移行を防止する。								
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度健診で血糖・尿蛋白が基準値以上＋過去糖尿病治療なし＋糖尿病治療中でない ・当該年度健診で血糖が基準値以上＋過去糖尿病治療あり＋当該年度糖尿病治療なし ・当該年度健診で血糖が基準値以上＋過去健診でHbA1cが基準値以上＋当該年度糖尿病治療なし 								
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課と協働で対象者を訪問し受診勧奨を実施 ・医療機関との連携により、受診結果を把握 								
実施状況評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	勧奨による受診率(H30とR1で対象者数の把握方法が違うので注意が必要)	目標値	—	30%以上	30%以上	30%以上	30%以上	30%以上	30%以上
		対象者数	—	8人	56人				
		受診割合	—	50.0%	55.4%				
		達成状況	—	166.7%	184.7%				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	翌年度の対象者数の減少(毎年評価)	目標値	—	—	—	56人			
		実績値	—	—	56人				
		達成状況	—	—	—				
	透析新規移行者の減少	目標値	—	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績値	12人	20人	20人				
		達成状況	—	増加	横ばい				
評価・結果				中間達成度		最終達成度			
対象者の把握方法が違うが、受診勧奨を実施することで50%の受診が確認される。				B					
課題・今後の方向性	継続して実施し、透析新規移行者を減少させていきたい。								

事業評価表

No.34

事業名	糖尿病性腎症重症化予防事業(保健指導事業)	担当課	国保年金課・健康課						
市民(被保険者)のあるべき姿	2 疾病発症や重症化予防につながる行動ができる								
保健事業の5つの柱	4 重症化予防対策の実施								
目的	瀬戸旭医師会と連携し、糖尿病の重症度や医療機関の受診状況等に応じて、適切な情報提供、受診勧奨、保健指導を行うことにより、生活習慣の改善や医療機関の治療に結びつけ、糖尿病による重症化のリスクの高い者に対して腎不全、人工透析への移行を防止する。								
対象者	国保資格を有し、40歳以上75歳未満で、病期が第2期～第3期に該当する者								
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課と協働で医療機関から提供された対象者の保健指導を実施(6か月間) ・医療機関との連携により、対象者の情報交換を実施 								
実施状況評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	保健指導実施数	目標値	-	実施	実施	実施	実施	実施	実施
		実績値	-	3人	6人				
		達成状況	-	達成	達成				
	検査結果の維持・改善 (血圧、HbA1c、脂質、体重、尿蛋白、クレアチニン、 eGFR)(毎年評価)	目標値	-						
		実績値	-		下記参照				
		達成状況	-						
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	透析新規移行者の減少(再掲)	目標値	-	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績値	12人	20人	20人				
達成状況		-	増加	横ばい					
評価・結果					中間達成度			最終達成度	
保健指導実施前後で改善がみられる。					B				
課題・今後の方向性	保健指導の紹介により実施数が左右される。実施者数を増やすことが課題である。								

H30	対象	性別	年齢	腎症病期	検査値	紹介時	直近	評価	総合評価
A	女	53	2期	随時血糖	—	—	—	—	改善
				HbA1c	8	6.6	改善		
				GA	—	—	—		
				eGFR	100	110	維持		
B	女	71	3期	随時血糖	—	—	—	—	悪化
				HbA1c	—	11	—		
				GA	21.1	31.6	悪化		
				eGFR	58.6	55.1	悪化		
C	男	69	2期	随時血糖	130	96	改善	改善	
				HbA1c	7.3	6.8	改善		
				GA	—	—	—		
				eGFR	64.1	62.3	維持		

R1	対象	性別	年齢	腎症病期	検査値	紹介時	直近	評価	総合評価
A	男	73	2期	随時血糖	171	—	—	—	維持
				HbA1c	6.7	6.6	維持		
				eGFR	85	—	—		
B	女	69	3期	随時血糖	183	301	悪化	維持	
				HbA1c	10.9	9.5	改善		
				eGFR	60	56.6	維持		
C	女	72	1期	随時血糖	130	120	改善	改善	
				HbA1c	6.4	6.4	維持		
				eGFR	63.3	—	—		
D	女	69	2期	随時血糖	155	127	改善	改善	
				HbA1c	8.1	7.7	改善		
				eGFR	69	64	—		
E	男	70	3期	随時血糖	170	—	—	改善	
				HbA1c	9	8.2	改善		
				eGFR	36	43.4	改善		
F	男	69	2期	随時血糖	130	144	悪化	改善	
				HbA1c	7.3	6.3	改善		
				eGFR	64.1	75.5	改善		

事業評価表

No.35

事業名	ジェネリック医薬品知識普及、差額通知	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	5 医療費適正化対策								
目的	年々増加する保険給付費対策として先発医薬品に比べ低廉な価格ながら同等な効き目が期待できるジェネリック医薬品の啓発を行い、医療費の適正化を図る。								
対象者	被保険者								
実施計画	・保険証更新・交付時にジェネリック医薬品希望シール配布 ・差額通知年2回送付								
実施状況 評価等	アウトプット	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	シール発行数	目標値	—	実施している	—	実施している	—	実施している	—
		実績値	—	実施	—	実施	—	—	—
		発行数	—	15,961	—	15,089	—	—	—
		達成状況	—	達成	—	達成	—	—	—
	差額通知書発送の実施	目標値	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している
		実績値	実施	実施	実施	—	—	—	—
		通知回数	2回	2回	2回	—	—	—	—
		通知数	1,862	957	709	—	—	—	—
		達成状況	達成	達成	達成	—	—	—	—
	アウトカム	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	差額通知送付後の切り替え人数割合の20%以上の増加(毎年評価)	目標値	20%以上	20%以上	20%以上	20%以上	20%以上	20%以上	20%以上
		実績値	33.7%	22.6%	11.5%	—	—	—	—
		達成状況	達成	達成	未達成	—	—	—	—
	効果額50万円以上(毎年評価) (切り替えにより削減された医療費)	目標値	50万円以上	50万円以上	50万円以上	50万円以上	50万円以上	50万円以上	50万円以上
実績値		322万円	220万円	57万円	—	—	—	—	
達成状況		達成	達成	達成	—	—	—	—	
評価・結果				中間達成度	—	—	—	最終達成度	
差額通知の発送は年2回だが、発送数はH29:1,862人、H30:957人、R1:709人と減っている。 差額通知発送後の切り替え率も減少し、効果額も減っている。				C	—	—	—	—	
課題・今後の方向性	努力支援においてもポイントが獲得できず、医療費適正化において課題である。								

事業評価表

No.36

事業名	医療費通知	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	5 医療費適正化対策								
目的	保険料を有効に使うためひとりひとりが適正な保険診療を受けるためのものとして、総医療費や受診内容を被保険者に正しく知らせる。								
対象者	被保険者								
実施計画	・医療費通知を年6回発送								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	医療費通知書発送の実施	目標値	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している	実施している
		実績値	実施	実施	実施				
		通知回数	6回	6回	6回				
		通知数	83,389	80,928	78,367				
	達成状況	達成	達成	達成					
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標値							
		実績値							
		達成状況							
		目標値							
		実績値							
		達成状況							
		目標値							
		実績値							
達成状況									
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
年6回通知を実施している。被保数の減少により医療費通知の発送数は減っている可能性がある。				B					
課題・今後の方向性	引き続き実施し、周知していく。								

事業評価表

No.37

事業名	重複多受診者保健指導	担当課	国保年金課						
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	5 医療費適正化対策								
目的	重複多受診者の健康の保持増進と医療費の適正化を図る。								
対象者	重複多受診者のうち、同薬剤重複処方者								
実施計画	重複多受診者への通知および保健指導								
実施状況評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	保健指導実施率	目標値			100%	100%	100%	100%	100%
		実績値			対象者1人に家庭訪問を実施				
		達成状況			3回程家庭訪問を実施したが、不在で会えず。				
	指導後の診療状況の変化	目標値			重複多受診の改善				
		実績値			家庭訪問後レセプト状況確認し、多剤併用の改善確認				
		達成状況			達成度				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標値							
		実績値							
		達成状況							
	評価・結果				中間達成度				最終達成度
	重複多受診のみならず、対象者に合った保健指導を実施していく。				B				
	課題・今後の方向性	保健指導の実施により改善を目指す。							

事業評価表

No.38

事業名	健康保険制度・適正受診の周知		担当課	国保年金課					
市民(被保険者)のあるべき姿	3 健康や社会保障制度に関心を持つことができる								
保健事業の5つの柱	5 医療費適正化対策								
目的									
対象者	市職員・市民に対し、国保窓口・あらゆる機会において、制度の周知をはかる								
実施計画	・国保窓口等においてパンフレット・啓発グッズの配布 ・イベント、健康教育時にミニ講話の実施								
実施状況 評価等	アウトプット		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	パンフレット等配布数 (広報折込:国保の手引き)	目標値	1500部以上	1500部以上	1500部以上	1500部以上	1500部以上	1500部以上	1500部以上
		実績値	53,200	53,200	53,200				
		達成状況	達成	達成	達成				
	問い合わせ件数	目標値	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応	随時対応
		実績値	実施	実施	実施				
		達成状況	達成	達成	達成				
	アウトカム		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標値							
		実績値							
		達成状況							
		目標値							
		実績値							
		達成状況							
		目標値							
実績値									
達成状況									
評価・結果				中間達成度				最終達成度	
広報折込による国保の制度を案内し、周知している。保健事業との関連性の周知が今後も必要と考える。				A					
課題・今後の方向性	今後も継続して実施し、制度の周知・理解に努める。								

瀬戸市国民健康保険データヘルス計画（第2期計画）中間評価

令和3年3月

発行元 瀬戸市健康福祉部国保年金課

〒489-8701 愛知県瀬戸市追分町64番地の1

電話 0561-88-2639（直通）